京城日報

創刊十五周年

題辭

我が京城日…ぬ。回顧す…するもの、且つ在留…人…難の聲を揚ぐるものあり。統監伊藤公深く我が大方針の徹底せざるを遺憾とし、有力なる新聞紙に依りて其の缺漏を補はんとの計畫を立て、當時邦人の經營する二新聞（漢城新報、大東日報）を買收し、新に一社を組織し、伊東祐侃氏をして經營の局に當らしめ、躬ら之を命名して『京城日報』といへり。又別に英字新聞セウルプレスを發刊し、頭本元貞氏をして之を主宰せしめ、兩々相扶けて、保護政治の方針を中外に宣明せしめたり。是時に當り京城に於て發行する新聞紙の數頗る多く、險危の筆を弄するもの間々之ありしと雖も、是等のものは其の勢力漸次に衰へ、曾禰子を經て寺内伯が統監たるに及び、或は廢刊し、或は賣却し、或ものは法に觸れて禁止せられ、次第に言論界の廓清を見るに至れり。吾人は常に其間に立ち、韓民の誤解を正し、中外の疑惑を釋き、我が國策の遂行に貢獻せんと期したるはいふまでもなく、普通新聞紙としての機關も漸次に具備したるを以て、短き期間に於いて、割合に長足の進運を示したり。明治四十三年日韓併合の實行せらるゝや、我社も亦時代に順應するがために、多少の組織を更めたるが、根本的の主義主張は毫も變移する所なく、更に一歩の活躍を進めたり。蓋し伊藤統監時代に於ける『日韓一家』なる標語は、即ち寺内統監時代に於ける『内鮮融合』の標語にして、言葉の形こそ異なれ、其の趣旨に何等の逕庭あることなく、且つ朝鮮が帝國の版圖に入り、其の臣民が盡く天皇の赤子となりたる以上は、一視同仁の大御心を體し、更に一層の努力を爲さゞるべからざる、固より當然の歸結なるを以てなり。爾來歲を閱すること八九年、總督府の施設漸く歩を進め、產業、交通、教育、衛生、司法、警察、税務の諸機關、盡く面目を一新し、之を舊韓國時代に比すれば、截然として隔世の感あるは、内外人の齊しく認むる所にして、新附の民として此の如き惠澤に浴するもの、古今東西幾くもあることなし。鮮人中の心あるもの、其の同胞民族の將來の發達に屬望する決して少からざりき。吾人の微力なる、此の文化の曙光に對して敢て裨益する所ありしを自負する能はざるも、聊か犬馬の勞を致したることだけは、大方の承認を吝まざる所なるべし。

人世の行路、常に坦蕩々たるを得ず、世海の波瀾、時に甚だ險惡なるものあるは、古今の通觀なり。世界大動亂の終末に當り、各國の民心を襲ひたる動搖不安は、端なく此土にも波及し、所謂獨立騷擾なるものを演出するに至り、諂言飛語、到る處に人心を蠱惑し、爲に施政の沮滯を來たすことも少からず。爾來一年有半を通じて、各種の出來事次第に起り、全體の風潮ますます惡化せんとするの兆あり。思ふに此の如きの現象は、彼の流行性感冒と同じく、世界的の流行惡疫にして、一朝一夕にして終熄すべきものにあらず、又之を撲滅せんがために過激なる手段を執るは、却つて病毒を激するの虞あり、要は最善の防遏方法を施し、時機の來りて漸滅に就くを待たざるべからずと雖も、吾人の立場として、飽まで其の盤根錯節を解くの責務あるを信じ、訓誨啓蒙に言葉の數を盡し、韓迷開悟の指示に終始怠らざりしことは、讀者の夙に諒とせらるゝ所なるべし。前にもいへる如く吾人は決して鮮人を敵視するものにあらず、親愛し、融合し、同化して帝國の基礎を固め、同時に民人（鮮人を含むは勿論）の福履を增加し、其の發達を促し、以て東洋の和平を永く維持せんとするものにして、殆ど他意を交ふるなし。吾人は思ふ、是れ帝國が建國以來の國是にして、子孫萬世に亘りて渝ふべからざる所のものなりと。所謂日韓一家内鮮融合なる標語は、近時に現はれたるものに相違なきも、其の事實は遠く上代に存し、吾人の祖先は實に實踐躬行を以て範を後世に貽したるものにして、吾人は今に迨びて之を承遂し、以て濟美の結果を得んと欲するに過ぎざるのみ。吾人の過去は僅々十有五年に過ぎずと雖も、其の前途は汪洋として大海を望むが如し。庶幾くは此の國是を以て唯一の指針と爲し、勇往邁進して、寸刻も怠るなからんことを。況や時局の險艱は、吾人をして益々其の責任の重きを感知せしむるをや。

顧つて吾人が過去十五年の經過を按ずるに、時に不時の災禍に罹り、經營上の打擊を受けたることありと雖も、概するに順當の發達を遂げ、以て今日に至りたるは、一面時世の必要に應じたるものあるに由ると雖も、一面讀者諸彥が眷顧の渥きに歸せざるを得ず。吾人は實に我社發行の新聞紙を私するを避け、汎く之を讀者の公共機關と爲し、諸彥の意思を伸張するあらんことを期す。若夫吾人にして言の至らざる所あり、事を報ずるの及ばざる所あらば、願くは忠言を吝まるゝなかれ。之を記念號の題辭と爲す。

發行兼編輯人　奥田直毅
印刷人　小川三之介
京城太平通一丁目
發行所　合資會社京城日報社
電話番號長六千九番一長六千九番二　振替京城二〇〇

植民地に於ける新聞紙の使命

男爵　目賀田種太郎氏談

我國が世界に於ける後進國たるにも拘はらず長足の進歩を以て偉大の發展を遂げたるは一方時勢機共に都合好き立場にあつた事による。けれども國民全般に亘る當の努力を爲した事も亦大に與つて力ある次第である今此の國民が努力せざるを得ざりし原因を顧るに蓋し其の土地の狹い割合に人口の

增加率が多い

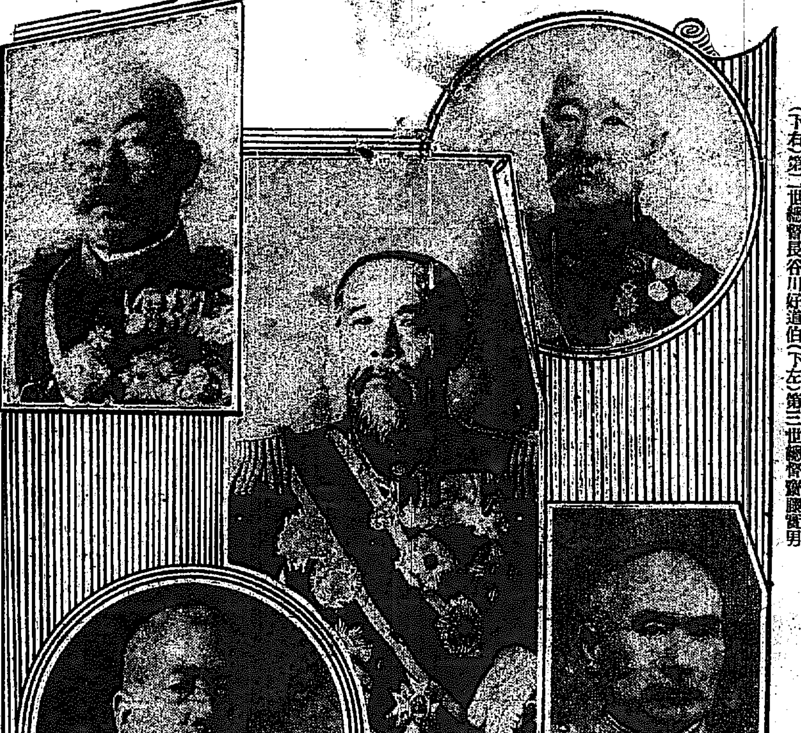
爲めに生活の問題が急激に起つて來た爲めに自ら大なる努力を爲さざるを得ざる事となつたのである是は實に我國勢の發展の原動力を爲して居るのである然るに目下内地に於ては食料自給をなし得ざる迄に人口が增加したので歐米の先進國の如く植民地を得る必要を感じて來たのである故に我國の植民地要求は民族生存上實に止むを得ざるに出でた者で決して單に領土的野心とか軍國主義の實行とか云ふ如き出發點から出た者ではない實に國家として萬止むを得ざるに出た手段である朝鮮滿洲の如き新領土及び植民地に就ても他列强のそれとは趣を異にしてゐるから其邊は移住者も當局も大に注意を要するであらうそれに就ては植民地に於ける新聞紙の責任は

重大なる者が

ある新聞紙にして誤れる宣傳を行ふことがあれば植民地の治績に非常なる影響を來す事となる内地に於ては各々反對の意見を戰はすが政治的訓練となる事であるけれども植民地では官民共に相理解して歩調を一にする必要がある而して植民地に於ける新聞の方針は朝鮮の如き所に於ては舊政府時代に比して併合後如何に政治が改善されたかを徹底して宣傳する事が第一である第二に朝鮮人が讀み易いやうに新政の意義を諺文を以て宣傳する事である第三には彼の朝鮮に於ける舊來の習慣の中最も善美なる風習を特に賞揚する必要がある是は其國の在來の良風を賞揚するのは統治國が正義人道を重んずる事を知らしむる所以である此の三つは植民地新領土に於ける

新聞紙の執る

べき最も重要なる手段であると思ふ更に又植民地に於ては凡ての政策を實行するに權威と斷行の二つを缺いでは要領を得る者ではない朝鮮に於て温情主義に依りて政綱を維持せんとする如きは或は好ましからざる結果を來すかと思はれるけれども日本の植民政策は未だ經驗時代とも謂へるのであるから何とも豫言は出來ぬが今迄でも朝鮮に就ては種々新しき問題が起るであらうしかし是皆好箇の試金石である近來内地の人も多少植民地なるものを理解して來たから植民地の事物に對しては誤れる見方はせぬことだらうと思ふがその他に



（中央）第一世統監伊藤博文公（上右）第二世統監曾禰荒助子（上左）第一世總督寺內正毅伯（下右）第二世總督長谷川好道伯（下左）第三世總督齋藤實男

憶ひ起す十五年前

俵孫一氏談

ある新聞の責任に在りては今後益々重大なるものがあるであらうと思ふ（東京支局）

予は明治四十五年春歸京して以來朝鮮の山河に接せざること既に八年、其間日毎に進展しつゝある朝鮮の狀態を視察せんとの宿望は抑へ難きものあるが未だ其の機を得ざるを遺憾として居る、京城日報社創設以來既に十五年の星霜を閲したりと聞けば

座ろ追懷の念

に堪へぬのである。明治三十八年十一月故伊藤博文公に依つて日韓協約は締結せられたが其の主なる事項は即ち韓國の外交は一切日本政府に委託し從つて京城に於ける各國公使は之を悉く撤退し新に統監府を設置して朝鮮開發の任を之に擔當せしむることゝなつた、茲に於て同年十二月官制が制定せられ翌三十九年を以て故伊藤公は統監として其任地たる京城に赴任した、之より以前韓國政府は目賀田種太郎男を度支部即ち財政の局に、當時警視廳部長たりし丸山氏を警務に、又其の以前より久しく朝鮮公使たりし加藤增雄氏を宮内府に、文學博士幣原坦氏を學部に各顧問として招聘してゐたが

伊藤統監赴任

せらるゝや故鶴原定吉氏を總務長官とし其の下に木内重四郎氏を長官とする農商工部及び岡喜七郎氏を長官とする警務部の二部を設置して朝鮮產業の發達及び秩序の整理を計られた、予は當時農商工部書記官として渡鮮したが明治四十年の秋に至つて日本人が公然韓國政府の官吏となるといふ協約が結ばれて以來予等も書記官を兼任して各種の業務に携はる樣になつた、即ち中原貞三郎氏の如きは内務部に於る土木の囑託を受け、予は學部の事務を擔當してゐた。伊藤統監は韓國の開發を圖る爲めに產業の開發に資する爲め道路の開鑿を行ひ一方には之が交通の奬勵を行ひ又教育の普及を圖る等極めて積極方針を以て臨まれた、而して之等は即ち第一次の事業であつたが

教育の爲には

特に經費五十萬圓を割かれたのである、又從來裁判をなすにも普通行政官がその任に當つた爲に弊害砂からぬものがあつたので公は之を改革して判檢事たる司法官を以て之に當らせ日本人をして之れが顧問となつた、かくて公の第二次協約を締結さるゝや各部次官には日本人を以て當てられ即ち荒井賢太郎氏の度支部次官、木内重四郎氏の農商工部次官、岡喜七郎氏の内務部次官、予の學部次官、鶴原定吉氏の統監府總務長官を兼たる宮内次官等は此時に任命せられたのである、間もなく石塚英藏氏は鶴原氏に代つて長官となつたが、當時の朝鮮は

渾沌たるもの

であつて政府の惡政に依つて塗炭の苦しみに泣く鮮民は財產の安定は勿論其生命の安定さへも得るに由なかつた、此虚に乘じて入込みたるは基督教の布教師であつた、文明的施設の缺乏に泣く鮮人に對して施療院を設置して[illegible]教育を授けて人心の向上を圖らん爲には學校を創設し其他種々なる手段を廻らして鮮人の救護に努めた、乍併其の裏面に於ては悉く之等の鮮人に對して基督教信者たらん事を勸誘するに餘念なきものがあつた、而も同教信者として韓國政府の惡政に泣く者の爲めには宣教師をして同教信者に對する惡政として極力朝鮮政府に强硬なる抗議を提出せしむるに至り即ち

内政干涉の端

を得せしむるに至つたのである、茲に於て伊藤公が極力教育產業等の方面に盡瘁したのも朝鮮の啓發を圖るの目的たるや勿論ではあるが一方に於ては宣教師團をして徒らに朝鮮の内政に干涉せしめざらんとする方針から出たものでもあつたのである、當時朝鮮の施政の困難なりし事は筆舌を以て能く盡すべきものではない。其の後曾禰子が公に代りて統監となり轉て寺内伯に依つて大に開發せられ長谷川伯齋藤男と順次三代の統監三代の總督を經過して今日の朝鮮の文物の進歩を來したのであるが恰も伊藤統監が初めて渡鮮せられたる明治三十九年に統監府の擴大なる後援の下に當時日本兵營たりし舊の警務顧問部の前に一屋を新築し伊東祐侃氏之を經營して創刊せられたるものが即ち京城日報である、爾來

種々の困難に

打克て極力朝鮮の開發に盡瘁し今日既に十五周年の記念號を發行するに至り、社運隆々として大陸言論界に雄視して居るのは實に朝鮮のためにも慶賀の至りである今記念號發刊の擧あるに際し、一言を求めらるゝに當り聊か往時を偲びて更に同社が益々朝鮮文化のために勇鬪せられんことを望むのである（東京支局）

祝辭及祝電

原首相祝辭

京城日報社創立十五周年、此の間内鮮融和の機關として常に公正なる言論を以て内鮮人の思想を善導啓發し大陸日本の爲に貢獻せるの功績少からざるものあり冀くは内外多事の際其責任の重大なるものあるに顧み益々自任自重せられん事を、爰に貴紙の發展を祝すると共に前途の愈々隆昌ならん事を祈る

元帥伯爵　長谷川好道
祝貴紙創刊十五周年

陸軍大將　宇都宮太郎
貴社創立十五周年を祝し併せて貴社が文化の普及鮮土の開發に寄與貢獻せし多年の努力を頌し社礎の益鞏固ならんことを祈る

子爵　平田東助
祝貴社創立十五周年

子爵　加藤高明
祝創刊十五周年

關東廳長官　山縣伊三郎
創刊十五周年間文運に貢獻したる努力を多とし祈社運隆昌

伯爵　兒玉秀雄
祝創立十五周年併而内鮮融合の爲め倍奮鬪を祈る

小橋内務次官祝辭

京城日報は今回十五周年の記念號を發刊するとの事である、多年内鮮人の親和融合の爲め力を盡し我帝國の眞意を内外に宣明するに努めた同紙が茲に十五周年の記念號を出すといふことは獨り同紙の隆盛を祝するといふ意味のみならず邦家のため且つは人道平和のため重大の意義あるものとして實に慶祝の念に堪へない次第である

元朝鮮總督府内務部長　宇佐美勝夫
祝貴紙創刊十五周年併祈社運發展

全羅南道知事　亥角仲藏
祝貴社創立十五周年併祈發展

國民軍閥主義

帝大教授文學博士　野上俊夫氏講演（五）（東京支局）

吾々が三四十億の金を儲けて喜んで居る時に太平洋の[illegible]吾々の怖るべきお隣りの國は三十億四十億に非常[illegible]儲けて平氣で居る[illegible]衣帶水の地に居つて戰爭して[illegible]かなければならぬ[illegible]三十億や四十億の金で喜んで[illegible]ことは出來ない[illegible]ても、武器はあつても金がなければ駄目だ。[illegible]である金がなければ[illegible]來ないから、日本は殊に重要な職にして金を儲けることが大切である。實際之は道理である[illegible]いふことは罰ふまでもない。或は戰爭中或はヴェルサイユの外交に於て日本の外交は非常に失敗が多い。讓步した[illegible]いふ時に讓步した。之は日本の外交が不振であるが爲で、日本の外交はモツト大に振はさせなければならぬ[illegible]つて人を入れるのに非常に[illegible]である。爲に外交官に人材が[illegible]から民間から登用しなければならぬ、そうして外交を刷新しなければならぬ、外交刷新は[illegible]後に於ける非常なる急務にあ[illegible]こいふ人もあるそれも道理である、之れは戰爭中は勿論戰後[illegible]必要であるこいふことは云ふまでもない、又世界列國が戰後々々として外交の刷新に努力しつゝあるのも事實である我々は之を戰後の急務であるとするもの[illegible]して人後に落つるものでない戰後に於て軍備を擴張するといふことも確かに必要である、[illegible]頃は國際聯盟などいふ響[illegible]如き事をいふものがあつて[illegible]いふことをいふ人が偶々[illegible]であるといふことを以て日本[illegible]がスグにこの響音の如き[illegible]欺されて軍備はいらぬこと[illegible]の如き事を考へてゐる人があ[illegible]今回の如き戰爭は全人類に非常な害毒を與へた。將來斯の如き戰爭をしては困るから[illegible]依つて事を決するやうな[illegible]起つた場合は國際聯盟の[illegible]つて再び戰爭に因る慘禍[illegible]きぬやうにしたい。將來[illegible]にしても永久の平和が必要である、夫れには軍備を撤廢しなければならぬ。師團は[illegible]ればならぬ。軍艦は[illegible]造へては不可といふ[illegible]師團を增設し軍艦を[illegible]めに列國から條約[illegible]て日本の外交が迷[illegible]やうな意氣地のな[illegible]說く煽動政治家が[illegible]考への間違つて居[illegible]までもないことで[illegible]この永久平和といふ[illegible]は戰後には常に[illegible]をして殺されたり[illegible]家を焼かれたり[illegible]爭が厭になる[illegible]隨つて未だ曾て[illegible]に平和論の盛ん[illegible]時代はない。

本紙十六頁

齋藤總督揮毫

愛蘭內亂擴大
軍隊と砲火を交ゆ

愛蘭に於ける內亂はクインスタンに蔓延し同地方に於ては由々敷き一揆起れり英國軍隊は蘇格蘭ハイランダー兵に對し復讐的攻擊を行ひつゝあり商業區域に於ける家屋を燬き始め盛んに砲火を發し愛蘭人は武裝の上抵抗を繼續しつゝありデーリーニュースペリアット通信員の所報によれば同地方においては形勢不穩にして虐殺は依然たりと(倫敦電報)

英國炭坑夫罷業立消に

英國炭坑夫の同盟罷業は一時大多數を以て斷行さるべしと豫想されしも勞働組合は資金不足の爲め罷業に反對し氣勢挫けたり(倫敦電報)

露對リ國講和條件

倫敦情報＝勞農政府よりリトブイヤとの講和に關しリトブイヤ情報局の發表せる條件左の通りなり(東京電報)

一、露國は無條件にてリトブイヤの獨立及主權を承認し從來露國がリトブイヤの人民及び土地に對し行使せる全權全部を拋棄す

二、兩統治國は相互に戰費の要求をなさず世界戰爭に依り生ぜる損害及破壞は世界各國間に公平に分擔せられざることを顧慮し戰時保險の諸國際的資金を設くることに努力すべし尚此の外兩統治國は舊露國領土內に組織せられたる諸國家間の經濟的共助の策を講ずべし

三、戰爭中露國の爲リトブリヤより鹵獲せる鐵道材料船舶金寶石以外の現財源記錄書類郵便電信電話等の財源は之をリトブイヤに還附すべし露國は右財產は各國金貨を以て其の代償を支拂ふことを得而して之に關聯しリトブイヤは本條約批准の日より二ケ月以內に金貨四百萬留を露國より受取るべし

四、リトブイヤは十萬デシヤキン(二十五萬エーカー)の森林採伐權を取得す

五、ソトブイヤは露國の債務に對し何等責任なし

六、批准後直ちに商業運搬に關する條約を締結すべしソトブイヤは露國貨物に對し自國貨物に對する以上の運賃を請求することを得ず同時に外交及商事關係を再開す

七、戰爭は八月十二日午後零時停止す

對露公文不滿足

波蘭より英國に回答をなすべき期限は滿了せり次いで露國に對する公文の趣意如何を改めて研究するものあり外國將校も亦之が滿足なりや否やに付き研究したる結果之を以て滿足ならずと解釋せり(倫敦電報)

獨國民黨員暴行

多數の獨逸國民黨員はブレストルールに於て佛蘭西及び波蘭の兩領事館を襲ひ家具を破壞し公文書を破棄したるが外務省は直に佛蘭西大使及び波蘭公使を訪問し陳謝せり(伯林電報)

武器引渡を勸告
急進派政府不信

獨逸大統領エーベルト氏はスパー協約に從ひ一切の武器を引渡す可き布令を發したるが之に對し獨國急進派は反對に出でん事を宣言し政府不信任を表白せり然れど急進派は武器を隱匿せられ之が爲今日當軍の敗北に依り頓挫せる將來に於ても其實行不可能なるに至らむ事を慮りつゝあり(伯林[illegible]

全州洪水

由來十五尺[illegible]人心恟々たり[illegible]たり(群山特電)

シレシヤ人民怒る
佛國領事館其他を襲擊

上部シレシヤに於ける獨逸人の壓迫に關し民心激昂せる結果ブレスラウに於ては二十六日暴徒起り一千名の群集は佛國領事館及び聯合諸國將校宿泊中なる各ホテルを襲擊せり獨逸官界は本件に關し深く遺憾の意を表し政府は最も的確なる調査を命ぜり尚獨逸官界にて傳へらる所に依れば上部シレシヤに於る聯合國委員は獨逸五新聞に對して發行停止を命じたるが波蘭新聞は依然發行を繼續し無制限に迫害を主張しつゝあり(伯林電報)

共和黨を攻擊す
民主黨候補コックス氏

民主黨大統領候補者コックス氏は二十六日當地に於てなしたる演說中に曰く共和黨は大統領の地位を買收せんとして米國の自由都市五十一市に於て八百十五萬五千弗を醵出せり其買收計畫の詳細はハーヂング氏の能く知る所にして寄附者名は秘密を守られ居れりと(キッチパーク電報)

婦人參政權實施
國務卿愈よ署名

米國憲法第十九條修正となり婦人參政權に關する憲法修正批准を公布し米國國務卿コルビー氏之に署名したり(華盛頓電報)

パ氏婦人を持上る

廿八日共和黨大統領候補者パーシング氏は庭前に於て婦人參政權祝賀會を開きたり氏は米國の婦人を選擧すべしと述べ且つ米國の婦人は其職務を立派に果すべしと云へり(マリオン電報)

排日新聞の排日記事

廿八日發行ハースト系の排日新聞桑港エキザミナー紙は大々的の排日記事を十數箇所に分ちて掲げたり何れも荒唐無稽の者なるが一般公衆の排日感情を挑發するの効果大なり(桑港電報)

日支軍事協定取消
支那海軍司令の要求

在浦鹽支那海軍司令林建章氏は廿四日北京政府に對しチェック軍は廿六日を以て最後の輸送完了せり之にて西伯利に出兵せし聯合國軍隊は唯だ日本軍を殘すのみとなれるを以て日支軍事協定の期限は茲に完了し共同の義務無きに至れり政府は對し軍事協定取消しを要求され度しと[illegible]

犯人引渡拒絕
外務省發表

三十日外務省は左の趣旨を發表せり(東京特電)

在支帝國公使館が徐樹錚氏等九名を政治犯として保護を加へつゝあるに對し支那政府より引渡方希望の公文を寄せ來りたるも帝國公使は政治犯として保護を加へつゝある以上は普通刑事犯の附帶すると否とに拘らず引渡要求に應ずる能はずと復答せり

支那の聯盟提案

支那政府より國際聯盟會議に提出すべき問題は山東問題、日支協約、東清鐵道、團匪賠償金廢止、領事裁判撤廢、西藏問題等なり(北京電報)

南北和議條件

南北和議條件左の如し(上海電報)

一、新選擧法に依り國會を召集す

一、雲南貴州に向つても協商を開始し其同意を求む若し雲南之に應ぜざれば先づ廣東、廣西、四川三省に就て解決す可し

一、決議は和平會議の名を以て發表す而して右の議の發表次第廣東、廣西及び雲軍は各其自主取消を宣言す

顧維鈞悅ばれず

駐米公使顧維鈞氏は駐英公使に轉任と決定し現駐英公使施肇基氏は駐米公使に轉任する由なるが顧維鈞氏は純然たる米國人なりとて英國人は同氏駐米公使に就き不平なり(北京電報)

盧會鐵道借款

盧會鐵道借款額は五千萬法なる可し右は三年內に三回賦にて交附さる可く手取九十一年七分利附償還期限十箇年也と(北京電報)

ラインシュ氏辭す

前駐支米國公使ラインシュ氏は八日北京奉天を經て日本に向へる總統府政治顧問の招聘を辭し廿[illegible](北京電報)

上院議員に推薦さる

前米國駐支公使にて現支那政府顧問たるラインシュ博士はウィスコンス州上院議員候補者指名を承諾したり(北京電報)

カルムイコフ北京送り

吉林所著電＝カルムイコフは吉林露國領事館に潜伏し居るを支那兵の爲發見逮捕されたるが多分北京に護送さるべし吉林露國領事は之が爲罷免せられたり(北京電報)

廣西軍敗走す

荊州を死守せる廣西軍は廣東軍の猛擊に敗退し廣東軍は之を追擊中なり(香港電報)

陳軍來襲に備ふ

廣西派は陳炯明軍の防禦に全力を集中し在廣東廣西軍全部を出動せしめたり其兵數は中央軍一萬二千右翼軍七千左翼軍六千餘にして其外荊州防備軍八千石梁防備軍二千なり(廣東電報)

李烈鈞氏出陣說

雲南、貴州聯合軍は李烈鈞氏を總司令として近く攻擊を開始すべき風說あり爲に王督軍は守備を嚴重にし居れり(漢口電報)

外國人保護請願
保護權日本軍に移る

浦鹽著電＝浦鹽の外國領事官團長菊地總領事は日本軍司令官に對し外國人保護の請願をなしたり右は先頃領事團家族が强盜に襲はれたる外被害頻々たるより露國官憲に相當處分方を要求したるも更に其の効力なきにより菊地總領事は外交團を代表して浦鹽附近に於ける外國人の保護を日本軍司令官に請求したるものにして其の結果浦鹽に於ける保護權は帝國官憲の手に移ることゝなれり(東京電報)

帝國の聯盟代表
石井林兩大使及目賀田男

ゼネヴァに於ける第一回國際聯盟總會に出席す可き我全權は石井林兩大使及び目賀田種太郎男に決定したり(東京特電)

山縣長官歸期

山縣政務總監は九月四日大連著の豫定(大連特電)

十時北行したり(釜山電報)

重要問題陳情

追間房太郎氏外五名は某重要問題に關し總督府訪問の爲三十一日午前十時發列車にて北行したり(釜山電話)

警保局長通過

三十一日朝高麗丸にて川村警保局長は中川山口縣知事同伴來釜[illegible]

諸種法令の改廢
朝鮮施設改善の五

布教規則改正

四月二十八、二十九の兩日に布教規則の改正は手續きの簡略を圖るを目的としたるものにして布敎所、說敎所、講義所等の設立は從來總督の許可を要したるを改めて單に屆出を以て足るものとし規則違反者の罰金制裁を廢止したる敎會堂、說敎所、講義所等にして安寧秩序を紊すの虞ある行爲ありと認めたるときは其の設立者又は管理者に對し之れが使用を停止若くは禁止するに止めたる等其の主たる點なり

宗教團體と法人格

外國宗敎團體に法人格を認むるや否やは多年の懸案たりしものなるが今回宗敎の宣布を援助すべき財團を民事令に依り公益法人として許可することゝなし以て財產の管理維持の便宜を有せしむることゝせり

判官權限擴張

鮮人にして判檢事たるものは從來民事に在ては原告、被告共に朝鮮人たる場合、刑事に在りては被告人の朝鮮人たる場合に限りて其職務を行ふの權限を有するに止まり內地人、外國人に付いては審理に與ふるの權限を有せざりしが本年三月制令を以て內地人たる判檢事と同じく何等職權の限定なくることゝなし內、鮮、外國人の審理に干與し得ることゝ爲し三月二十四日より實施せり此の權限擴張は近時朝鮮人判檢事の學識技能大いに發達し來りしに鑑み最早內鮮人判檢事間に於ける差別を撤廢するの必要を感じたるが爲なり

恩赦令の發布

本年四月二十八日李王世子殿下御婚儀に際し同二十七日の日附を以て恩赦令の發布あり主として政治上の騷擾罪、公務執行妨害罪、保安法、出版法等の政治に關する犯罪者に適用せらるゝものにして恩赦は一般減刑、特別減刑及特赦の三種に分たれ一般減刑の恩命に浴したるもの三千五百餘名に及び中千五百餘名は[illegible]

笞刑令の廢止

笞刑は古來朝鮮に於て廣く適用せられ民度に適合する刑罰なりし理由を以て明治四十五年刑事法規を整理統一するに當りても之を存置したり然るに近時朝鮮人は漸次向上自覺する所あり又其の民度も昔日の比ならず現今の時勢に鑑みるときは斯くの如き直接肉體に苦痛を與ふる刑罰制度は之を撤廢するの適當なるを認め且內鮮人間の刑罰制度上の差別を設くるが如きは新政の趣旨に副はざる所なるを以て三月末日限り廢止せり

會社令の撤廢

會社令は明治四十四年制定せられたるものなるが當時朝鮮に於ては會社企業上種々の弊風あるのみならず或は未だ朝鮮の事情に通せざるものある等の爲め會社企業を一般の自由に放任するは朝鮮產業の健全なる發達を阻害するの虞ありしを以て適當の保護監督を加ふるの必要上一時の手段として會社企業に許可主義を採り制定せられたるものなりしが然るに近時朝鮮人經濟力の發展著しく智識の程度も一般に向上し會社に關する理解も亦相當進步し又內地に於ても鮮人の事情益々周知せられ朝鮮に於ける內地人の企業も漸次其の面目を改むるに至りしを以て最早此の會社の設立に關し特別の干涉を加ふるが如きは時代の進運に順應する所以に非ずと認め四月一日を以て斷然該令を廢止せり然れども取引所、保險業、無盡業、有價證券の賣買[illegible]

仁川警察署管內[illegible]

[illegible]取其他不逞の手段に於ても同樣手段に[illegible]て各所旅館を荒し廻り數千圓の[illegible]品を窃取せることを鍾路署刑事[illegible]一日午前三時頃府內仁寺洞一五三番地寺明旅館に投宿し同宿人[illegible]なる忠淸北道扶餘警察署の金[illegible]

[illegible]男五名現在患者男四[illegible]十七名にて永宗島の一名を除く[illegible]十三名中死者二十六名現在患者[illegible]本年初に發病の[illegible]たる約七十名の[illegible]

關稅制度改正要旨(三)
總督府財務局長　河內山樂三氏談

外國貿易船噸稅は八月二十六日制令第十八號を以て八月二十九日以後凡て內地の噸稅法に依り朝鮮と內地樺太との間に通航する船舶の噸稅は八月廿八日限り之を廢止せり斯くて兩地間に殘る所は移入稅のみなるを以て明年三月三十一日限り之が廢止後に於ては朝鮮と內地樺太との間に於ける船舶及び貨物の交通は自由となり何等障碍なきに至るべき筈なるも一面內地間には尙消費稅の相異あり又前に述べたる鮮內入移入稅率の[illegible]

特例ありて

若し此の鮮內地間に於ては物の自由交通を認むるに於ては內地の稅制を紊し若くは之を脅威するの虞あるが故に其の移入に當りては消費稅及び移入稅の相異の調節を行ふの必要あるが故に相互に他方に向け移出する貨物には從來の如く消費稅の免除又は戾稅を爲すことゝし移入の際之を徵收する物移入の際之が徵收するも內地側に於ては之を徵收せざる代りに朝鮮より移出の際出港稅として消費稅相當額を課し又朝鮮の特例に依りて低率の輸入稅[illegible]し又は

無稅及免稅

にて輸入[illegible]しつゝある物品を朝鮮より移出する場合には輸入稅の差額又は全額を課するの方法を採り同日制令第二十一號を以て朝鮮出港稅を公布し內地側の關稅廢止と同時に八月二十九日より施行せられたり其課稅品は輸入稅の關係にては前に述べたる特例品中[illegible]純米、コークス、木材の外本年十二月三十一日迄朝鮮に於てのみ輸入稅を免除せる栗、京栗、玉蜀黍、小豆、小麥粉、稗あり鹽及び煙草は內地側に於ては專賣品として移入を禁止し唯樺太に於ては鹽の[illegible]

關稅定率法の改正に

依り輸入禁止となれるを以て出港稅を課すべき場合なし消費稅の關係の出港稅課稅品は砂糖、酒類、醬油、織物、石油等の如き骨牌、藥及び皮製類似品を除きたる凡ての內地側消費稅の外藥子、糖菓及び織物製品中衣服、帽子、襟、足袋、蚊帳、浴巾、手巾、テーブルクロース、敷掛、布團及び寢具とす但し酒類の如き內地側に於ては外國より輸入の際消費稅を課せざるものは輸入稅中に其の消費稅をも包含せるものなるが故に外國より朝鮮に輸入後更に之を

移出する時

には出港稅を課せず織物製品、菓子、糖果等[illegible]も亦同一の理由に依り外國產品には課稅せず尙菓子糖果は內地側に於ては朝鮮興業の爲特に移出戾稅品中より除外せるを以て其移出に對し出港稅を課することゝせり

出港稅率は前述の通りなるが唯織物製品及び菓子糖果は其の原料に對する消費稅相當額を課するものにして織物製品に在りてはその原料として使用したる織物の價格の百分の十菓子及び糖果に在りては含有甘蔗糖百斤に付五圓とす出港稅は移出申告の際申告者より之を徵收するものなるが

朝鮮財界過程
京城と地方關係

最近鮮內地方財界の過程を見るに其好況不況共に京城財界の状勢に追隨し而して其到來の時期に於ては京城のそれに比して二三箇月を遲るゝの觀ありとなすは必ずしも失當なる觀察ならざるが如し這は京城が鮮內商業の中心地として又對內地商取引關係より一層頻繁にして自然內地の商勢に順應する關係が鮮內他地方が有する[illegible]なるによるべく其が一例として去る三月當時財界動搖期に於て救濟問題の頻りに論議されたる當時京城商業會議所は大體に於いて救濟不必要主義を執り唯々思惑に過ぎたる商人の窮狀の結果眞面目なる商人に累を及ぼし玉石共に焚くは避くべしとの見解を保持せしが其後一ケ月を後れて平壤方面より財界救濟の要ありとし金融業者に懇ぐべしとの通牒ありし更に二箇月後に於て大邱方面よりも不動產金融を必要とし金融業者に要望の必要ありとの通牒を發したり其都度京城商業會議所は不同意を表明せるが之を以て今後の地方財界回復期は特種の事情なき限り京城財界の回復後相當の期間を經過するものと認めて可なるべし

本年米作杞憂
五水年と米作說

本年の鮮米は豐作說もあれど內地及び朝鮮に屢出水あり爲に內地の一部は全部浸水したる關係上稻作に及ぼす影響は被害大にして例年に比し收穫著しく減少すべしとの說もありとの事なるが中に五水年と米作の統計を以て前途を杞憂する者の說に依れば古來舊暦閏月に至又は癸の年に當る場合は五箇月乃至五箇月甚だしきは三箇月連續して雨續く事あり若し三箇月連續する場合は穀價騰貴して餓死者を出し五回あれば之を稱して五水と云ひ時々大洪水あり穀作にして遂に種子をも失ふに至り尙六水年は水多く山木に繫ぐと云ふ傳說あり而して本年は恰も其の五水年に相當せり卽ち本年八月以降十二月に至る五箇月間舊曆朔日の干支は八月一日(癸酉)九月一日(癸卯)十一月一日(癸酉)十二月(壬申)と云ふ順に當り旣に云ふ如く是等の傳說は强ち迷信として捨つべき者にあらず古來幾多の實例ありたるを以て斷じて無理なる事にあらざるも本作は內地と云はず朝鮮と云はず屢々出水あり此傳說の前途又杞憂さるゝと古老は語れり

小包郵便物

として移出するものに對し一々稅關に申告せしむるは不便を强ふるものなるが故に八月二十六日公布に係る遞信官署官制中改正に依り朝鮮總督の指定する遞信官署に於ては郵便物の出港稅事務を取扱ふことゝなり各郵便局所に於て之を取扱はしむべき計畫なるが當分朝鮮移入稅存置中は移入郵便物の爲繁忙を極め判底其の餘力なきが故に遞信局に於ては差向き稅關所在地外の局所に限り之が取扱を開始することゝせり

韓銀異動あらん

韓一銀行は既報の如く朝鮮商業銀行と併合する事となり商業銀行主總會にて韓一銀行取締役に選任されしが聞く所によれば韓銀頭取閔泳徽氏は近く頭取を退き新取締閔大植氏頭取たるべく[illegible]

三井の改稱

[illegible]會社の釜山仁川兩出張所[illegible]一日より出張員に[illegible]支配人を轉任せしめ五大[illegible]駐在する事となりたり

殖銀と東京

[illegible]は石井新理事を東京に駐在せしむる事となり結果近く東京支[illegible]開設さるべしとの說あれど當局は將來は知らず眼先き[illegible]は尙ほ考慮に上り居らずと[illegible]り居れり

京株仲買總會

受渡資金融通問題

京株市場仲買人臨時總會は三十日午後六時より京城食堂に於て開催市場側より受渡資金の一時立替を受くるの可否に就いて協議したるが右は雙方のみ有利にして雙方は困難の立場に陷るが如く公定相場を素すものとして反對者多く投票の結果之を辭退する事に決議せりと

綿布解合淸算

京仁綿布商の解合による値合は第一回仕拂を終り尙ほ未了にて交涉中なるが第二回は來る十日之を行ふべしと

品評會と列車

十一月一日より同七日迄東京赤坂區溜池町三會堂に於て開催の第二回水產製品及水產食品品評會出品人及出品物に對し滿鐵線鐵道省線を通じて十月五日より十一月七日迄出品人に對しては二割引出品物に對しては滿鐵線は二割引にして釜山に於ける積換及鐵道省線は片道運賃を免く[illegible]に割引きなすべしと

本紙休刊

本紙創刊十五周年記念[illegible]を以て二日附本紙は臨時休刊[illegible]十一日は定期休日なり[illegible]

人事

▲淨法寺朝鮮[illegible]一日朝發大邱へ
▲吉永師團參謀[illegible]同上
▲吉澤師團副官　同上
▲奧田海鎭少將　三十一日發大邱[illegible]
▲山口旅團副官　同上
▲岡野二等主計正(大阪陸軍主計)來城中の處三十一日發[illegible]
▲宮崎備路少佐　元山より三十一[illegible]歸城
▲藤川利三郎氏(慶北道知事)三十[illegible]日夜入城浦尾へ
▲飯尾藤次郎氏(平北道知事)[illegible]一日朝入城浦尾へ
▲武井秀吉氏(平北道事務官)[illegible]
▲中川山口縣知事　三十一日夜[illegible]巴城館へ
▲上林敬次郎氏(咸北道知事)三十[illegible]日夜入城山本へ
▲時實秋穗氏(慶南道知事)三十[illegible]日朝入城同上
▲篠田治策氏(平南道知事)不如火[illegible]
▲古賀拓殖局長官　[illegible]日平壤で[illegible]大連著の豫定なり(大連特電)

[illegible]動鬪堂子爵於輪井部
木春、洪水、[illegible]暫避炎塵。倒此梅。酒陽山水[illegible]幽。若生苦待謝安[illegible]。誰陸公[illegible]、[illegible]鮮、和[illegible]氏潤、降[illegible]避暑信州輕澤樓。優遊恰似[illegible]幽。世人不識先生志。[illegible]中外遊。

寸鐵

思想界の動搖に對する[illegible]したる今日の[illegible]
なれば不時の事變に[illegible]の出現はしなければならぬ[illegible]で我輩は二人の息子を既に[illegible]學校に入學させてゐるが此の[illegible]人は斷う年ら敵陣を擊つ迄[illegible]は知つてゐる▲吾輩は[illegible]を手にして敵を擊退し[illegible]の自信は持つてゐるそこで[illegible]有事に際したならば直に二人の部下を率ゐて馳せ參ずるつもりである▲卽ち吾輩の二人の部下といふのは俱に我輩の息子であれば是非とも我輩が部下に[illegible]
我が家は赤貧に[illegible]の一家を[illegible]しつゝあるが[illegible]朝鮮の[illegible]司令官大庭將軍の[illegible]
預金の[illegible]は此の朝鮮人の預金[illegible]百萬圓で殘餘は悉く內[illegible]に依つて占めら[illegible]郵便貯金は總額一千三百[illegible]して居るが朝鮮人の預[illegible]四百萬圓に過ぎない[illegible]內地人には金持が多く[illegible]も出來ぬ、朝鮮人は[illegible]てモット儲けねばならぬ[illegible]

這個經國の大業

國民新聞副社長　阿部充家氏談

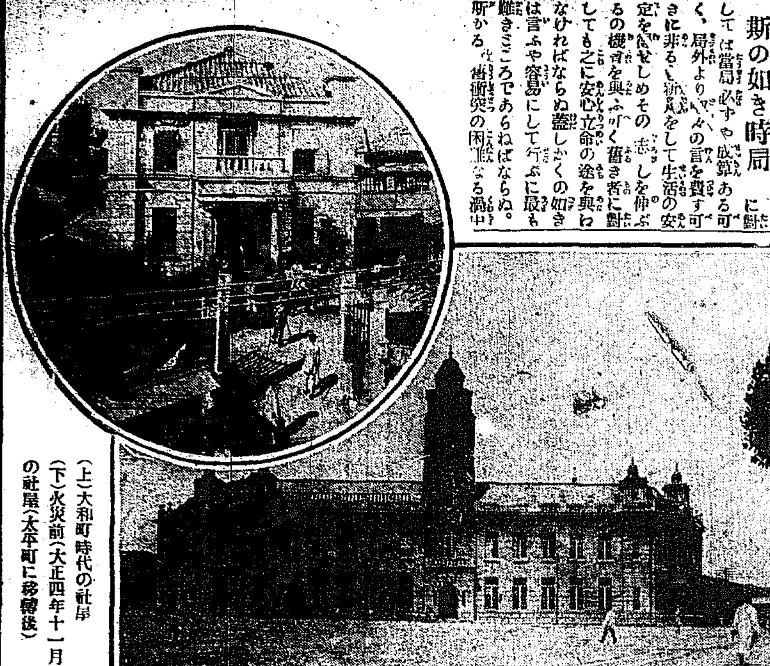
朝鮮が併合後十年の間、枝も鳴らさぬ平和の裡に、文運の進步を見、開明の澤に浴したのは、明治大帝の御威德の然からしめたところとは言ひながら、一つにはまた日本の國際的地位が日露戰役の戰捷者たる餘威を以て赫々たるものありしに基かなければならぬ、此の日本の國際的地位如何といふことは東洋の政局に於て重大なる因子をなすといふことは餘りに明白なる事實であるけれども、[illegible]共に此間の機微を體得す[illegible]の根みがあるのではあるまいか。

今日の朝鮮 時局は最も難しい時であらう。それは寺內伯が統治された時代の統治の對象は[illegible]であつて、これに對する[illegible]盡せりの觀があつ[illegible]或は成均館を起し、或は[illegible]共に際しては[illegible]の機關を集ひ、[illegible]擧せしめて、そ[illegible]るに努め、また耆老たる雲養金允植、金[illegible]根の諸先生には夏は帷衣を贈り冬は綢袍を呈して、以て人心の歸趨す可き[illegible]した。併し、今日は一方に世の變化に伴なひ新敎育をうけた子弟輩出し新舊分子の爭ひが激烈となりて新しき時代思潮の滂湃として橫流するところ。正に新時代の權威起らんとして未だ起らず、舊時代の勢力墜ちんとして未だ墜ちざるの過渡期に彷徨せるもので其間に處して民衆を善導せんとする當局の苦心は寔に察す可きものがある。

斯の如き時局 に對しては當局必ずや成算ある可く、局外より彼是の言を費す可きに非ると雖も、新人をして生活の安定を得せしめその志しを伸ぶるの機會を與ふ可く舊き者に對しても之に安心立命の途を與へねばならぬ蓋しかくの如きは言ふや容易にして行ふに最も難きところであらねばならぬ。斯かる新舊衝突の困難なる渦中にありては、新聞紙の使命は最も重大にして毅然として大處に立ちて大觀し、日本帝國の世界國際協調裡に於ける立場を闡明し東洋人には東洋人の立脚地あることを民衆に自覺せしむるの途を講ずるを以て第一義とせなければならぬ

思想の混亂時 代にあつて、人心を緩和し善導するは當局者としては出來ぬ仕事である。これには新聞社等が下情上達上意下達の機關となつて、新舊の調和を計り、內鮮の融和に資せなければならぬ。朝鮮に於ける外國宣敎師の社會的活動には遜色ながら內地人に一歩先んじてゐる。朝鮮に居る內地人も、鮮人に今少しく暖か味を以て接し、共に樂しみ倶に進むの氣持を持つて貰ひたい。總督や政務總監も言つて居る通り、朝鮮は總督府の朝鮮でなく日本の朝鮮である。朝鮮人は日本人としての朝鮮人である。大局に留意して、民衆の感情を淘冶し、政治の實績に資することは[illegible]にして初めて得る經國の大事業である。民衆の感情の動き方に就ては新聞は活殺自在の力を持つてゐるとも言へる。從つて新聞の自省し自重す可き點も茲に在る。

以上數言 より朝鮮操觚の局に當らるゝ諸君の夙に諒知せらるゝところたるを疑はぬ。唯、偶々京城日報十五周年紀念に際して一言を求めらるゝに當り、更に繰返して、諸君の考慮を煩はし、以て將來錦上花を添へられんことを望み、諸君の筆硯の益健かならんことを希ふのである(東京支局)



(上)大和町時代の社屋　(下)火災前(大正四年十一月)の社屋(太平町に移轉後)

朝鮮財力の膨脹

十五年前と最近の比較

十五年前の朝鮮と現在の朝鮮を比較せば實に隔世の感も啻ならぬのである明治四十三年の日韓併合後政治敎育產業交通百般の狀態は全く面目を一新した之等の改善進步に連れ朝鮮財力の膨脹增大も亦著しいものである十五年間の朝鮮財力の變移……それを精敍でないまでも略敍しても到底新聞紙二枚や三枚にはし盡くせない、乃ち茲には十五年前の朝鮮財力を窺ふに足る數字と現在の數字と比較して財力膨脹の大體を見やう

銀行の預金貸出 明治三十九年に於ける朝鮮內各銀行の預金合計[illegible]銀行と內地銀行支店を合し僅々一千四百六十萬圓に過ぎず貸出しは一千百八十萬圓であつた、然るに十五年後の大正九年六月末日現在朝鮮內各銀行の預金は一億四千七百萬圓に又貸出しは二億五千百二十五萬圓(東拓を含む)に何れも敏進してゐる乃ち預金に於て十倍となり貸出しは二十二倍と云ふ大數字である朝鮮人預金力並に資金の消化力は非常の勢ひで增加してゐるので此の趨勢は尙ほ續けられるであらう

鮮內通貨の激進 朝鮮內の通貨(硬貨を含まず)……[illegible]りがあるか尤も此の通貨の精細なる數字は不明である……と云ふのは韓國時代の日本銀行券の流通があるのと鮮銀券の今日は支那滿洲西伯利に擴大し鮮內流通高を精確に算出する事が不可能だからである然し大勢は之れを知り得らるゝ乃ち明治三十九年末に於ける韓國中央金融機關たる第一銀行の紙幣發行高は九百二十二萬圓であり明治四十三年末に於ける韓國銀行券の發行高は二千十六萬圓であつた而して大正八年末は推算九千六百萬圓=總發行高は一億六千萬圓=となり最近は約六千萬圓=總發行高は一億圓=となつてゐる乃ち三十九年末に比し最近は六倍强の增加であり昨年末は十倍强を示してゐる殊に朝鮮內に於ける通貨の大膨脹は大正六年來の事で最近朝鮮の財力膨脹は凄じいのである

會社事業の激增 會社事業は之れを十五年前と今日と比較せんと欲するもなし能はず何となれば十五年前の朝鮮には日本會社の支店の少數を見るの外本店會社としては殆ど擧ぐべきものがないその統計も見當らぬ故に茲には十一年前會社令發布當時の朝鮮會社組織と今日とを比較するに留めやう明治四十四年末の朝鮮內に本店を有する會社は百五十二社その拂込資本金一千五百萬圓に過ぎなかつた然るに大正六七年頃より朝鮮財界の活況を呈するに伴なひ會社組織の事業續出し大正九年六月末の朝鮮內本店會社數は五百寄五その拂込資本金一億六千五百萬圓となつてゐる尤も右の中から鮮銀の拂込資本金五千萬圓殖銀の一千五百萬圓合計六千五百萬圓を控除すれば自餘拂込みは一億に留まるのであつて之れを朝鮮の面積より見れば寧ろ少しと云ふべく期待を將來にせねばならぬが然し之れを四十四年に比すれば社數に於て四倍强拂込資本金は十一倍に達してゐる又支店會社は四十四年末三十五社その拂込資本金六千八百萬圓であつたが大正九年六月末は社數百寄六拂込資本金三億五千三百萬圓に激增してゐる

貿易統計の躍進 十五年前の朝鮮貿易は微々として振はなかつた數量の少きのみならず物價低廉なりしため其の總額の少なるは怪しむを要しない明治三十九年の輸出は八百九十萬圓で輸入は三千零三十萬圓だつたが大正九年は一月から八月十五日まで、既に輸移出一億二千百萬圓輸移入一億六千五百萬圓合計二億八千六百萬圓に達し本年の貿易合計は少くも四億圓を下らぬであらう果して然らば之れを三十九年に比し約十倍と云ふ事になる朝鮮生產品の增加もさる事ながら朝鮮內の物資消化力の增大は實に注目に値するのである

京城手形交換今昔

朝鮮の代表的都市たる京城の手形交換高は又一面朝鮮財力の膨脹を知るに足ると思ふ然し乍ら十五年前の京城には銀行らしい銀行も少く手形交換も行はれてゐなかつた京城手形交換の初期は明治四十三年の七月からであるその第一年に於ける半期間の交換高を見るに枚數五萬九千枚二千零四十八萬圓であつたが大正九年上半期の一期は四十九萬三千枚にして三億五千零三十萬圓となり卽ち枚數九倍金額十七倍になつてゐる

現今の社屋

滿洲中央銀行問題と鮮銀

滿蒙中央銀行の設置に關しては數年前既に相當研究せられ一時議會の問題となりたるも高橋藏相等の極力反對するあり一方に於て鮮銀の滿洲進出と金券統一の實に由り一時問題は立消の姿なりしが今春以來內地財界の動搖に伴ふ滿洲經濟界の大打擊は金融機關の缺陷に由り

其の影響 を大ならしめたるものあると爲し茲に滿蒙中央銀行設置問題の再燃と成り現の爲め夫れ〳〵運動を開始せる向あり今次の鮮銀相と記さんに其の運動は未だ何等統一せられたる機關の組織なく設立出願者の如きも數派に分かれ競願の狀態に有れども兎に角政府側に對する運動は意外に深く廣く廻り居る事とて來る議會に於ては一問題として取扱はるゝに至る可く政府當局の意嚮に由りては或は豫想以上實現速かなるやも圖り難し中央銀行出願の內容は各派異るものにて之を詳にせずと雖も

一般銀行業 の外に兌換券の發行及債券發行等の件は各出願者の一致點にて特に或る出願に金券と共に銀券の發行をも出願し居れり凡そ植民地銀行は經濟的勢力を金融政策に由りて扶殖するを主要なる目的とし例へば露國瓦解前に於ける北滿地方に於ける露亞銀行の如き此の金融政策に由り露國の經濟的基礎を確定せるが如く又鮮銀行の進出に由り哈爾賓方面に於ける露國を驅逐し我が金券を流通せしめ我が經濟勢力圈を擴大せるが如き

植民地に 於ける特殊の銀行として其の成功を認むべきなり而して此の基礎を築き上ぐるに於ては一國家の實力に隨伴し銀行としても亦多大の犧牲を拂ひ母國の金融と密接なる連絡を保たしむる事は努力を要する處にして其の方針國家の植民政策の大方針と相呼應し百年の長計に出でざる可からず近時滿洲中央銀行設置論者の說くが如く爲替の利益を得る爲に國際貿易の妙味あり金券流通は却つて海外發展の蹉跌を來すと稱し或は銀を以て

國家本位 と稱し金券を强要するも邦商の利害は鮮銀券を用ふると用ひざるとに相關せずと稱するが如く多くの出願者により請願せられつゝある滿洲中央銀行設立の目的とする處を窺ふに足るべし滿洲中央銀行の設立は必要なるべし然れども爲替の利益を目的とする銀券の濫發及び各種の取引を銀建にする爲の銀券發行を目的とする中央銀行の設置は邦家の爲め殖民[illegible]中央銀行としては全く相反するものにして却つて國家の殖民地金融策に遠離せしむるに至るべく

大に考慮 を要する點なるべし更に現に滿洲中央銀行としての使命を有する朝鮮銀行も[illegible]際[illegible]の眞使命を遂行する事に努力し正金東拓と相提携し其使命を完うして遺憾なきに至らば屋上屋を架するが如き新銀行出現の要なかるべく以て殖民地の金融を統一し滿洲に於ける我が經濟的基礎をして益鞏固ならしむるを得べし(大連)

京城財界實勢

十五ヶ年間に於ける　商業中心地移動

過去十五年間の京城財界の實勢を通觀し其の向上發展の所特に著しかりしものを時期によりて區劃せば日韓併合以後歐洲大戰迄と歐洲大戰以來財界好調時の末期迄とに區分するを得べく此兩時期は

京城財界に與へし 影響の廣汎なりし點に於て新舊實業家の實力增進せる點に於て眞に一大段落的區劃を存するものと謂ふべし今此の兩時期に於ける京城實業家の實力增進の狀況及京城商業中心地移動の跡を觀るに日露戰爭により吾國の韓國に對する政治的地位の進步と共に朝鮮投資の有利なるを思はしめ內地人の渡鮮する者漸く多く日韓併合により渡鮮者の數益々多きを加へたり而して茲に京城に於ける內地人實業家の新舊人物を配定するに日韓併合以前の渡鮮者を舊派とし夫以後の來鮮者を新派とするの必ずしも不當ならざる理由あり併合以來既に十年の星霜を閱したり而も單に十年一昔の意義に於て

日韓併合の前後 を以て新舊者を區別するにあらず其前後に於て經濟上看過し難き投資觀念の相違著しきものあればなり日露戰爭以前は暫く論ぜずとするも日露戰後帝國の保護制度實施時代に於て尙朝鮮に對する放資上の不安は一般鮮內の安寧秩序の維持尙充分ならざるを以て容易に去り離きものありしが一度日韓併合によりて商取引上にも投資上にも一大安定を得各人安心して取引をなすに至れり之を以て見れば日韓併合の前後を以て來鮮者を新舊に區別する甚だしく失當ならざるべし而して今日京城實業家中資力に於て聲望に於て第一流者を以て目さるべきは茲に所謂舊派に屬し殆んど併合以前の渡鮮者にして

併合後に渡鮮せる 少壯者間には其年齒に於て財的實力に於て手腕に於て未だ目するに第一流を許し得る者果して幾人を數ふべきか日韓併合以後は明かに投資上の安心を與へたるも未だ投資に對する收利を獲得する時期にあらざりしは新舊實業家を通じての現象にして一言を以て評せば日韓併合以後歐洲大戰開始迄は準備時代にして各人自家營業に專念したり只此間に於て新舊人間に投資上に相違の點を擧ぐれば新人は來鮮以來年所淺く從つて自家關係事業の經營に忙しく土地株式賣買等に投資するの餘裕に乏しかりしも舊人中には既に羽翼漸く成りて自家營業以外土地の買入又は鮮內地方農事經營に手を染る者等漸出しつゝありし一事なり

斯る間に歐洲大戰 の序幕は開かれたり而して京城財界の膨脹發展の度合に比して京城こそ大戰の齎せる恩惠を蒙る度合少かりしも京城は京城として異常の發展を示せり歐洲大戰の齎せる財界の好潮によりて京城實業家は自家營業以外に又は自家關係商品の値上り以外に(土地及び株式賣買事業者は別として)蒙りたる恩惠は所謂土地及株式の昂騰にして必ずしも先見の明ありたるに非ざるも買入たる土地株式の値上りは自然的に他動的に不知不識の間に自家財力を增加したりと云はんよりは餘儀なく增加せしめられたり而して此點に於て舊派實業家は新派實業家に比して有利なる地位にありしは前述する所によりて明白なり之れ今日京城に於ける內地人

實業家中舊派に 屬する人物中より第一流者を出す所以なるべし尤も株式に就ては大正六年當時迄は之に關係するは眞面目なる實業家の爲すことにせざる處と唱へ居りたる實狀なりしを以て株式によりて京城に於ける實業家が受けたる恩惠は土地の値上りに依りて受けたる分量に比し遙に少量なりしは明かなり要するに歐洲大戰開始以來最近の財界大動搖の直前までは我の日韓併合以來の準備時代に對比して財界活躍時代と稱し得べく戰後に京城商業中心地點が漸次本町通より南大門通に移動せんとする傾向あり此の狀勢は歐洲大戰以來特に著しきものあり之地方有力者の商機を逸せざらんが爲め本店を京城に移せる者

支店を設置したる ものは多くは卸商にして本町は本來小賣商店の多き商區なること又新たに店舗を設くる餘地なかりしことにて勢ひ新店舗を南大門通に設置するに至れり從つて今や本町通は其內容は兎に角に外觀上小賣商店通となり南大門通は卸商店通となり此色彩は日に逐ふて鮮明するに至れり而して大體に於て舊實業家の店舗が本町に櫛比するに對し新進實業家の商舖が多く南大門通に軒を列ぬるは亦奇なる對象なり

仁川觀測所に在る世界最古の測雨器

朝鮮の王朝時代に發明

‖朝鮮人が雨を怖がる證據‖

仁川觀測所の前栽には、お手植の樹木や日露戰役當時の砲彈などに交つて王朝時代の珍らしい觀測器が澤山に並べられてある、然し孰れも彪大な石造品で到底現代の

精巧緻密 な觀測器には及ぶべくもないが、泥板岩の表面に刻まれた十二支や其側面に彫刻された平面觀象儀などの文字を見れば朧け乍ら當時の觀測法が髣髴させる事が出來る、中で最も面白いと思はれるのは測雨器と稱する物である之は直徑一尺高さ二尺位の

石造丹柱 の上に深さ三寸直徑五寸位の圓い穴を穿つたものでこの上に又二尺位の截頭圓筒が載る樣に出來て居る同所長平田理學士の語る所に依れば王朝時代の測雨器と云ふもので其構造は現代のものと殆ど相異はないが世界で最も古い雨量觀測器であると云ふこれには面白い話がある現今でも此間の漢江氾濫の樣に雨は朝鮮で最も恐ろしいものになつて居るが

王朝時代 には殊更に甚しかつたらしい。それも其筈內地では二百十日を恐がるが朝鮮では颶風が少い代りに雨の遲速と多少に依つて其年の稻の收穫が定まると云つてもよいのだから……閑話休題迷信深い鮮人のやりそうな事だが王朝時代の人民は其年の雨の潤澤を以て王の德に歸するものとした其處で歷代の王は各々

王城內に 觀象所を設けて例の諸器械を設置したが中でもこの測雨器は最も鄭重に扱はれ雨がある度毎に王手づから物指を以て一々測られたものだと云ふ當時の測候所は各道守の所在地に置かれ中央測候所と云つた樣なものが王城內に置かれてあつたがこの測雨器は當時の王(失名した)の工夫になつたもので今より四

五百年前 に造られたのだといふ猶單に鮮人の發明に係るのみでは無く實に世界最古のものであると云ふに至つては香氣な鮮人が如何に雨を恐れたかと云ふ事が推し測られて面白い然も年々殘した記錄は約百五十年間に及ぶものがあると云ふこれ亦世界唯一の雨の記錄として珍重されてゐるさうだ(仁川支局)

婦人と社會事業の關係に就て(一)

法學博士　小河滋次郎氏談

所謂救濟なるもの、一言以て之れを掩へば世の弱者を助くると云ふことに外ならぬのであつて助くるは即ち力である、而して此の力の中にも自らまた權力、智力、勞力、金力、信力或は愛の力と云ふやうな風に色々に其の

種類が分れて 居ることを考へて見ねばならぬ。假へば茲に他に頼る邊なき一人の憐れなる傳染病者を救濟することありと假定せんに、差向き先づ之れに對して消毒隔離の措置を取るとか或は之れを避病舍に收容するの手續きを爲すことであらうが、此の働きは即ち傳染病豫防規則と稱する法令の要求する所であつて所謂權力に屬すべき救濟と認むることが出來る、また避病舍に於ては醫者なり看護者なりが居つて病者に對して必要なる療養の手當を施すので是即ち智力である。運搬、炊事、洒掃等の仕事に任ずる者もなくてはならぬ譯であるが、此の如き方面の働きは即ち

純然たる勞力 を以てする救濟と認むべきものである、而してまた是等の力は必ずや物質的報酬及び外形的設備と密接なる關係を有すべきが故に兼ねてまた金力の働きが大に加味せられて居ると云ふことを想像せねばならぬ、若し夫れ病者に就て親しく慰藉開發の道を傳へ或ひは死者の靈を弔慰するの勤めに服する者ありとすれば彼は即ち信の力を加ふるものなりと認むべく。若しまた衷心から深く病める憐れなる者の身に同情して、自ら進んで其の精神的及び肉體的すべての苦惱を慰はり救はんが爲めに温き慈愛の手を下してやるものがあるとすれば、茲に即ち愛の力の働きありと謂ふことが出來るが

此の各種の力 互に相俟ち相備はることに從つて始めて完全なる救濟事業の本領の發揮せらるゝものあるを得る譯であるが、然も斯業の實際に就て之を見るに。其の能く各種の力の適當なる配合調和を得て居ると認むべきものは幾何もなく、或は金力に偏し或は智力に傾き、或は權力に重くして信力に輕く、甚だしきは即ち全く愛の力に缺乏して居るが如きものさへ少くない、今の傳染病者を收容する所の避病院の如きは、公衆衞生の爲めにする必要の施設たるは勿論なるも、一面にはまた不幸なる傳染病者を救療するが爲めに設けたる慈悲的保護機關の一種でなければならぬ筈である、然るに

此に收容せらるゝ所 の不幸なる傳染病者が果して其の收容の恩みを感謝する所なりやと云ふに、啻に感謝の心を有せざるのみならず、寧ろ多くの者は避病舍に送らるゝことを以て地獄か墓場にでも擲き込まるゝやうな感じを持ち、避病舍の內で周到なる手當を受けつゝありながらも、どうかして此處を拔け出したいと云ふやうな考へを有して居るの始末である。是を以て或は下層民の新智識なきが爲めとか若くは衞生思想に乏しきの致す所なりと速斷する者もあらうが、若し避病院に於ける內部の實況殊に病者の取扱ひに關する實際に就て之を見れば、必ずしも

一概に下層民 の不心得のみを責むることは出來ぬと思ふ、何となれば避病院に於ては權力も金力も相當に揃つて居り、智力のために働く所の勞力のために働く所の機關即ち役人及醫者、人夫、看護者等も亦遺憾なく具備せられてあるに拘らず、病者の憫める心身を慰藉するに足るべき信の力、愛の力の働きに闕如するの甚だしきが故に、斯かる境遇に身を置いて心なき能はざるは已むを得ざるにして、救濟を受けて救濟の恩みを感謝せず寧ろ公利公益を保護する法令の犧牲となりて病院生活の苦痛を忍ばざるべからざるの非運を喞つに至らしむることも決して怪しむに足らざる

自然の結果で あると見ねばならぬ、救濟事業における愛の力は恰も靈の食料に缺くべからざるが如きものであつて、若し愛の力の斯業を一貫する所のものなきに於ては、譬へば靈魂なき骸と同じく、如何に立派に組織せられたるものにしても決して斯業の名實を全ふするのと言ふことは出來ぬ、斯業の名あつて斯業の實なきこと、今の避病院に傳染病者を收容しつゝある狀態を目して之を[illegible]救濟事業なりと認めざるが如きと同じである、我國に於ける救濟事業は概ね此の缺點なきの之に比して、金力なり智力なり其他總ての必要なる原動力の

甚だ渉弱なる は爭ふ可からざる事實であるが、就中其の能はざる所なるが、最も必要なる愛の力と云ふ點に於ては何れの方面にも極めて其の缺乏の著しきを遺憾とせざるを得ないのであるが如くに感ぜざるを得ぬ(未完)

■官紀と寒氣■

或冬の朝であつた、定例長官會議が開かれた時の事である、寺內總督は開會定刻以前に既に議場に出席して、一同の出勤を待つて居られた、前日から夜にかけて、白いものが京城を掩ふたが、四溫日の事とて割合に寒さを感じなかつた、然るに定刻が來ても、何人の顏も見えなかつた、恪勤精勵の總督は、大分不快に思はれて居たらしい、待ち兼ねた樣に二階の窓に寄つて南山に對して雪景色を眺めて居られた、處へ某々二人の長官が出勤して議場に這入つて來た、二長官は總督が既に出席せられて居るのに聊か面喰つた樣に、早速總督の側に行つて挨拶した、總督は無言で受けて尙ほ窓外を眺めつゝ『カンキが少し緩んだね』と云はるゝ、長官等は早速カンキを寒氣と思つて『ハイ丁度四溫に入りましたので……』と答へると『思庇ツ……カンキぢやない……』カンキは官紀であつたので長官達は大閉口と云ふのは當時某長官の談

祝拾五周年

京城本町一丁目
書籍 文房具 運動具
大阪屋號書店
電話二〇八六番 六八四番
振替京城二五七三番
本店（東京）支店大連、旅順、鐵嶺、釜山、鞍山

名帅源一郎

京城府岡崎町五番地
自動車製作 同部分品附屬品販賣 諸機關修理調節
織居自動車部
電話長一〇一番
振替口座京城五〇五八番
電略（オリイ）又ハ（オ）

京城府太平通二丁目
常盤商會朝鮮營業所
電話長五七六番
京城府龍山元町一丁目
常盤商會精米所
電話（龍山）長七四三番

京城府岡崎町
朝日石鹸株式會社
電話二五六四番
振替京城四〇〇番
電略（ア）又ハ（アサヒ）

京城府黄金町二丁目
開平炭輸入元 株式會社 **松昌洋行**
京城出張所
電話一七五番

京城蓬萊町
三巴酒造株式會社
電長一〇六七番・振替京城六一八番
平壤壽町（電話五一一番）
三巴出張所
太田春日町（電話二一五番）
三巴出張所

和洋紙販賣
印刷○製本
朝鮮京城府南大門通二丁目
土佐紙株式會社京城支店
電話（長三一五番 長四〇五番 二一七番） 振替口座京城八五九番 電略（トサ）
釜山埋立新町
同 荷捌所
電話長四二八番

京城
三越呉服店

京城本町一丁目
株式會社 **大澤商會京城支店**
時計部長電話二六二番
寫眞部電話三三九番
自轉車部長電話四八〇番
振替貳參一番
社長 大澤德太郎
京城支店長 眞木仙次郎

南滿洲鐵道株式會社
商事部販賣課
京城出張所

京城義州通一丁目
朝鮮煙草株式會社
電話一八七番 一三七〇番

京城運送業組合

朝鮮運輸聯合會會長
大和與次郎

中島早太郎
京城府漢江通一三
電話二六四番

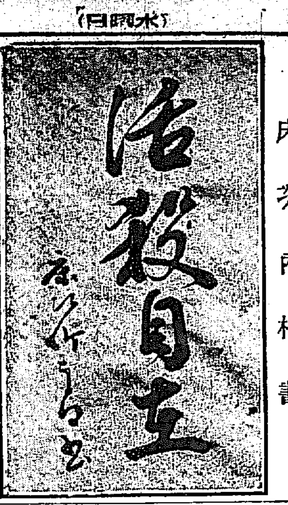
合名會社
鈴木商店京城支店

京城電氣株式會社

三井物産株式會社京城支店

野田遞相書

床次內相書



京城新聞界の變遷

過去十五年間に於ける半島史の半面

蒼洞病客

十五年間、長しと云へば長し、短しと云へば短い、十年を一昔と云へば、十五年は一と昔半である、さは云へ歷史上から見るさ、十五年位の日は、差したる期間とは云へぬ、而し乍ら過去十五年間の出來事は、歷史上には閑過の出來ぬ重寶であらねばならぬ、而も一國に於ける此の十五年間は、最も心轉ある歷史を有する、若し大朝鮮近世史を作る人があつたならば、此の十五年間の出來事が、其歷史の基礎となり、骨子とならねばなるまい、私は今京城日報の十五年記念に當り、京城十五年間の過去を追懷して轉た感慨禁する能はざるものがある、私はこの機會に於て過去十五年間の京城新聞界を追懷して見たいと思ふ

初期の新聞紙

一體京城に於ける新聞の紀元は、明治十六年一月井上角五郎氏がまだ青年當時に時事新報と朝日新聞の通信員として、時の公使竹添進一郎氏に隨つて京城に來て、朴泳孝、金玉均の兩氏と同年十一月から漢城旬報と云ふのを發行した、之れが京城での新聞の嚆矢である、井上氏も最初新聞經營の積りで來たのではなかつたが、妙な事になつて新聞を發行する事になつた、勿論當時であるから印刷機械などはない、で鐵筆版でやつて居た、井上氏は其の記事上から當時の在留日本人の一部から非常な不興を被つて、或時は今の本町一丁目邊で散々撲られた事などもあつた、旬報は明治十七年の變亂で倒れて仕舞つた、其れから二十八年になつて二月から安達謙藏氏と佐々正之氏が公使館援護の下に日韓兩文の漢城新報と云ふのを發行した、之れが稍完全な新聞であつて京城唯一の冒險機關として日韓人に歡迎せられた、處が主筆の菊池謙讓氏が或事情から漢城新報を去つて、三十七年に大東日報を創刊し、漢城新報と相對峙して筆陣を張つて居た、當時の漢城新報は旭町二丁目の靈廟寺の下の方の引つこんだ處にあつた、而して大東日報は今の商品陳列館から本町へ越る處、佛蘭西教會堂の下の方にあつた、新報には故印刷局の事務官をして亡くなつた故高木氏が主として筆を執つて居た、而して二新聞の外本町に書籍店を營んでゐた長谷川自適と云ふ人が主となつて、韓半島と云ふ雜誌を出て居た、記者や寄稿家には、帑原傭士を始め朝鮮研究家や、文學者なども居て內容充實した好雜誌であつたが殘念にも短命であつた、今隱れて居るけれど鮎貝房之進氏なども槐園と稱して和歌の寄稿などをしたものだ、中島司馬之助氏なども蘭浦と稱して執筆して居たものだ、三十九年以前の京城の新聞界はザット斯う云ふ有樣であつた

統監府の設置

明治三十九年、其前年十二月二十日の勅令で京城に統監府設置と決定、二十餘年來日本帝國を代表して日韓國交の衝に當つて幾多の歷史を有する公使館は撤廢せられ、明治十八年以來京城居留民を統治して居た領事館は閉鎖せられ、一月二十九日統監府總務長官故鶴原定吉氏が先づ入城し、二月一日を以て統監府を開き、領事館に代つて理事廳を設け、二月林權助公使は京城の人々と袂を分つて歸朝し、三月三十日故伊藤博文公が統監として堂々入城し、綠色日章旗は高く統監府上に鮮かに翩翻とした、隨從の主なる高官は先づ總務長官鶴原定吉氏を筆頭に農商工部總長に木內重四郎氏、警務總長に岡喜七郎氏の諸氏あり、韓國顧問としては財務に目賀田種太郎氏、軍部に野津鎭武氏、宮內に加藤增雄氏、政務に丸山重俊氏、學部に幣原坦氏、次で俵孫一氏參與官たりで、洵に錚々たる多士備はれりと云ふべしである、統監府は始め、現編宮內にあつたが間もなく南山の新築が出來たので移轉し併んな開廳式を擧げた、京城日報の生れ其の他の新聞が大活躍を始めたのは之からである

京日の創刊

當時朝鮮側を見ると皇城新聞、帝國新聞、國民新聞日く何と深山な新聞があつて皆夫々或る方面の機關紙も少くはなかつた、就中特別の色彩を以て其等諸新聞中に一番振つて居たのは大韓每日申報であつて、今の東亞日報の顧問とかをして居る梁起鐸が總務で盛んに排日主義を唱わた物だ、而して其裏面には排日英人でコレヤ、デーリーニユースを發行して居たヴエツセルやハーバートなどの徒が牛耳を執つて、何かをものにせんとして居た、早くも京城の新聞界を一新した統監伊藤公は有力なる一機關紙の必要を感じて漢城新報、大東日報を買收して一大新聞を組織し、其れが具體的に現はれて來たのが京城日報である、即ち統監府囑託であつた故伊東祐侃氏をして主宰せしめ、九月一日から發行した、當時は日韓兩文の新聞紙であつたが間もなく韓文の方は廢止して邦文のみとしたのである

丁未政變

京城日報の發刊から間もなく邦字新聞大韓日報が發行された、同紙はもと鹽生十郎氏等が韓文で發行して居たのであつたのを此の時から邦文に改造したのである、後宇都宮から選出代議士となつて居て死去した戶叶薰雄氏が主としてやつて居た其後戶叶氏は社長に山道襄一氏（現代議士）主筆として活動を續けた明治三十九年もイザコザの內に暮れて四十年を迎へた、同年は頗る多忙な年であると共に各新聞も非常の努力と、頗る奮鬪を續けたのである、即ち同年は丁未政變のあつた年であるから、從つて記者連は日夜殆んど無休で努力を續けた、卅九年以來朝鮮問題は內地からも大いに注目せらるゝやうになつたので、大阪朝日新聞は特派員高松正道氏（現代議士）續いて大村友之丞氏（現京城商業會議所書記長）を送り大阪每日新聞は通信員中島司馬之助氏を助けて現大阪每日新聞北京特派員楢崎寬一氏を送り、東京時事新報からは久田宗作氏來り、日本通信よりは此經春也氏來り其他今の李王職事務官黑崎氏等務局囑託の武田氏熊谷直亮氏等も國民、報知其他の通信員として活動したものだ

記者團の活動

丁未政變は別問題として、同事件に絡いて新聞記者團の大活動は同年十月時の皇太子殿下即ち今上陛下の御渡韓である、恐れ多くも殿下は故有栖川宮威仁親王殿下を始め奉り內閣總理大臣桂太郎、東鄉元帥、岩倉公爵、花房男爵、村木武官長等を始め多數の供奉員を隨へさせられ日韓皇室御親善の爲十月十日東京御發輦、吳軍港より御出發軍艦鹿島、磐手、淺間、對馬の諸艦警備し奉り威風堂々海を壓して月の十六日仁川港に御着あらせられた事と、十二月李王世子殿下の東京御留學の事であつて、日本の各大新聞は通信員、特派員、外國通信員等は京城に押し寄せて、各々其の詳報を夫々本社に通報したのであつた、恐らく此の時程京城の新聞界の賑はつた事はなかろう

諸新聞の簇生

四十年には簇々として諸新聞が創刊せられた、峯岸繁太郎氏の京城新報、頭本元貞氏のセウルプレス、其れから大阪每日新聞支局、報知新聞支局、日本通信支局、電報通信支局と京城の邦人新聞界漸次繁盛を極めて來て朝鮮側の新聞界は一進會の機關紙國民新聞と大韓每日申報等が盛んで他は云ふ程のものではなかつた、伊藤公は屢々內外新聞記者を京城ホテルに招いて意志の疏通を計り、又新聞社側でも記者團を組織して時事に付いて熱心研究調査したものである、之れか京城に於ける記者團の嚆矢である、（現今の記者團に非す）此記者團には後には仁川で發刊する朝鮮新報、朝鮮日々新聞、朝鮮タイムス等も各々京城に支局を以て居て參加したものである、明治四十年は送迎に暇のない程急がしい年であつた、從つて新聞記者連も實に目の廻る程の努力をしたもので、而して繁忙裡に四十年も暮れて四十一年になると新聞界は益々繁昌して來た

歷代の社長

（上右）前監督德富猪一郎氏（上左）二代社長大岡力氏（下右）三代社長吉野太左衛門氏（下左）四代社長阿部充家氏（初代社長伊東祐侃氏を缺く）

面白き挿話

之れは天機漏すべからずであるが茲に一さつ面白い挿話があるから一寸茶目を發揮して餘興に書添へる事とせう、それは世間一般には知れて居ない筈だ、熊本の人で江藤某と云ふ才物がある、此の人が突然京城に乘り込んで全羅南道の莞島森林拂下の出願をしやうと云ふのであつた、莞島の森林は現今でも存在して居る通り、朝鮮では實に稀な大森林で、勿論其價値も莫大なものである、江藤は才物丈けに充分の運動方法を講じて乘り込んだ、而して其れ丈け大袈裟であつた、詳細は敢て言ふ必要はない、が此の問題から端なくも某々高官の爭執となり引いて記者團の大問題を惹起したのであつた內容は敢て外部に發表されなかつたから世間では餘り多くを知る者はなかろう、或一部分は發表せられたけれど幸ひに社會の問題とはならなかつた、此の問題に關しては伊藤公も大分立腹した樣であつたが大分變應もして居たらしかつた、明治四十一年は此の問題で暮れ四十二年を迎へた、京城日報社は或都合から伊東社長の辭職となり故大岡力氏が代つて主宰する事となつた、莞島問題は所々に飛火がして、記者團中にも軋轢が猛烈であつた、無論其背後には某々高官が潛んで居た事は事實らしい

伊藤公の遭難と政界の混亂

之より先伊藤統監は四十一年六月十五日樞密院議長に轉じ副統監故曾禰荒助子爵が統監となつた、伊藤公は一端內地に歸つて更に七月一日大磯田發京城に來て韓國皇帝始め三年有半親交のあつた韓國の山川に別れを告げ七月十四日京城を出發し內地から露國行きの途中十月二十六日哈爾賓で兇漢の爲めに斃れたものだ、此の報が一度京城に達するさ官民驚愕或ば何事か突發せんかの模樣があつた、此の時曾禰統監は丁度仁川觀察中であつたが報を得て周章歸城した、南大門驛に迎ゆる韓國の大官連は何れも色を失つて居た、統監は直ちに官邸に歸つたが、漢城の空氣は一大混雜を來し流言は八方に飛び暗殺の氣構城を壓する者があつた、其處で韓廷は大使を派して謝罪せしめやうとの議もあつたが、日本政府は其事に及ばずとして人心恟々たる間に時間は經過したのであつた、而して同年次に起つた問題は一進會長故李容九氏が合邦一百萬人を代表して日韓併合を曾禰統監に促し其急なる事は韓帝に上奏したのである、京城の政界は又大いに色を出した、四十二年も此多忙の爲めに暮れ四十三年を迎へた、同年曾禰統監は病を以て其印綬を解き內地に留まり故寺內正毅子爵五月三十日の統監の印綬を帶び威容堂々京城に入つた而して同年八月二十九日韓國併合の詔勅及び宣言勅令が發せられ同時に韓國を朝鮮と改めらるゝ事となつた

新聞界の統一

新聞界にあつては朝鮮タイムスが解散し朝鮮日々新聞、朝鮮日報（大韓日報改題）東洋日報、仁川の三新聞等は何れも解散したが獨り峯岸氏は京城新報に據つて統治の攻擊急であつたが遂に四十三年寺內總督記事の事から發行を禁止せられた、京城に於て發行禁止に逢つたのは前後を通じて京城新報許りであらう、一方朝鮮側を見ると依然として諸種の新聞はあつたが一機振はない、朝鮮內閣の機關紙であつた大韓新聞も一時は盛んであつたが、やがて散々たるものとなつて相變らず大韓每日申報のみが稍振つて居たが之とても前年程のものではなかつた、併合當時記者團も大分活動したものだ、此の樣な具合で、一時發立して居た新聞も何時しか統一せられて仕舞つて京城では京城日報許りになつたが京城日報も四十三年に大岡氏の退職と共に東京國民新聞社長德富猪一郎氏が主宰する事となり、吉野太左衛門氏が社長として入社した、統監も總督と名が變つて之から新規蒔き直しと云ふ事になり、梁起鐸は陰謀事件を以て去り、ベツセルの死した後の大韓每日申報は非常の困難に陷つて遂に京城日報社の買收する處となつて、京城の新聞界は京城日報と同社の經營する每日申報との二新聞許りになつたで、仁川の朝鮮新聞が京城支局を擴張して殆ど京城本位の態に活動する樣になつた、併合後の新聞界は前年に比する非常に淋しくなつた、而して內地から記者を特派して居た新聞社も次第に特派員を中止し便宜通信員を置き、最早朝鮮問題を重大視せぬ樣になつた記者團も從前の記者團は何時とはなくに解散して仕舞つて、新たに現在の記者團が生れた次第である、京城日報も吉野氏が退職し阿部充家氏が後任として入社した、京城の新聞界は依然として併合前の樣な旺盛を見る事は出來なかつた、寺內總督が去り長谷川總督が退き更に齋藤總督の時代となり京城日報も阿部氏去り加藤房藏氏來任して今迄の面目を一新し、朝鮮側にも三新聞が出來、朝鮮新聞は京城に移轉し牧山耕藏氏の手に移つて、大分新聞界繁昌を見る事となつた、而して前年の例の萬歲騷動以來各所に不逞鮮人の跋扈と共に更に、朝鮮問題が重大視せらるゝ樣になつて、再び新聞界も[illegible]するに京城[illegible]に旺盛を極むるか否かは未だ何とも云へぬ

過去十五年間の追懷を書けば々に盡きぬ、僅に大冊の書籍ともなるのだらう、實は最う少し立ち入つて――政治界にも亘つて――書いて見たいと思ふけれど其れは後日の事とする、實は聊か其積りではあつたが思ふ仔細あつて此の樣なつまらぬものとして仕舞つたのである、此の時代を通じて京城で未だ依然として新聞雜誌の職にある者を物色して見ると、朝鮮新聞社長の牧山耕藏氏と京城日報の奧田鑛氏の二人者であらう、雜誌の方では釋尾旭邦氏がある計りで其他は大概轉職するか又は京城に居ないのである、嗚呼過去十五年の半島の舞臺は全く走馬燈を見る樣である、夢とすれば頗る面白い夢であつた。

徳富猪一郎氏書

十五年前の裁判所

中村覆審法院檢事長談

近く高等法院檢事長に榮轉すべき京城覆審法院檢事長中村竹藏氏は語る

私が朝鮮に赴任して來たのは明治四十年の春で京城日報が創刊されて間もなきの時分でした、未だ其當時は舊韓國政府時代で私は法務院の鮮人裁判所の補佐官として招聘された譯です。此時代の

朝鮮の司法制度は

內地へ留學した鮮人司法官が施を內地に執つたので形式上は左程に潰滑なものもなく寧ろ整備して居た方です裁判所は府郡に區裁判所式のものがあり各觀察道と京城に地方裁判所式のものがあり京城のは特に漢城裁判所と稱せられてゐた又最後の大審院といつた樣のものが京城に在り平理院と稱されてゐた今京城地方法院檢事局附近に朝鮮家屋があるが茲が平理院であつた夫れから漸次事務が多忙となり外觀も壯麗を要するところから此平理院前に今の地方覆審兩法院の建物を建築する事になつた彼の建物も出來上つてから既に足掛け十五年の歷史を持つてゐる

其當時の制度では

小事件は三審制々重大事件は二審と云ふ不合理な制度で今日から見ると實に不思議な感があります丁度自分の赴任當時の法部大臣は李夏榮子爵で其當時の民事事件では墓地の問題が件數も多く紛擾の解決に數年を要したものもあり之れが司法官が一番惱まされた事件でせう次に府郡の裁判所の司法官が賄賂を取つて不公平な裁判をしたと云ふ事件が隨分多く上級裁判所に訴へて來るものも尠くなかつたが何が司法警察の方面が充實してゐなかつたので贓賄の事實などは全く調査立證された事は無つたやうでした。又顯官に請託の運動盛んに行はれ訴訟毎に當該關係司法官より上級

要路の顯官に運動

して專斷な裁判の結果を見た實例な多々ありますが當該司法官が硬骨漢で上官の命令を峻拒する等の場合又は內心此命令を寡ばない場合などは其事件は何年も手を附けずに棄て置くと云ふ有樣なので御話にはなりません又此裁判所延引に就い原被告等から更に上級裁判所に裁判を早くして欲しいと訴訟を起すと上級裁判所は事情を調査して當該裁判所に裁判を早くすべしと命令するさ云つたやうな案配で今日から考へると珍妙な司法制度が法律で公布され又夫れが行はれてゐたのです。何にしろ古來の傳統を享けて司法官は專橫であり國法と雖も時と場合では適當に變改されてゐたので

司法權の獨立杯は

夢想する事も出來ず縱はず人民が虐げられ苦しめられて居たのは事實らしい從つて種々な面白い事件や珍妙な訴訟も尠くなかつた。僅か十五年と云ふ短い期間ではあるが朝鮮の司法制度の改善向上は素晴らしいもので百般事物の發展著しく殆んど隔世の感があります。吾々が赴任して來る前年則ち明治卅九年に赴任した人が來て數名殘つてゐるやうですし我々と殆ど同時の赴任連中も數名ゐるやうです。

亡命露國民の窮狀

哈爾賓の『ソビエット』紙は前記の題下に次の如く說けり

今や露國は其の全部に亘りて大移住起れり革命運動の始まるや所謂政治的移住者の大多數が歸國を許されたるに拘らず尚殆んど人口の六分の一を減少せり今此の由來を考ふるに帝政時代に大戰の際亡命し革命運動の始と共に歸國したる露國民の多數は從軍を嫌忌したる猶太族にして始め英國に移り英國の參戰するに及びて米國に渡航せり然るに其後革命によりケレンスキーは凡ての亡命者に歸國を許し且從軍は之を強制せざる旨宣言し恰も當時米國も亦既に參戰せんとせしを以て亡命者の一團は米國は無論各方面より潮の如くに入國し來り所謂無政府共產主義を極端に高唱したり而して此等の人民が過激派政府の重要なる地位を占むるに及び此處に有識階級に屬する大殺戮は行はれ共產主義派の毒牙を免れんとして遠く國境に走る者漸々として踵を接するの狀態となり其正なる愛國者たる有識階級者の亡命を起すに至れり今其の國外にある者日本のみにて五萬人を算す又最近の報道によれば波蘭に於て『ワルソー』附近にある者十萬其の國內に散在せる者總て二百萬に及ぶと云ふ其他支那、滿洲、土耳古、伯拉爾の諸國に亘りて避難せる者亦尠からず、しかも彼等の生活狀態を見るに甚だ困難なる者あり其の支那に在りては苦力となりて僅に糊口を凌ぐ者さへあり彼等は斯くの如く生活の困難を嘗めても亡命して共產主義派の毒牙を免れ片時たりとも其の恐怖を忘れんとを希へり彼等は海外にありて失望の悲慘に泣き望鄉の情禁ずる能はず到る處不名譽なる國民として侮辱せらるしかも其の不名譽は即ち露國民の不正なる分子が自ら招致せる處又如何ともなし難し嗚呼慘なる哉

偶々有力氣慨の士國境に止りて祖國の危機を救濟し頹勢を挽回せんと奮鬪する者なきにあらずといへども之れ亦遂に力盡きて亡命の悲境に了るのみ

內鮮叺の混戰

朝鮮に於ける

播磨叺聯合會　千家惠夫氏談

私は大正五年五月以來屢々來鮮して朝鮮に於ける鮮叺の狀態を調査して居るが最初來たのは其月から私等の從事して居る兵庫縣の神崎叺の朝鮮移出が

遽に減少し

たので其の狀況と原因を調べに來たのであつた其時總督府を訪問し人見農務課長や三井技師に面會の上地方に往つて見るこ道廳への通達の文に『鮮叺の移入を防遏する爲めに急速に之が製作を獎勵せよ……』云々さあるのに驚いて內地叺移入減少の原因が全く總督府の自作自給政策に基づくものである事を知つた當時朝鮮に於ける需要額は一千萬枚位であるのに生產額は五百萬枚にも達しないから不足額はどうしても內地から移入を仰ぐより外に方法がなかつたのである。然るに今回來鮮して見るこ其の生產品は四箇年で既に四倍に達し內地品移入の餘地なきに至れるのには恐縮し甲を脫いだ次第である

此の狀態を

以て進めば三箇年後には朝鮮叺は反つて九州方面に逆出し內地品と販路を爭ふに至ると信ぜらる。我々の從事して居る神崎叺の生產地たる兵庫縣神崎郡の狀態は年額四百七十萬枚でタツタ一郡で良く五百萬枚近くの生產額がある製品は主として大阪、神戶、岡山縣方面の肥料用と朝鮮に於ける穀類用であつて大正二三年頃迄は湖南線群山、木浦、江景、論山其他京義線各驛元山等迄仕向けたのであるが朝鮮に於ける生產が激增するに從つて販路退き最近では秋風嶺以南に限られ目下大邱附近に於て混戰

勢力相半の

狀態であるが地の利を有する朝鮮叺の爲め本年中だけでも死守し得るや否やが疑問である我々の郡としては實に大打擊であるが朝鮮叺及び朝鮮人の爲めに定に幸福であると慶祝して居る次第である

思ひ出のまゝ

公立京城幼稚園長　京口貞子女史談

私が渡鮮したのは明治三十四年で三十八年八月一度歸國しましたが其の時丁度富山日報社が日露戰爭休戰の號外を配布したやうに記憶して居ります其頃の朝鮮は危險な狀態でいつ厄災事件のやうな慘虐な事件に遭遇しないとも限らず隨分不安を抱いてゐるましただけに當時の印象は可なり深刻なものがあります御社が創刊されてからと云ふものは日毎に京城の天地が明るみへ出るやうになつたので鮮人から石を投げつけられるやうな恐怖も無ければ現在の府廳前から梭洞邊りまで行のに連れを誘つて車で遠い旅をするやうな氣になるやうな事も無くなりましたそして私の京城に來た第一印象は穢汚い土地だと云ふ事より他にはありませんでした。此處工合で十五年前の記憶と申せば先づ左のやうな事どもでせう……

京城婦人會と愛國婦人會

現在の京城婦人會は明治卅一年に塚尾さんや山口さんの奧樣方の御盡力に據つて設立されたものであります又現在の愛國婦人會の設立されたのは夫から少しと後のことで明治卅八年だつたと記憶して居ります、其當時は六十人ばかりの會員しか居りませんでした最う何事が起るにつけても相談する所は京城婦人會か愛國婦人會に限られてゐたのでありますそれが後になつて京城に二つの婦人會は必要がないと云ふ議論が出て種々物議を釀したこともありましたが其度毎に今は逝くなられました山口さんの奧さまなどが生みの親が殺して愛國婦人會だけを育てゝ行かうなどとは親不孝も甚だしいと大そう怒りになられたものです、今でこそ京城婦人會は孤影蕭然たるものですが昔はなかなか權威もあり勢力もあつたものです、

デモ奧樣連の沒落の悲哀

當時御承知でも御座いませうが故伊藤公が時の統監に就任される迄の朝鮮狀態は例の朝鮮特有のデモ奧樣が羽振りを利かせた者ですが、伊藤統監が就任されましてからは京城も夢の如に面目を一新して婦人の服裝は勿論のこと一般內地人の生活狀態迄が萬事萬端派手になり今に當時の事が深く印象に止つて居ります、私共は時の漢城府尹朴義秉さんの奧樣達と交際して居りましたが其頃朝鮮人の夫人で私共と交際したのはホンの二三人位の者でした、處が前にも申上げました通り伊藤公が來任されてからと云ふものは夫人連にも相當智識階級の方やお歷々の方が續々渡鮮されるやうになつたのですがそれでも眞實の奧樣と云ふのはわづか十七八人位のものでした其頃から所謂デモ奧樣なる者は羽振りが利かなくなつて何時の間にか沒落の悲運に陷り不遇の身をかこつやうになつたのであります

わたくし自身の昔といま

そんな風で十五年前の印象と云ふものは甚だ貧弱ですけれども何よりの實歷であります十五年前の私は未だこれでも元氣に振舞つて居つたのですが今では女學校の時代を京畿のセツソンで納まり返つて居るやうな始末です年を取ればね、矢張り時代から振り落されるのが自然でせうか全く現在では時代も變りましたし新樣思想の傾奧だとか申す過渡期ですから、私などは段々此頃の京城とは親しみも薄らいでゐる譯です、其の後歷うして十年一日の如く幼稚園の經營を續けて居りますが京城での最も長い歷史を持つ私の隔世の感ありとでも申す外はないのです

▲伊藤公の磊落▲

統監時代の伊藤公は一方に於て頗る磊落ない、お爺さんであつた、時とすると夕方など鳥打帽などを冠つて南山町の旅館天眞樓へ好く出掛けた物だ、と云ふのは時の天眞樓の主人新田又兵衛君は、公とは壯年時代からの知り合であつて、公が頗る愛して居た一人であるからである、又兵衛君亦頗る滑稽な男であつた、公は何時も又君を相手にして昔の事や種々の話をしてチビリ〳〵やり、國のナマを呼んでよく共れを命じたものだ、而して又君は抑々の聽人で、特に高山彥九郎の節と來たら十八番で、又共れが公の一番好なものだつた、公が立腹して居る時でも、又兵衛君が前に出ると、御機嫌が頗くなり彥九郎を見ると上機嫌になつたものだ……

祝十五周年

京城府明治町二丁目四 辯護士 朝倉外茂鐵 電話一六二八番

京城府旭町一丁目三二 辯護士 大久保雅彦 長電話八三九番

京城府三角町七一 辯護士 木尾虎之助 長電話三七五番

京城府黄金町一丁目一五九 辯護士 切山篤太郎 長電話一八六九

京城府黄金町二丁目一四八 辯護士 赤尾虎吉 長電話一六三九番

京城材木商組合
小森材木店
木材商會
丸一材木店
熊野商會
大二商會
東亞商工株式會社
石崎京城支店
三幸洋行
滿鮮工材株式會社
須川材木店
清水材木店
高田材木店
竹村材木店
伊藤材木店
永田材木店
大連木材株式會社
淺見材木店
日華木材株式會社
[illegible]材木店
岸野材木店
朝鮮材木株式會社
平井材木店
北方材木店
大谷京城支店
磯貝材木店
新義州木材株式會社
山本材木店
柏木材木店
大正木材株式會社
三井物産木材部
新田洋行

料理西洋並ホテル
ファミリーホテル
京城南大門通三丁目
電話一二一八番

京城日丸水産株式會社
京城府旭町一丁目
電話一〇八番

平元鐵道・順川斯成會
平南順川

鐵鋼並工業用品
合資會社南方商店
京城南大門通貳丁目
電話一六八九・一七五五番

中山洋紙店
中山秀一
京城南大門通一丁目
電話一三四一番

カフエーキリン
品川秋藏
京城本町二丁目三九
電話三〇二六〇

京城大漢門前
朝鮮總督府官報並諸新聞賣捌
合名會社盛文堂
電話四二六番
龍山驛前 **盛文堂支店**
電話四一四番

京城明治町一丁目
特許セメント瓦
製造株式會社
電話九三七番

京城本町一丁目
電氣機械
越田電氣商會
電話一四三〇番

京城義州通二丁目
東洋畜産興業株式會社
電話六六七・五一七番

京城本町二丁目
龜屋
電話四二七五七番

京城本町一丁目
株式會社和光堂京城支店

食料雜貨並粳米粟
㊅下川益一商店
京城本町三丁目
電話一四七〇・長四九七番
振替京城一五〇一番

合資會社
福壽洋行
朝鮮龍山漢江通
電話長六四六番

人力車帳場
金川組
京城太平通二丁目
電話一二八四番

和洋雜貨
玉植商店京城支店
電話二五二二・二四一五番

藤謙助
京城義州通一丁目
電話八三五番

人蔘ミルクキャラメル
製造元
富士製菓株式會社
京城岡崎町參番地
電話長二二三二番
振替京城五九七三番

京城櫻井町
日活特約
大正館
電話八七三番

京城南大門通五丁目
朝鮮土地經營株式會社
電話一一九番

圖書出版と販賣（原稿買入御相談に應じ申候）
京城本町二丁目
ウツボヤ書籍店
電話二五二七番
振替二二二三番
各種萬年筆卸小賣（修理及附屬品取揃へ）

愛知産業株式會社京城支店
京城府本町五丁目五十二番地
電話長二三七六番

京城食堂
京城長谷川町
商業會議所内

京都竹内製金庫
消防用喞筒消火器
事務用洋家具
[illegible]
新式文房具各種
發明特許品各種
京城本町二丁目
株式會社熊平商店
長電話六二四番
電話一三一五番
振替京城二三二一番

各國產紙◆洋紙內外
販賣商
合資會社渡邊商店京城支店
京城南大門通三丁目
電話二九〇六番
本社金澤市安江町

京城平洞八七番地
大昌貿易株式會社

京城林町一六二
小野硝子製造所
電話二七九一番

京城鐘路
東洋物産株式會社

室內裝飾品毛織敷物類
西洋家具並金庫消火器
横山隆一支店
京城本町一丁目
電話長一六七番

石炭商
井上商店
京城太平通二丁目
電話本店一六二九番
貯炭場一一九番

京城酒商組合

京城永樂町二丁目 一鶴發賣元 **本莊酒店** 電話長六五〇番 振替京城六〇四番

京城永樂町二丁目 富の壽・菊世界發賣元 **富安京城支店** 電話長一〇三番 振替京城四五三番

京城明治町一丁目 金露・長壽醸造發賣元 **大塚合名會社京城支店** 電話長四〇一番 振替京城五七〇番

京城本町三丁目 菊正宗、白鶴、二羽鶴、澤之鶴 大日本麥酒株式會社特約店 **田中支店** 電話七四六番

京城明治町二丁目 櫻正宗・櫻魂發賣元 **株式會社山邑京城支店** 電話八四九・二四五四番 振替京城七五番

京城本町二丁目 菊正宗・白鶴發賣元 サッポロビール特約店 **前田合名會社** 電話一三七番 振替京城四二五番

京城黄金町二丁目 金鵄・銀鵄・大關發賣元 **三巴京城支店** 電話三八〇・七五三番

京城本町二丁目 大和心、澤之鶴、都菊、金露、麥酒特約店 **佐藤牧酒店** 電話二九・二四八番 振替京城二九番

京城本町二丁目 清力正宗發賣元 **清力京城支店** 電話長六七四番 振替京城一五五六番

京城黄金町二丁目 有職發賣元 **首藤京城支店** 電話一一七番 振替京城三七一番

京城生命保險同業會

日本生命保險株式會社京城支店長 大庭讓太郎
日清生命保險株式會社朝鮮支店長 吉田淳二郎
日本徵兵保險株式會社京城支部長 熊谷菊麿
日華生命保險株式會社朝鮮支部長 兵藤俊一郎
蓬萊生命保險相互會社朝鮮支部長 海老繼太郎
東洋生命保險株式會社京城支店長 矢澤近次郎
東海生命保險相互會社朝鮮出張所長 赤羽季吉
徵兵保險株式會社京城支部長 吉岡薰英
横濱生命保險株式會社朝鮮支部長 川谷丑平
太陽生命保險株式會社京城支部長 樋木秀一
大同生命保險株式會社京城支部長 高木忠
第一生命保險相互會社朝鮮地方部長 堀田遊度
太平生命保險株式會社京城支部長 宮崎要造
太正生命保險株式會社京城支部長 寺田新之助
八千代生命保險株式會社京城支部長 志田稔
富士生命保險株式會社鮮滿部長 三須彦吉
帝國生命保險株式會社京城支店長 篠田經
愛國生命保險株式會社朝鮮支部長 高橋彌太郎
共濟生命保險株式會社京城出張所長 一色熊太郎
共保生命保險株式會社京城出張所長 有馬都香夫
有隣生命保險株式會社朝鮮支部長 山路右近進
明治生命保險株式會社京城出張所長 中村暉
國際生命保險株式會社朝鮮出張所長 安村影

祝京城日報十五週年紀念

大正九年夏日　李完用書

李完用伯書

復活の巴里から
―美術界の近狀を―

巴里にて　高木背水

七月五日

印度洋が荒れるわく〳〵。御定りのムーソン季候で紅海の入口迄八日間の大嵐。白標を揚げて船腹に打ち付け雷の樣な響を立て、甲板に流れ落ち殿に砲の大洪水を現出するのは中々の壯觀。一悉氣嫌で軍歌を歌ひながら自ら許す海國男子、幸にして少しも醉はず。

食堂に出るに洋服を着たる事なし。每紋付袴の日本服で初めから打通した。剛商を服り通した御際で、五人の日本人も特和服を着て出たのは痛快。

地中海に於て吾が海軍將士の勇敢なる行動は豪く日本人の明を揚げて御陰で到る所日本人は好感を以て迎へられたに至つては、感謝に堪へない。

マルセイユに上陸して先づ美術館を訪ふたは實に十年振り。階段を登つて突き當りの高い所に、有名なピユービスドシャバンの傑作が世界的の異彩を放つて居る。シャバンの傑作「母の心」は三十許りの大きさで美術館の呼物となつて居る。コローの此れは作も三四尺の幅のあるが傑作でない。其他此の館內には佛國で一流の作が澤山ある。

巴里行の汽車に乘つたら車中の面々は此の黃色人を珍らしがつて、支那人か、日本人かと尋ねる。少々癪に觸つて『光榮ある國民である』と答へたら『では日本人ですか』と俄に丁寧になつてくだらぬ談を無闇に持ち込まれたのに閉口した。

二時間許り過ぎて某驛で三十歲位の青年畫家が乘り込んだ。酒臭い奴で揃皆が繪具箱を持つて居るのを見て御身は美術家なりやと尋ねた。然りと答へたら今度は支那人かと尋ねる。癪に觸つたから、文明國でなければ美術家は居ないとやり込めたら此奴平氣で日本人か甚だ嬉しい貴下の夫れと取り代へて與れと名札を出した。面倒だと思つて佛語は解らぬと云つて居眠りを初めたら先生次ぎの驛で降りた。十四時間で巴里に着いた時は夜の十時過ぎ、日本人の營んで居るスソホテルに投宿。自動車賃の安い事朝鮮の牛車位。其代り宿賃や食物は大いに高い。

十年振りで巴里に來て見ると交通機關の發達と、道路の良くなつたのに先づ驚いた。危い昔の記憶は更に通用せず矢張り元の赤毛布に戾り地圖に依つて道路を調べ、先づルーブル美術館に出かけた。此の館は初めからの美術館ではない。

フランソア一世が工を起して以來歷代が中止して遂にナポレオン一世が竣工せしめて國有と布告したのは初めから數へ六百廿四年目に當る、大宮殿が今では世界第一の美術館となり內に安置さる、國寶が三萬餘點公衆の爲め開放して以來月々澤山の人が出入するので中なる大理石の階段が靴の底で擦つて少々凹んで居る。

戰爭中の巴里は敵の爲め破壞や爆撃に見舞はれて一時は中央政府を移すと云ふ騷ぎまでになつた位で、美術館內の名畫は再び得難い物ばかりで若し一發爆彈でも受けたら散々なことになる。多くの名畫は他に移され或は鐵の箱に納れて地中深く埋たりして總ての館は皆閉鎖されてあつたのを平和になツて以來續々運び戾されたが未だ十分に整はず陳列は昔とまるで違つて居る。

愈で案內知つたつもりで內に入れば大まごつきで足を棒にして一廻りしてがつかりした。それも足らぬものが澤山ある。昔の通り完全に揃ふ迄はまだ相當な日數が要るであらう。

嬉しいとには戰時中中止されて居たサロンが初めて開かれて今迄四年間の暗黑が急に明るくなつたやうで見物人は山のやうに集つて居る。

サロンは吾國の帝展と同じ意味の催しであるが入出の多い點と作品の多い點と出品の玉石混淆なること、情實の行はるゝことは吾國の夫れをば何倍かに引延ばしたと想へば大差はないが、東西共通の點を擧ぐれば、サロンに出品したか否か、何等賞を得たか否かに依つて畫家を評價する多數の俗人の心理狀態である。東京では每年秋の頃になる帝展の談で持ち切り、此の巴里でも夏の初めは其通り、若しもこれに知己を千歲の後に求むる程の剛健なる畫家をもこめたならば何れの國に於ても甚だ尠なからう。

藝術は萬古不死不朽であつて一時代の俗流に左右されるものではない、斯うした作品は美術館內に無限の生命を保ちつ、永久に友を求めて居る。

警察界の今昔
十五年間に於ける

明治三十九年二月統監府が設置され夫れと同時に京城理事廳警察署が設けられ理事官が警察首腦者で其下に警部一名と約三十名の巡査配置され內地人のみの警察行政事務を行ふこと・なつたのであるが一方韓國側警察は中西南北と中央に中署と云ふものがあつて五つの警察署があり又支那領事館にも警察機關があり市中には

三つの服裝の　變つた警察官を見るのであつた故伊藤公が統監として韓國に來任さるゝや先づ警務顧問を置き同時に韓國警察の顧問官として丸山重俊氏來任其下に補佐官（今の警視）補佐官補（警部）補助員（巡査）を置いたが之れがツマリ朝鮮人警察事務の執行機關であつた而して理事廳警察と顧問警察とは等しく內地人であるけれども各警察所屬系統を異にして居つたのである從つて理事廳警察官の方は何んとなく巾の利いたものだ

又服裝でも　隨分に威嚴のある服に作られてゐた而して明治三十九年頃は理事官は三浦彌五郎氏警察署長は警部補藤太郎氏であつたが其頃の巡査で今尙本町署に奉職して居る者がある明治四十年十一月一日より日韓共通の警察制度が布かれ同時に顧問警察と理事廳警察とを合併し茲に初めて日韓兩國民に關する警察事務を執るに至る。と同時に各警察署の名稱をも改め同時に署長も警視を以て充つることにした其後四十一年一月

警察事務の　執行を韓國警察官に取扱はしむる事とし更に名稱を南部警察署（今の本町警察署）

理事廳時代には普通警察の外聞理事官があつて夫が裁判をしたが檢事は警部であつた裁判所は今の警劍道場で監獄署も警察署の一部にあつた理事廳警察（今の本町署）は犯人を檢擧し裁判して而して刑罰の執行もしてをつたのである理事廳時代の官民は頗る親密であつたそれは官吏が非常に少數であつたのと一つは外國居住の氣分があつたからである

民間の人は　官吏を尊敬し官吏も威張るといふやうな氣風がなかつた

消防規則發布　其頃の消防は民間のみ明治卅九年五月理事廳令第一號を以て京城消防規則を發布して義勇消防組と云ふのを組織し水火災救護の任に當らしむる事とした京城市內には第一第二部を置き組頭が秋富吉郎組頭が楢田嘉吉、伊藤友松氏であつた若し何れかに火災起れば警鐘を亂打して消防の出動を促すのであつた現今の消防隊は常備隊の方で見張所を設けてあるが其頃は警備であつたが警鐘の所在地は警察の樓上に一つ本町四丁目に一つ倭城臺に一つ南大門に一つ計四ヶ所であつた又支那領事館警察官も消防隊を率ゐて救援に馳援して居つた未だ其頃は水道の敷設なく手押しポンプで井水を以て消防するので水量少き地方の火災は頗る危險であつた現今の消防は水道の敷設に伴ない其時代に比較して非常に發達し恰も隔世の感がある消防は初め昌德宮內の專屬消防隊の爲に小隊部を充て訓練せしめしに其成績良好にして遂に市內一般の消防機關に變更する際に成つた小隊警部の外に巡査部長安樂氏等十數年間同消防の爲に熱心に努力して居る

衛生警察　保健衛生は居留民團規則第衛規則秋季清潔法施行方法と云ふに至つて單純な理事廳令があつて當該警察官吏の常識に任じて實地を取締つて居つた屠獸場の如きも吉野町に兩谷屠獸場、櫻井町に平山屠場の二ケ所があり牛と豚とを盛んに屠殺したが朝鮮人も其屠場で屠殺したが使用料を免れんと密に野原で屠殺するものも少くなかつた牛乳取締規則も明治三十五年から行はれたが其頃の取締は至つて簡易であつた併し內地人は清潔にして肉牛の乳を取る際な事は一切なかつたけれども朝鮮人と來たら一見身に栗を生ずる樣な事があつたそれは朝鮮人は其住宅の一部に一頭でも二頭でも牛を繋ぎ恰も豚小屋の如き不潔極まる處で三四年も洗ふたことのない樣な布切れで乳をこしり獸尿の附いて居る小桶で乳を搾つて市中に配布するのであつた知らぬが佛とはこんな事を云ふのであらう又清涼飲料水取締規則なく勝手にラムネやミカン水を販賣するのも少くなかつた又治療機關として京城民團の經營せる漢城病院と云ふのが明治町二丁目にあり其他私立病院も相當あつて一般の疾患及び傳染病根治に努力して居つたその頃の傳染病患者收容處は今の佛敎慈濟が行旅病舍に使用してる處（靑葉）であつた其處には一名の專屬醫師と藥劑師及び數名の看護婦が居て患者の手當てをするのである勿論民團の所管であつたから本町警察署が監督することになつてゐたそして自分は其頃衛生主任であつた自分が紀元節（明治四十年）に同病院を巡視したとき看護婦が讚美歌を歌うてゐた其隣室には瀕死の重患者が呻吟してゐた此ことを聞いたときの民長は嘸ぞしたと云ふ話がある又開業醫も少かつたが警察當局と醫師間との諒解が圓滿で防疫事務の進行か滯りなく運ばれたが之に就いても一笑話がある醫師が傳染病患者を申告するのは午後に限ることになつてゐた何故此んな事をするかと聞くと消毒係は一人であるから午前中は他の事務があるからだと云ふソシテ醫師の方も充分確診して後屆たもので臟器だの云ふ事はなかつた

居留民團　當時の民長は大河內良民で事務所は今の本町署の隣京城土木公署であつた明治四十年熊谷賴太郞氏が民團長となり新選した民團議員は純粹なる自治團體で居留民の敎育衛生、土木等を決議執行したが今の學校組合の如き者でなかつた

教育機關　南山本願寺の在る邊に簡易なる一校舍があつたが明治四十年日の出學校を新築して居留民の子弟を敎育してゐた夫れから年々兒童數を增加して丁度一年に一校舍を增した譯である（本町署鈴木警部談）

仁川期米の變遷
明治三十九年より本年迄

明治三十九年一月四日仁川市場に於ける初會は九圓二十四錢にて變會したるが當時日露戰役の揚句とて取引閑散に大幅保合を繰返しつゝ九月に十一圓七十八錢と阪地の斷騰に伴ないて反撥せしも川と相俟ち尺退寸進の步調を辿りて九月には九圓九十三錢と瓦落せし折柄內地大風雨の被害に凶作見越しの買物殺到し十二月に至り遂に

十四圓二十三錢

の新高値に爆發し十三圓九十六

其後新米氣分の

買物に十一月は八圓四十三錢に瓦落し結局十圓八十五錢と跳返して納會せり四十年に至り九圓四十錢と發會せしが商內益々閑散に陷り九月の十一圓四十二錢を高値とし十二月に至り九圓丁度と安納會を告げたるが取引所句の金融途絕と取引皆無とに依り多くの仲買店は營業を中止せしより取引所も餘儀なく四十一年と二年との兩年を休業すべく重役會にて決議し四十三年の三月一日より再び立會ひを開始せしが其時の初値は七圓八十五錢に生れ其日の七十八錢を安値として六月には十圓七十七錢の高値を現出せしも

正米の壓迫を受　けて八月には再び七圓八十五錢と瓦落せしされど忽ち九圓臺に跳返し內地の天候不順に隨いて波瀾曲折を演じつゝ九圓七十八錢と十二月の大納會を告げたり而して四十四年の新市は僅六丁高の九圓八十四錢と發會し內地凶作正米の突飛高に波瀾重疊を極めつゝ六月には十三圓九十八錢と暴騰したるも正米の買物俗錢と下押して納會を告げたり大正元年初會十三圓八十八錢と前年度の大納會より八丁安に發會し三月の十三圓卅七錢を安値に殘し內地凶作續きの影響に供給難の聲と鮮米の買手續出に仁川貿易商連の聯合買組織され六月には二十圓六十五錢と云ふ市場開始以來の暴騰を演じたるが內地に於ける外米の輸入と正米の瓦落と相俟つて急轉直下の十五圓二十五錢と激落し更に十二圓九十錢と初會值段を下廻りし機先き又復內地暴風雨の被害に買氣を刺戟して十月には十七圓六十錢と續騰し十五圓十五錢と納會せり大正二年は初

十五圓二十五錢

に生れ二月に十六圓二十錢の高値を見しが正米凭れに伸び惱み八月二十六日には十二圓六十八錢と瓦落せしも荒木氏の買出動と內地期正米の循環高を移した月の廿三日には十六圓十錢と躍騰しこれを高値に殘して十三圓九十七錢と納會次いで大正三年新甫四十七丁高の十四圓四十五錢と發會し更に同日五十二錢と上辿りせしも安値は聯合筋の買物優勢に支へられ同月二十七日には十四圓七十八錢と買煽られし折柄十三圓五十錢の亂手を振たれば取引所は

形勢不穩と認め

立會を停止せり越ゑて二月三日より四限の立會のみを開始せしが正米の不勢と休會中內地の不勢を入れ二月十六日は十三圓丁度と瓦落し六七の兩月より釜山群山の正米安に漸落步調を辿め八月四日に至り十圓六十五錢と墜落せしが青島陷落の報傳へらるゝや忽ち形勢一變して八日十二圓五十三錢と爆發し形勢の不穩に取引所は一時立會を停止し更に本場の商內取消を行ひ取組高九千九百石に對し社員及び

組合委員の斡旋

にて當十二圓十五錢中先十二圓二十五錢を以て總解合を決行し十三日の後場より解停せしが其閉阪地の爆發にて十四圓十錢と始め更に六十錢と騰せしも內鮮を通じて空前の大豐作といふ丈けに買氣萎靡となり十二月には七圓六十五錢に慘落し八圓六十五錢を以て納會せり大正四年新甫初會は九圓十錢に生れ直ちに八圓八十七錢と阪地の不勢に反落せしも買氣を阻礙し九圓より十圓臺を往來し相場を繰返しつゝ八月に至り十一圓零三錢の高値を現はせしが新米氣分に壓せられて十月には八圓四十四錢に崩れ十二月には

再び十一圓卅錢

其の年の新高値を現はし結局十圓九十八錢にて納會を告げたり大正五年新甫初會十一圓七十錢より二月の十圓五十八錢を安値として八月に十三圓九十錢の高値を見十月に入り十一圓六十三錢と墜落せしが內地の凶作を移して十二月に至り再び十三圓臺に蹴り上げ十二圓四十錢と納會大正六年初會十二圓八十錢に始め四月迄は十二圓より三圓の間を往復しつゝ五月に移るや歐洲戰亂に伴なふ輸出の大超過と通貨の膨脹其他幾多の强材料頻出して十五圓三十五錢と反撥し七月には更に激騰を重ねて

二十圓七十一錢

と空前の高値に奔騰せしが好順氣壓せられて九月に入るや十七圓と崩落を演じ十二月には再び二十圓零三錢と反騰をなし大納會は十九圓六十六錢にて終れり大正七年二十圓二十錢に初會し世上の好景氣に伴ない六月には二十三圓四十錢の高値を現はし七月には更に飛んで二十六圓三十五錢と狂騰し遂には米騷動を惹起する等一時買氣を阻礙して二十一圓十五錢と急轉直下の激落を演じたるが內地大凶作の氣構へと通貨の膨脹に思惑投機熱を昂め十月には二十九圓丁度十二月には內地五千五百萬石內外の愈々

大凶作を鳴して

三十一圓八十五錢と未曾有の高値に爆發し三十一圓三十九錢と納會次いで大正八年の初會は一躍飛んで三十四圓丁度と發會し三十三圓八十七錢を安値に殘して正米供給難の聲と共に買氣を刺戟し二月內地外米代用制の關係より二百二十餘丁上騰の三十九圓十錢と狂騰を演出したるも政府の調節や外米代用制に買氣を阻礙され漸次に反落を移せしかば大豐作を唱ふる鮮米は一段の不勢に傾き三月二十六日には三十圓五十錢と云ふ激落を見るに至り茲に端なくも取引所の失態問題を曝露して立會停止の餘儀なきに至り

之れが善後策に

奔走せし一方仲買組合に於ては建玉に對する總解合成立に努力し常限三十二圓八十錢中三十三圓八十錢先三十一圓八十錢を以て協定を爲すと同時に市場は一百萬圓に增資する事に決定し再興の認可を得六月二日より日用度立會を開始せしが休會中に於ける內地の期正米高亦著しきものありて遂に三十九圓五十錢と九百丁の上放れに發會せしも買過ぎ反動の三十四圓九十八錢と激落を演じ七八の兩月には旱害凶作の聲と共に買氣勃發し四十四圓七十五錢の高値を現はせしが九月に至り內地豐作氣構へと潤雨を得て三十九圓十錢と瓦落し

四十圓臺に跳返

して天候の成行きを傍觀して揉み合ふ折しも聯合買と傀儡りに阪地の騰勢を添へ十一月には五十一圓二十五錢と躍騰せしより中限の新規賣買を停止し解合はせしめ二十六日より解停せしが十二月に至り買氣沸騰五十一圓七十五錢と空前の高値を現はし四十八圓十九錢と納會大正九年の初立會は四十八圓五十錢に發會し五十圓七十五錢を高値として四十六圓二十九錢と瓦落せしも三月には再び五十圓四十三錢と躍騰せしが歐洲戰亂の終局と共に貿易品の不振金融の梗塞其他の弱材料に壓迫されて株式綿絲を始め米界にも少からざる恐怖を與へ六月には

二十一圓八十錢

と云ふ實に前代未聞の大慘落を演ぜしのみか七月に至り又復米の跳返しと共に三十五圓四十五錢の反騰を演出する等明治三十九年より今日に至る間喜憂悲喜交々にして殆ど走馬燈の如く今後作柄と財界事情の如何によりては更にヨリ以上の大激變を演ずやも知れず況して眼先幾多の厄日を控へ居れる今日丈けに興味も又其れ丈け深かるべし

現代の社長及理事　（中央）社長加藤房藏（上右）理事支配人藤村忠助（上左）理事主筆早田元道（中右）理事編輯局長松尾茂吉（中左）理事秘書課長中村健太郎（下右）理事大陸通信主幹奧田直毅（下左）理事每日申報編輯局長心得方台榮

山猫の電報

官邸（今の總督官邸）の食堂の臺所へ山猫が夜中出て來て肉や其他食物を失敬して困つた、其處で伊藤公の發起で片つ端から生捕る事にした、處が能く捕つたもので五六匹も捕れた、其れを官邸の後ろの山の崖の處へ築つてあつた、行つて見ると全くの動物園だ、處がまだ幾匹でも捕れるので流石の公も馬鹿々々しくなつて、一同を解放する事となつた、其處で此れを公は放生の辭を作り、物々しく山猫の小屋の前でこれを讀んで聞かせ、御馳走をして皆追つ拂つて仕舞つた。之れを聞いた某通信員は大に茶目を發揮して直に東京に電報を打つた、東京では何う思つたものか、某々新聞などは麗々しく二號活字で掲載したので、京城では大笑ひ、電報と云へば當時の特派員や通信員などは大分いたづらの電報を打つたものだ、伊藤公が京都か何處かで小間使を雇ひ入れたに付いて、某特派員は早速思ひ付いて今回統監府に小間使規則制定せられ、と最高目爲つて、第一條から十條程の逐條細かく、長い電報を打つた、すると其れが二段拔の記事となつて仰山に出て居た事もあつたので京城では一同腹を抱ねたものだ。

鮮人の殺人事件と自殺に就て

京城醫學專門學校教授　稻本龜五郎氏談

纏つた意見は申上げられませんが自分が過去數年間に於ける百數十回の殺人事件に實地檢證と醫學上の鑑定をした極く淺薄な經驗から申上げるので研究とか論文とか云ふものでなく薄れ行く記憶を辿つた坐談的なものであると御承知を願ひたい。

私の取扱つた殺人事件の鑑定解剖の詳細な統計が手許にないので數字が示す事は出來ないが鮮人の殺人又は傷害致死は內地人のそれと較べて兇行が頗る慘忍である。殺人の場合の兇器から云ふと

銳利な短刀等　は極稀で先づ薪割・棍棒、石片等である從つて一擊すると一刀で斬殺するのでなく滅多打が多い。一例を擧げると一時の喧嘩口論から石の投げ合が始まり結局一方が致命傷を受けて倒れると其加害者は更に死屍に對し或は頭蓋骨を粉碎して腦漿を露出せしめる底の慘忍を屢々行ふ又他の例は姦婦姦夫が力を協せて本夫を虐殺する場合其屍突內で絞め殺し更に此死屍を滅多打すると云ふ樣な戰慄すべき兇行を演ずるなど確かに內地人より慘忍性をより多く帶てゐると思ふ。次に鮮人には足蹴にして內臟破裂等の致命傷を負はせるものが屢々あるが內地人にも蹴ると云ふ事はあるが蹴り殺して

內臟破裂など　は殆んど絕無であり確かに鮮人特有の犯罪方法であらう。迷信から來る殺人も尠くない過日本町署管內に起つた慘劇の如く小兒の陰莖を切つて其生血を吸へるが如く其他種々あるし又病氣を治癒する目的で過失致死の場合も非常に多く病人を溫突內に入れて三日三晚松葉で焚き燻べて死に致らしめたり滅茶苦茶に鍼を刺して殺したり飛んでもない劇藥を飲まして殺したりするものもある。滑稽な例ではあるが朝鮮の下層婦人はパツチ姿で一日の半は洗濯で暮し絕えず腰を壓迫するので子宮脫出と云ふ婦人病を醸成する、此場合彼れ等の間の大間は子宮の脫出部に燒錢を當たり油を塗つて燒いたりさせ遂に死に致らしめたものもある要するに此等の過失致死は

無智が原因で　ある。是は驅ひの無い事實であるが斯る事件は決して尠くない。又親が子を折檻して死に至らしめるものも少くない此場合鮮人の思想では親が子を始末するのは親の權限で官廳などの干渉を受くべきものでないと考へて居るらしく又夫妻のうちの何れかが相手を殺した場合も同樣に考へ大した不道德や罪惡でないと考へてゐるらしいので此種の事件は甚だ多いが子が親を殺したと云ふ事件は流石に支那の道德の烙き付けられた禮儀の國だけに殆ど無いと思はれます。次に鮮人には早婚の風習があり妻は夫が病死せぬ限り再婚を許されぬと云ふ風習から閨房の慘劇が尠くない

內地では夫殺　しと云ふと珍らしい方であるが朝鮮では夫殺しが澤山ある。又朝鮮の殺人事件では加害者が多數協同して兇行に及ぶものが多い一人の怨みは一家協力して雪ぐと云つた形で或一人を殺すに兄弟や親戚が協力して兇行を演じた例が多い、之れは鮮人の道德觀念が內地人以上に鈍いからであらうか協同の精神が强いからであらうか。又殺人事件に現はれた鮮人の加害者の罪惡に對する責任觀念は頗る薄弱なもので人を殺しても自ら其場で死んだと云ふ樣な事は絕無とも云へる先づ生き延び得るだけ生き延びんとして其場を逃亡するのが常である此點に就て內地人が死を安價に求め過ぎるのか或ひは鮮人が自ら死ぬ程

眞劍でないの　か責任觀念が薄弱なのか或ひは亦、生活の要求が熾烈なのか、恐らく罪惡に對する責任觀念が薄弱であると解するのが最も妥當ではあるまいか。殺人の方は此位にして自殺に就て考へると朝鮮は文化の進步が遲い丈け生活が樂で暢氣で單調で自殺せずにをられない程に複雜な辛い生活で無い爲か自殺の機會も尠く從つて內地人の自殺よりも其の數は極めて尠くないのは事實である。然して其稀な自殺に於ても其の方法が內地人の如く壯烈なものは全く無く下らない醫藥自殺と云ふやうな死方をしてゐる鮮人の自殺に使ふ所謂毒藥は苛性曹達が第一である此れは洗濯又は漂白用として廣く使はれるからであらう。次が『ニガリ』で此れは

粗製な朝鮮鹽　は直ぐニガリを滴下される爲めで內地人の如く亞砒酸とかモルヒネ等の劇藥を飲むものは殆ど無い。又內地人の如く犧牲的精神で自殺とか自殺とかするものも絕無にすると女の方が男より多いやうで此れは內地同樣らしく女氣の無分別の結果であらう。犯罪に關する法醫學の研究は興味ある研究であるが私は主として鑑定等で常に事件の被害者側のみを調査してゐるのでロンブロツソの研究の如く兇惡なる人間の頭腦骨格と云つた形態上の研究に就いては全く御話しする資格何物も持つてゐないし又腦の研究なども木枕を常用する鮮人の腦部には後天的な

變形が有つた　として我々門外漢が容易に速斷する事が出來ない然し幸ひに總督府醫院の久保博士が指紋とか腦とか其他形態上の研究をしてゐられるので博士の研究が發表された曉は面白い法醫學上の問題もあらうし學界の驚異とされる研究もあらう自分の話はホン座談に過ないのを遺憾とす

釋宗演師と犬

故釋宗演師が入城して時の警務總長明石將軍の宅に一泊した時の事である、將軍は獨身生活をして居られたから隨分部屋中も取り散らして居た、折角禪師の宿泊であつて、將軍が常に寢室として居る二階の部屋を禪師に提供した迄は無事であつたが、さて眞夜中になつて禪師の坊主頭をベロ〳〵と舐める物がある、大概の者なら妙な物體な―お化でも出相な―部屋で、殊に眞夜中の出來事であるから、ヤヤツと叫び兼ねない處だが、其處は禪宗の大家丈けあつて少しも驚かず、手でソツと制し乍ら布團を冠つて靜に寢て居た。すると今度は怪物は禪師の側に飛び上つた、見れば大きな犬であつた、此の犬は平生將軍が每晩伴れて寢て居たので、禪師と知らず此の夜も茲に寢に來たらしい。翌朝食事の時其の犬が出て來たので禪師が其の話をすると大笑ひになつた、或る人が後で『何あに將軍が禪師の部屋に追ひ込んだのでせう』と云ふと將軍はニヤリ〳〵笑ひつゝ『馬鹿云へ、彼れは犬が間違つたのだ……』

祝拾五周年

穀肥、綿布、糖粉、雜貨
朝鮮水原南大門外四ツ角
移出入貿易商 竹下平三郎商店
電話壹百拾六番
振京壹四六七番

京城南山町
京城殖産會
電話一二五一番

京城府古市町
東亞商工株式會社
電話長七二七 九四一 一六九

京城黃金町三ノ三〇二
犬島新作
電話九八九番

石川時計店
京城時計修理工場
京城本町三ノ二八

京城本町二丁目三
まる三呉服店
電話一五三番

京城南大門通三丁目百九番地
ホーン株式會社支店
香川守行
電話長一八二六番

京城府漢江通六番地
朝鮮蠶絲株式會社
電話龍山長五五番 電略三又三四
振替口座京城三八九一番
蠶種製造場 電話永登浦三六番
大島町工場 一五五番

京城太平町二丁目
西崎源太郎
電話長七二七番

京城本町一丁目
江戸川
電話一四六番 九二八番

京城大和町一丁目
株式會社淺野セメント京城出張所
株式會社淺野スレート京城出張所
電話長六六二番

京城本町三丁目
株式會社伊藤商行
電話長七一七番

印刷帳簿
犬養帳簿製造所
電話二二七九番
振替一五九六番

スター
サイダー シトロン タンサン水 果實蜜
製造元
京城清涼社
京城岡崎町八番地
電話一四二〇番

和洋金物諸機械商
京城本町三丁目
佐藤半次郎商店
長電話二四三番

中野芳

ゴム製品一式
汽機汽鑵在庫豊富
ナショナル精米麥機特約代理店
京城南大門通二丁目
角一ゴム合資會社
朝鮮總代理店
角一商店
電話長六〇九番
振替京城三三四三番

京城南大門通二丁目
堀井膽寫堂京城出張所
電話四〇二番

京城太平通二丁目
日本醬油株式會社
京城出張所
電話二四五番

京城太平町一ノ四〇
土木建築請負業
多田順三郎
電話長二三一九

龍山鐵道病院

京城明治町二丁目
京城魚市場
電話一四七八番

京城寛勳洞一九八
閔庭植

京城青葉町
朝鮮製綿株式會社
電話一六五番

黄海社
京城府龍山榮町
電話長五一七番

パイン萬年筆京城製作所
京城本町一丁目
電話三〇七七番
振替京城五一九四番
市内販賣部 京城本町二丁目京城局前
出張所 京城鍾路二丁目
大邱錦町一丁目

大倉洋紙店大阪支店
京城出張所
京城南大門通二丁目
電話四九〇番

市田オフセット印刷株式會社

豫て新築中の理想的工場近々竣工移轉可仕候愈々技術設備共東洋隨一と相成候又市田專務取締役の亞米利加土産なるヒューブナー、バレスタイン專賣特許製版新法は膨大にして精巧を極むる機械新工場にて組立中の處完成の上は絕對的に他の追隨を許さゞる優良品を廉價且つ敏速に御用命に應じ得る義と確信罷在候 敬具

大阪總本店 北區梅田町 電話北長一七〇番 長一九七八番
東京支店 京橋區北紺屋町 電話京橋長八七〇一番
上海支店 江西路七號 電話五三五八番
臺北出張所 撫臺街二丁目 電話七五四番
京城出張所 大和町三丁目 電話長五四一番

山縣伊三郎氏書

高橋光威氏書

郵便エピソード
十五年前頃の
通信局監理課長　矢野義二郎氏談

今こそ朝鮮も文明の天惠を受けて通信機關の完備と共に鮮人の中には獨立運動ノヽと聞いた風な事を云ふ者もあるが十五年前に於ける鮮人の通信機關に對するエピソードを聞いて見ると誠に笑止千萬な仕儀が尠くない當時の模様に就いて通信局監理課長矢野氏は左の如き事を語つてゐる

一圓以上のお客だ酒を一杯奢れ

江原道の或る土地で或る日の夕方のこと收入印紙を一圓五十錢程買求めた鮮人があつたが彼は其時郵便所の事務員を捕へて酒幕へ一緒に行けと云ひ出した、其理由を聞くと一圓以上の買物をしたのだから酒一杯の馳走位はするのが當然だと飛んでもない事を云ひ出したが此應話は朝鮮の郵便所では稀でない

内容證明郵便で一談判

釜山方面の某地で内容證明郵便物の配達に瀕し一鮮人より抗議があつた。曰く『貴君の證明ある債務履行の督促狀來れるが余は某氏に對し債務履行の義務なし然るに貴局が之を證明するは實に其意を得ず』と云つた具合で大いに詰問を發した者があるがこれは全く内容證明郵便なるものを充分理解して居ない結果で此應話も各地に尠くない

料金の過多不足と郵便物の遲速達

鮮人中には郵便料金を負けて呉れなぞと云つて各地の郵便局所員を困らせる實例が尠くないが中には三錢切手を貼付すべきものに對し五錢切手を貼付してゐる郵便物を發見するので之を當人に注意すると其鮮人の曰く『普通の料金より二錢多く支拂へるを以て夫だけ速達を計られたし』と又場合に依つては六錢の料金を要する郵便物に五錢切手を貼付することあり之を本人に注意すれば答へて曰く『少々配達を遲くするゝ差支へなければ一錢だけ負けられたし』と云ふがある、全く話のやうな實例である

話しが來た〳〵

南鮮の或郵便所に電話機に依る電信事務を開始した事があつたが其開始當日附近より多數の鮮人が來集したものである夫は話が針金を傳ふて遠方の人に通ずるとは頗る奇妙であると云ふに因て其話聲の傳ふを實地に見聞せんが爲めに集つたものである、偶々風があつて電線に一種の音響を發した處一鮮人は之を聞きつけて『ヤー話が來た〳〵』と何れも電柱に耳を當てて大いに不思議がつたと云ふ事もある

表面に用件と發信氏名とを書く

近頃非常に減少したが十年前にはハガキ又は狀袋の表面に用件と發信氏名を書き裏面には受信人名を書く鮮人があつた爲め事故を生じる事が屢々あつた。又甚しきは表面には往々李某呰、朴某行きと發受人名の位置を顚倒した書方のものが多かつたものだ

小錢を出して此のまゝ倅の處へ

南鮮の或郵便所に某鮮人が來局して爲替の振出しをする際十圓の爲替なるに銅貨と銀貨ばかりを以つてするより所員は必ずしも小錢の必要なく紙幣で差支のない事を注意すると鮮人の曰く『此金は倅の處へ送るのだが小錢がなくて困つてるといふ譯だから小錢を送るのだ』と答へて所員を困らせた例もある

價格表記事故で郵便局を信用

北鮮の或る郵便局に於て某鮮人の價格表記郵便物が遞送事故の爲め受取人に到達せず遂に紛失したことが判明したので郵便局では所定の如く價格表記の表記金額及び郵便料金をも全部賠償した處其の鮮人は爾後大に遞信官署を信用して之れを遇ふ人毎に話した爲め鮮人の遞信官署に對する信頼の念が一層多大となつた

ポストを撫で廻して何處から京城へ

大田の郵便局の窓に一鮮人が來局して手紙を京城迄屆けて呉れと此のことで局員は三錢切手を購はせて之れを貼付した上局前の郵便箱に投入すべき旨の注意をした處彼は不審な面持で郵便物を投函した儘しきりと郵便函の周圍をグル〳〵廻り處々撫で廻したりコツ〳〵と叩いて見たりして居るので何にをするやと質問して見ると何處の穴から京城へ行くものなりやと答へたと云ふ馬鹿〳〵しい話しだ、たなどは實に滑稽な次第である

現代名士の＝雅號と本名

……政治家には山と堂が多い……
……本名より雅號に名高い文士……
……畫家には百姓然たる名前あり……

昔兼好法師は徒然なるまゝに日ぐらし硯に向ひて心にうつり行くよしなしごとをそこはかとなく書きつけたさうな。其れと之とは事變れど今日此頃の殘暑を凌ぐの料にもと、現代名士の雅號と本名とを調べて見る。雅號の中で一番多いのはやつぱり『山』の字で、中でも半山などは最も多いらしい。柳澤德忠子、片岡直温、小松原英太郎等の諸氏がそれである。次に樺山伯や柳原伯の華山、田中光顯伯や川村景明子の青山も類の多い方だらう、淺野侯は坤山で中川伯は恒山、淺田男が旗山、高辻子の孤山、松平忠和子が潜山、池田子が天山、永井子が蒼山、田男が讃山、德川厚男が麗山、杉田定一氏が鶉山、坂本金彌氏が雅山、小川平吉氏が射山で河野廣中氏は磐州翁として有名だけれど又鷲山の號をも有して居る。『山』と通つた『岳』では奧保鞏伯の南岳と

德川公爵 の龍岳くらゐのもの、『峰』では德富猪一郎氏の蘇峰を筆頭として、高田早苗氏の半峰、安廣伴一郎氏の龍峰、磯部四郎氏の吳峰などがある。次に多いのが『堂』の字で、尾崎學堂、犬養木堂などはあまりに有名で寧ろ本名よりも知られて居り加藤高明子の剛堂、山本權兵衛伯の鶴堂、大隈重信侯の綱堂、清浦奎吾子の奎堂等いやしくも一國の

宰相に擬 せられ一黨の首領たらんとするものは好んで此の字をつける傾向があるやうにも思はれる。其他、毛利公の琢堂、戸田伯の硏堂、南部伯の鶴堂、岡子の無堂、牧野子の雍堂、岡部子の敬堂、東武氏の牧堂、早川千吉郎氏の雪堂、安藤謙介氏の益堂などがある。多いやうで多くないのは『庵』の字と『齋』の字で久我侯の梅庵、

西園寺侯 の陶庵、伊藤伯の橋庵、安田善三郎氏の栝庵、内田貢の魯庵と、大田原子の慈齋、石黑男の況齋、近藤廉平男の拈齋、それに村井弦齋氏位のもの

變つた號では田尻市長の北雷、野田遞相の大塊、竹越與三郎氏の三叉などを筆頭に上原大將の卜一、武富時敏氏の丁々、金杉英五郎氏の極到、土居通夫氏の無腸、宮本叔氏の

鼠禪など がある。三井八郎右衛門男の高福は慾張つて居り、杉溪男の六橋に對して坂本彰之助氏の三橋は面白い對照であらう。

次に本名よりも雅號の方が名高い人々を調べて見る。先づ詩人、文士では、松居松葉氏の眞玄や、内藤鳴雪氏の素行、昇曙夢氏の直隆などの恐ろしく角張つたのや、河東碧梧桐氏の秉五郎、小杉天外氏の爲造、永井荷風氏の壯吉などの

田園染み たのもないではないが、概して現代小説にでも出せさうな若い燦や蕩兒タイプの名前が多い。德田秋聲氏の末雄、伊原青々園氏の敏郎、馬場胡蝶氏の勝彌、岡本綺堂氏の敬二、生田長江氏の弘治、小川未明氏の健作、正宗白鳥氏の忠夫、德田秋江氏の浩司、相馬御風氏の昌治、青柳有美氏の猛、田口掬汀氏の鏡二郎、渡邊霞亭氏の勝

田山花袋 氏の錄彌、眞山青果氏の彬、姉崎嘲風氏の正治、菊池幽芳氏の淸などがそれである、高濱虛子氏の雅號は本名の淸から佐藤紅綠氏のは洽六から出たものと思はれる、

文士に反して畫家の方は頗る田舍染みた平民的な前名が多い山元春擧氏の金石衛門を筆頭に池上秀畝氏の國次郎

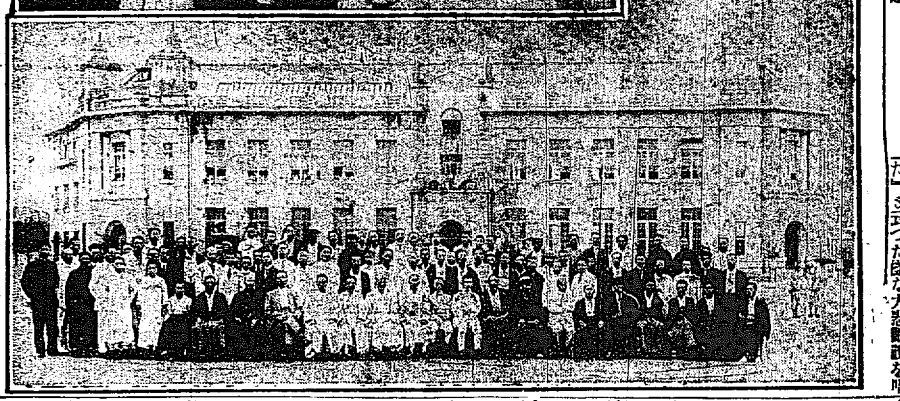
富田溪仙 氏の鎭五郎、尾竹竹坡氏の染吉、中村不折氏の鈼太郎、池田輝方氏の正四郎、橋本關雪氏の貫一、小川芋錢氏の茂吉、川合玉堂氏の芳三郎、竹内栖鳳氏の恒吉、尾竹國觀氏の龜吉、石井柏亭氏の滿吉、小杉未醒氏の國太郎、木島櫻谷氏の久次郎、田中頼璋氏の大治郎、下村觀山氏の晴三郎、佐竹永陵氏の銀十郎

荒木十畝 氏の悌二郎、尾形月耕氏の正之助、島崎柳塢の友輔、川村曼舟氏の萬造、川北霞峰氏の源之助、都路華香氏の宇之助などどう見てもお百姓だ、然し畫家の中には又思ひ切つて貴族振つたのもある。畑仙齡氏の經長、橫山大觀氏の秀麿、狩野探令氏の守純、松本楓湖氏の敬忠など宛然お公卿さんの感があり、その他にも小室翠雲氏の貞、松林桂月氏の篤、菊地契月氏の完爾

松岡映丘 氏の輝夫、佐久間鐵園氏の健壽、在原古玩の重壽などがある。

女流では、平塚雷鳥女史の明子は名高いが、長谷川時雨女史の康子、跡見花蹊女史の瀧子、[illegible]下枝女史の勝子、上村松園女史の常子、栗原玉葉女史の文子、鳥成園女史の成榮などは知らぬ人も多からうかと思ふ

本社十年以上勤續者（上）（前列右より）古海德兵衞、李蒼[illegible]、弘金八、中村健太郎、藤村忠助、奧田直毅（後列右より）李興植、成明雲、李斗鎭、李星鎬、徐相學、金興瑞（八月三十一日表彰式擧行）



本社員一同（下）（八月三十一日撮影）

李完用伯 和服の著初
回顧す十餘年前 伯の面目を偲ぶ

時は明治四十年の夏七月二十日頃であつた、西小門外蛤洞の丘地、現京城電氣株式會社の前身米國人コールブラン邸と隣比して數十間の温突建の家一際目立つた

李完用伯 の自邸は暴民の爲に敢なく灰燼となつた。丁度其時伯は景福宮內に慶會樓を運池を挾んで對峙せる鮮式平屋建の一棟に出席中であつた、其處は元韓國の議政府として內地の內閣に匹敵し、當時伯は

總理大臣 の職を帶びし居つたのである、遽しく馳込んで來た小使は震へる聲調にて『今暴民は閣下の邸を燒き餘勢を以て此處に押し寄すべきを以て早く御避難あれかし』と注進する、居並ぶ他の閣臣は

驚愕面に あらはれたが伯は自己の邸宅を烏有に歸し剩へ暴民の脅威に逢遇しながら神色自若些の動搖めきがない何か期する所あるもの丶如く少時靜默の態を續けて居つた

伯の態度 は俊傑乎魯漢乎將た豪者乎痴者乎人をして轉た疑はしむる位であつた。飛報頻りに到つて數千の暴民が伯の身邊に來たと云ふので、避難が一刻後るれば一刻丈け危難が近づくの思ひあらしめたのである、趙重應子爵、李秉武子爵、其他二三の

閣臣と共 に愈々避難すべく表門、裏門何れか活路を索めんとするも門外の樣子詳かならず危險如何ならん重圍の中に陷り出門することも出來ず同宮の庭內に徘徊ふた、途に光化門の樓上に登り一防禦する中には必ず內地の軍隊警察官の救援あるに違ひないとの一策の窮策に同意して各閣樓門に登つた。

十名內外 の騎兵警官は既に歩哨し志氣緊張して時こそ來れと暴民を待ち受けたのである。稍あつて、今の京畿道廳前の道路を隔し、斜向ふに在りたる警務顧問部より

騎馬にて 警官が警報を齎し來た、暴民此處に到來する迄は、尙五六分時あるべきを以て今の中に人力車を驅り避難然るべしとあり、櫻門の閣臣は倉皇樓を下り乘車し車夫は勢力一杯に疾驅し

里程元標 の建てる十字路の處に來た、暴民の先頭の一部は早や此處に來て急嚴の如く投石し、後方を見ると白布を敷いた樣に無數の暴民迫き來るのである恰もよし巡査部長の率ふる七、八の警察巡邏隊が來て

銃を擬し 一時暴民を阻止したので辛うじて虎口を脫することを得て布德門に這入つて德壽宮に行つた、警衛の警察官は投石の爲に負傷した者があつたが、志氣益々昂り一段の强味を見せた。一兩日過ぐると英明なる

故李太王 は世運の大勢を念はれ位を今の李王殿下に讓らるべく鈴印のある形式を徹宵近侍して居つた伯及び趙重應、李載崐に交附せられた、時は丑の刻を過ぎ一番鷄の鳴聲を聞く頃であつた。伯は同形式を拜授するや、直ちに同宮を辭し

飛鳥の如 く徒歩で馳出し連日の疲勞で蹌めく伯を趙氏は之れを助けて今の本町條崎文具店の前に來ると東天白み漸く行人の顏が見わた。此に於て伯は長大息を洩らしたが、其素振りは何となく安心の色が罩つて居つたとね言はず哉一難を

超ゑて 蘇生の思ひあらしめたからであらう。其午後故伊藤統監邸より退出して南山町なる宋子爵邸に歸來した、淋漓たる流汗を拭ひ寡言の伯は笑ひながら綢の『フロック』や汗に濡れたる裃褌を脫ぎ捨て茲に初めて日本の湯衣と著更へた、伯は日本人云々と鮮語で

獨り囁き 袖を引張りながら奇異なる微笑を浮べた。同所に集合せる頭々一同と共に喜びの雰氣に包まれ盡きざる談笑に日は西山に舂いた其後伯は族一團と共に暫く僦寓して居つたのは今の倭城臺倶樂部に美しき家だ。（一警官談）

預金が殖ゐる
不景氣と云つても

財界不況の聲は既に耳新しくなくなつて我平壤に於ける金融界にも非常の打擊を蒙つてゐることは已に周知の事實となつた　この不景氣が何日まで續くかと云ふことに就いては今のところ論議マチ〳〵で確としたとは云へない、先づ樂觀說に依ると『何アに收穫の時期さへ來れば幾分は恢復する』と云ふのと『サアどうもこの調子では年末に近づいて來るほど益々惡化するだらうなど』の悲觀說と更に『マダ〳〵これからが眞の不景氣だ』と云つた樣な大悲觀說を唱へてゐるものさへあるの狀態で今の處確に

何うかと 云ふことも出來ない、然し近來稀らしい現象として不景氣の聲の高い昨今どうしたことか平壤府內の銀行或は金融組合又は郵便貯金などが寧ろ從來よりも增加して來たと云ふことである（或は平壤のみならず他の地方も同樣かも知れぬが）成る程一寸聞くと誠だ不審しい現象であるがさて之れを良く調べて見ると斯うした財界の半面に斯うした現象のあることは寧ろ當然現象と云ふよりも當然の成行であることが判る　今その理由について當業者の語るところによると預金の增加したのは購買資金の

保存？と でも云はる丶もので要まり財界好況の際は例へ少しの金でも全部を資金に融通し、心足らぬとぶつた風な目擧で隨つて銀行預金や郵便貯金をする餘裕がない爲に却つてこの種の預金が減少するが一旦不景氣となつて物價は斷落を示し販賣の商品仕入等も成る可く手控へて成るだけ資金を減らさない樣にすると云ふ考へから自然此等の預金が增加して來たと云ふことである、斯んな風に

一般預金 は漸次增加を示してゐるが然し貸出の方は依然として警戒を持續する一方で今尙金融は緩和されないが之れも一時を遁つて多少餘裕が生じて來たらしく確實な擔保さへあれば幾何でも貸出をするのであるが然し一時財界の好況に連れて約束手形の亂發で無暗な貸出をしなくなつた結果として此種の金融界にも大打擊だと云はねばならぬ（平壤）

韓國政府時代の郵便脚夫（十五年前）

朝鮮では珍らしい 百萬長者の家督爭ひ
直系相續人の訴訟に面喰つた被告は京城で十萬圓の金策に失敗し
不動產は假差押を施行さる

全羅北道沃溝郡大野面福橋里にて百五十萬圓の資產家たる張榮奎を相手取り長兄の孫たる張亨一は曩に民籍變更相續確認の訴訟を起したるが今其顚末を聞くに訴訟の原因としては直系相續人たる原告張亨一に相續なさしめず被告張榮奎が原告の承諾を得ずして勝手に財產を相續して了つたことかで之れが爲め張亨一は全く日常の生活にも困窮する程で再三被告張榮奎に向ひ財產返還を迫つたが言を左右に託して應ぜず兎角する中張亨一は遂に訴訟費用等の如き一文の出資も出來なくなつた爲め遂に右の事情を打明けて辯護方を申出で何程かの金を借つて引地辯護士を代理人として本訴訟を起したる次第なり朝鮮にては未だ曾て所かる大資產家の相續爭ひありたるを聞かず從つて一般の注目を引きつゝあるが辯護士の言に依ると直系者たる原告が勝訴するは當然で充分の見込があるとの事であるが又被告張榮奎は氏の話を聞き大いに心痛し東奔西走の結果不動產を擔保として京城方面より金十萬圓の借受運動を爲したが失敗に終り目下不動產全部は假差押への處分を受け如何ともする事が出來ないとの話である

平壤公會堂經營に就て
松井商議會頭談

平壤公會堂經營に關し新に問題を惹起せることは既報の如くなるが右につき松井商業會議所會頭は左の如く語る

『公會堂の經營に關し我が平壤に新しく問題の起つてゐることは誠に遺憾な次第である

公會堂の 經營を商業會議所がするといふことは要するに公會堂に對する財產權を獲得するもので其間幾分市民間に誤解が生じてゐるやうではあるがれ共財產權を獲得すると云ふのは即ち法律上の所有權を獲得するものである、然し所有權を獲得するといふことは現在に於ける平壤の狀態に鑑がみて其名稱を特に避けたものである即ち之に伴なふ一切の使用收益處分の權利を得る譯ではある會合商業會議所が此の財產權を獲得したからと云つたところで從使用に對して

別段支障 を來すと云ふ理由もなく又將來に於て商業會議所がほしいまゝに之を處分すると云ふ樣なことはありそうな筈がない、それが爲に所有權と云ふ名を財產權としたのである　二萬五千圓の組織に關しては既に役員會に於ても下相談は出來てゐるが愈々之に着手すると云ふのは未だこれに關する問題の手續きも了してゐないから一切終了後でなくては其方法を公表するとは出來ない云々（平壤）

手藝品展覽會に就て
女子教育に對する 一面の刺戟
某女教育家談

永く京城の土地に在つて馴れたる教育家である某女史は本社の婦人手藝品展覽會に就て左の如く語られました

『愈々九月八日から御開催の由を承はつて大變期待して居ます、元來婦人手藝品の奨勵として展覽會の如きものが催されるる事は尠くも過渡期に於ける現代婦人に大きな反省を促すものと見て差支はありますまい

手藝品が 精神に及ぼす影響は申すまでもなく直接の効果あるもので私共の見地からしましても現代の女子教育の反面に於ける大きな缺陷を補ふものは手藝品製作の趣味にあると存じます、著物の小袖一つ

縫ふに 致しましても針持主の精神が統一されてゐない場合必ずその出來榮に明瞭に現はれて參ります、私達は幼い時から日本に於ける女の生命としてお針仕事を教へられたものですが其當時から最も自然な手先き仕事に對する趣味性を涵養されたので御座います。

例へば 半紙一枚で人形の著物を造る場合十露盤の上に白紙を置いて其上をお茄子の丸の儘を轉がせば立派な縞が出來ました、又瓜の種を捨てないでそれを水に溶かしてその底に沈んだものをのみ色々な染色をして菊の花や簪などを作つて遊んだ事がありますそうした事が

女子の 本性を啓發するものではありますまいか此の意味に於て趣味性の精神作用に及ぼす影響として私は此度の御社主催手藝品展覽會を歡迎すると共に忘れられた現代の女子教育の一面を刺戟する事があればこ祈つてをります

■萬國君代の提灯■

李王が伊藤公と共に地方を巡幸された時の事である、何處も非常の歡迎であつたが、平壤へ行つた時フト見ると大きな提灯に萬國君代と麗々しく書いてある、其れが一箇ではなかつた、随從して行つた連中、何れも其意味を知るに困しんだものだ、其處の有力者に聞く〳〵聞いて見ると、有力者は苦笑しつゝ『實は平壤では遂に斯様な大きな提灯が出來ない、其處で大阪へ注文した迄は好かつたが、提灯屋の方から何う書くかと聞いて來た、早速韓國の國章を書いて呉れと云つてやつた處が、其れが明らかでなかつたものと見へ又た何う書くかと問ひ合せて來た、最う時日もないので電報で『マンコクキミヨ』（萬國旗見よ）と返事を出した、提灯屋の方では何う感ひ違ひいたしたものか、電文を其儘『萬國君代』と書いて送つて來たが、最う何んとも致し方がないから此の通り……で大笑ひ……

關釜連絡船

	朝	夕
釜山發	七、五〇	八、三〇
一日	朝、對馬丸	夕、博愛丸
二日	朝、壹岐丸	夕、高麗丸
三日	朝、對馬丸	夕、博愛丸

婦人手藝品展覽會

開期　九月八日より三日間
會場　本社來青閣に於いて

主催　京城日報社　每日申報社

出品締切　九月五日午前中まで
出品心得　住所姓名價格明記の事

祝拾五周年

京城本町一丁目
喜樂館
電話長五九七番

朝鮮人參
京城本町一丁目
津村兄弟商會
電話一八七〇番 一四八〇番
振替京城三五一一番

京城本町三丁目
金物商
近藤安吉商店
電話一五六二番

文房具紙帖簿
測量器械、運動具
京城本町一丁目
シノサキ商店
電話長六四八番 一三〇三番

京城本町一丁目
秩父織元 出張店
ちゝぶや
電八九〇番

京城南大門通リ二丁目
朝鮮自轉車株式會社
電話一二二三番
振替口座京城八一九番
支店 全北全州大正町一丁目
電話二〇三三番

京城黄金町二丁目
明治生命保険株式會社
中村陣
電話長九番

一般銀行業務親切確實取扱
資本金貳百萬圓
株式海東銀行
京城府南大門通一丁目

富野繁一
京城旭町一丁目

京城南米倉町（電話長九三〇番 三八〇八番）
蛇目鑛業所
所主 蛇目萬次郎
支部 元山旭町十六番地 電話三一八番

鎭南浦三和町
富田合資會社
京城本町二丁目
富田出張店
三和高麗燒、三和編手提、統營螺細工漆器朝鮮特産

大和與次郎

京城本町二丁目百十番地
宮林泰次商店
電話長一〇四五番 二六三九番
振替口座京城六二二四番

時計眼鏡貴金屬商
中村時計店
京城本町一丁目
電話一一七番 振替京城三四六番

京城本町一丁目
金物商
佐野彦藏商店
電話一三六番 振替京城一二〇二番
千代田火災保險會社代理店
千代田生命保險會社代理店

京城本町一丁目
三中井呉服店
電話長三七番

穀物問屋
京城南大門通五丁目
齋藤又吉商店
電話長三一六番 二八一〇番

京城南大門通三丁目
丁字屋 洋服部 羅紗部
電話二二〇番 六九〇番

京城鍾路一丁目
東洋生命保險株式會社
京城支店
電話六五一番

京城黄金町
黄金館
電話一六三七番

大正博覧會銅牌受領・畜産工藝博覧會銅牌受領・拓殖博覧會銅牌受領・二十二回特産品博覧會銅牌受領
小林靴店
京城明治町二丁目
電話取次二五五一番

平安北道塔洞
古河平安鑛業所 所長
八巻隆一

朝鮮銀行

朝鮮殖産銀行

當分は放任せよ
父兄の手心が肝要
開校と小學兒童

小學校は愈々來る一日から始まるが學校側からの注意として某小學校長は語る「九月一日から始業する廿日迄は三時間

乃至四時 しか授業はしない、是は長い間の休暇の習慣を俄に變化させない爲です、恁うして廿一日から一定期の課業となる、學校でも此點に注意して居るのだから家庭でも學校が始まつたからとて豫習や復習を強いてはならぬさうでないと生理的の反動が來て

折角の休 みも無駄になつて了はぬとも限らぬ、學校の方では段々勉強するやうな習慣をつけてゆくから家庭でも其心持でやつて欲しい、まア本氣に勉強する氣になるのは十月頃からであらう此頃になつたら家庭でもほつ〳〵力を添て欲しいのです

四十日間 も自由に遊んで來た子供が學校に來て二時間でも三時間でも靜止の狀態で居るのは却々の苦痛である、其反動は乾度家庭に出る、此呼吸など心得て始業後暫くの間注意して放任して置く方が好い左もないと夏中休暇も不幸帳消しになつて了ふ樣なことが往々にあることを一言すれば

初秋の交 までは勉學の方面は學校に於て家庭では成るべく隨意に固苦しくさせないと云ふ心得を以て子供に對して貰ひたいのです

紅蓮の火焰 滿山を焦す
損害約二百萬圓
伊香保溫泉大火詳報

伊香保の大火に就ては取敢ず前號に於て報道したるが詳報左の如し

卅一日午前一時四十分上州伊香保町鶴屋旅館の二階より發火火は忽ち隣接せる村松旅館に延燒し火の手は瞬く間に千佐旅館及び千明旅館を一舐めにし尚小暮武大夫小暮金太郎旅館を始め蓬莱館並に伊香保溫泉取締所にも延燒し紅蓮の炎は

滿山を焦 しつゝ遂に全燒二百戸に及び伊香保は殆ど全滅の姿となり同四時漸く鎭火したり折柄伊香保町田口氏に避暑中なりし東久邇宮妃殿下には火勢猛烈なるより萬一の危險を思召され阪下の千葉旅館の前庭に御避難あらせられたるも幸ひ御無事なりき又

避暑中の 外國人約三十名は火事と聞くや逸早くも物聞山に避難し一同無事なるを得たり一時危險なりし伊香保役場及び伊香保小學校郵便局は幸に燒失を免れたり急報に接し縣よりは小森警視は警察署長消防隊を引率し直ちに高崎より電車二臺を特發し同地に急行又

前橋より も電車を特發し消防に盡力したるも水利の便惡しき爲め悉く燒失するに至れるものにして電燈は消滅し電信電話は不通となり約二千三百名の浴客は算を亂して逃げ惑ひ阿鼻叫喚の街と化し死傷者頗る多き見込なり尚同地には西園寺侯牧野男爵小松侯爵大河内子爵安田善三郎氏古河虎之助氏其他

各階級の 人々の避暑し居る者多かりしも何れも無事なり發火の原因は未だ不明なるも前記鶴屋の二階三階との中間より發火し瞬く間に屋根裏に燃え付きたり折しも午前六時を告ぐるも餘燼猶ほ熄まず前橋より之を望めば大火柱天に沖し宛然榛名山頭峰の一角が大爆發をなせしが如し損害約二百萬圓に達すべく同町の禍害は今回にて二十三年目なり（前橋電報）

給仕の見た 我社の幹部
無くて七癖十人十色
古參給仕

無くて七癖有つて四十八癖とやら、人にはそれ〴〵長所と短所とがあるもの、無論そのレッテルの違ふやうに氣質も異ふ。不肖吾輩（笑つちや不可ん）京城日報社の給仕として職にある事茲に三年、長からずと雖も亦本社では古參の方、從つて社內の情勢に通じて居る事に於ては何人にもヒケは取らぬ心算である、是から御披露に及ぶのは吾輩が此の三年間心靜かに觀察した我社幹部連の棚卸し、社並に社員さしては何よりも目出たい今日の記念日のエピソードとして讀んで頂きたい。

加藤社長 鷹揚で太つ腹で小さい事にコセ〳〵されぬ所ヌーボー式とでも云ふのであらう、然も血もあり淚もある、社員を愛する事子の如く、一旦信任したら何處迄も引立てる、無論泣いて馬稷を斬るなどと云ふ事は滅多に出來ぬ人である、從つて社員も『申分のない社長』として特別の敬意を拂ひ、社長の爲なら假令火の中水の底……と云つた意氣込で居る、志操高邁眼中唯國家あるのみと云つた風で近來は『朝鮮及び朝鮮人』の爲に肝膽を碎いて居られる、併し洋服は似合ぬからと云つて、年中和服ばかり……タツタ一度、吾輩は社長の洋服姿を見た事があるがイヤ早や宛で樂天のポンチ畫そつくり（オット是は內證々々）却々の酒豪で所謂斗酒猶辭せずと云ふ方だが、いくら飲んでも玉山正に崩れた事はない相な、料理屋にでも行つたら何時も帶を忘てられる方で、到底藝者に惚れられる柄ではない……

藤村支配人 京城日報社の大黑柱で、京城日報の盛衰は一に懸つて其の双肩に在ると云つても決して過言ではない實際京城日報社を今日の隆運に導いたのは此人である此人の不斷の努力である、最も經營困難なりと稱せらる新聞社の支配人として成功して居るのであるから、如何に此人が非凡の才能の持主であるかが窺しられるであらう、然し有體に云ふと此人は決して權謀術數を得意とする人ではない、何處までも至誠に生る人である、石橋を叩いて渡る人である、總ての畫策は健實の上にも健實を旨とし、そして漸を追うて一歩〳〵と進む主義である、從つて華やかな所はないが其代り滅多に失敗はない……是れ實に京城日報社をして今日あらしめた所以であらう、一見年寄の樣な若い樣な複雜な顏をして時代遅れの背廣に小柄な體格を包んだ所、有難いやら心細いやら此の人も亦到底女に緣が有り相には思はれぬ、道樂と云つて別にないが唯葉巻と葡萄酒だけは思ひ切つて奮發する相な。

朴泳孝 書

早田主筆 羊羹色の紋付ヨレ〳〵の袴……何う見ても大道易者か田舍の神主さん以上には見奉れぬ風采、誰かつて此の貧弱な風采の持ち主が、半島言論界一方の重鎭として、常に諤々の評論に雄健な筆を揮ひつゝある人と思ふものぞ、齡既に〇〇を超ゆ社內切つての高齡者（？）であるが元氣倘鑠として壯者を凌ぐの慨あり、何處か超越したやうで氣六ケ敷いやうな點もあるが、其の云ふ事爲す事が一々痛快を極めて居るので、若い記者連中の間には人氣が好い、此人も亦斗酒猶不辭の方で紅燈綠酒の趣きをも解し醉へば必ず高吟する、趣味は却々廣く碁、將棋、撞球……何でも御座れと云ふ多能者、時にはアノ老體をテニス、コートに運んで若い記者連中の間に伍してラケットを揮ふ事もある、鳥渡珍らしい人だ。

松尾編輯局長 其の日その日の紙面を彩る材料の蒐集、表現の仕方等について畫策し其結果を部下に授けるのが編輯局長の主なる役目である、謂はゞ編輯局長は編輯局に於ける活動の根源をなし、其活動如何は直に紙面の實際價値に影響するのであるから、却々重大な職責と云はねばならぬ、從つて單に畫策が巧い……と云ふ丈では不可ない、畫策が巧いと同時に部下を自由に操縱する手腕が必要である（ナニ給仕の癖に生意氣だこイヤ是れは聞き嚙りさ）所で松尾局長は此點に於て先づ遺憾なし矣、但正直な所を申し上げると編輯局の主腦として餘りに溫厚篤實である、餘りに几帳面過ぎる、餘りにビヂネスマン的である、從つて快刀亂麻を斷つ底のキビ〳〵した所は多く見られない……とは同人間の下馬評である、社中屈指の好男子昔は紅顏の美少年として多くの異性を惱ました人、曩に最愛の天人を亡ひ今や全く『孤獨の悲哀』に泣く、知らず破れたる戀の頌へに泣いた人々の怨みか否か、エヘン……

奥田理事 奥田直毅を知らぬ人はあつても『鯨洋』と云へば知らぬ人はない位古い新聞記者である、我社創設以來舵を操る事茲に十有五年、今や我社の元老、我社の生字引として崇め奉られて居る、土佐つぽとしては珍らしい程淡白な人だが何しろ長い間新聞記者をして世間馴れて居る丈けにすべて物事を韜晦する事に妙を得、何時でもヌラリクラリとして捉まへ所がないのには弱る、つまり要領を得ぬやうで得た人、要領を得たやうで得ぬ人とでも云はうか、是れ又一種の人材と言つて好い、酒は強くはないが好きな方……そして陶然として醉へば必ず土佐訛丸出しで『アノなあ君、三寒四溫チウ事があるぢやろ、アレは僕が云ひ出したんぢや……』など、勝手な熱を吹き、愈々佳境に入つて來ると必ず藝者を罵倒して怒らせる、斯て夢か現の神境に入れば盛んに親不孝聲を張り上げるのであるが、此の聲たるや宛ら泣くが如く訴ふるが如く聞く者をして思はずハクションを連發せしめる。非常に輕卒い人で、曾て錢湯に行つて人の足を洗つたこいふ話さへある。

中村理事 達摩さんの若い時を見るやうに可愛らしい人だ、禪に凝り固まつて居る故か容貌、風采、言語、動作……すべて是れ脫俗して居る、恐らく面壁九年の苦業を積んだなら本當に達摩さんになれるかも知れない、有名な虎溪の三笑が禪の極致ぢや善哉々々こいふので自ら三笑と號して居るのを見ても略其の志の在るところが窺はれやう、禪道に熱心な君は又なか〳〵の朝鮮通で其朝鮮語は內地語より巧いと云ふ評判……刻下の朝鮮問題についても獨自の見を持つて居る、元來短氣な人らしいが毎にニコ〳〵して滅多に怒色を表さぬのは全く修養のお陰であらう、居常悟り澄して居る人だから例の方は何うかと思つて訊いて見ると『美しいものは矢張り美しい、美人に對すると惡い氣持はしませんねハツハ……』と被仰る、是だもの吾輩などが煩悶するのも全く無理はないよ、戀慕するも一夢、戀せざるも一夢、色即是空々即是色……喝!!

祝拾五周年

大連市濱町四拾號地（電略ドック）
株式會社 川崎造船所大連出張所
電話 事務所 長七一〇　宿直室 七一一〇　技術部 九六五　倉庫 一四七五

大連市若狹町
大連木材株式會社
電話長一一四八六番 一八五六番
振替口座大連一四四八番
受信略號（タイレンモクザイ）
發信略號（モク）
支店 安東縣一番通
出張所 京城府漢江通
製材工場 安東縣一號通
同 新義州鴨川町

大連市大廣場
朝鮮銀行大連支店
電話 二五番 一四〇〇番 二〇三八番 二一四〇番 二四〇〇番

大連市西通
滿洲殖産株式會社
電話 三七三番 三七四番

大連市近江町
東洋拓殖株式會社大連支店
電話長 一三五五番 二三四〇番
振替口座大連一九七八番
受信略號タイレントタク

大連市薩摩町シ區六號地
臭水子土地建物株式會社
電話一七八三番
事業 大連市外臭水子に於ける理想的田園都市の經營

營業種目
北支那產各色天然スレート
裝飾・階段・突台・敷石用各色石材
採掘 製作 販賣
スレート屋根葺工事請負
其他嶄新建築材料一式
大連市敷島町四十九號地
東洋スレート工業株式會社
電話一一四九番 電略（トス）又は（ト）

資本金貳千萬圓
大連市浪速町三丁目
大連郊外土地株式會社
電話三五一番
本社經營地 老虎灘會嶺前屯
事業の目的 理想的田園都市の建設

大連市紀伊町六拾九番地
貿易商 興安號
電話長一七一四番
振替貯金大連一一二三番
天津支店 天津佛租界二號路四五 電話三二四〇番

大連市三河町三十二番地
關東木材株式會社
製材所 山城町海岸
出張所 鞍山藏前通一

大連市隱岐町拾七番地
特産物貿易商 利富隆洋行
電話二四一六番 電略（フ）又ハ（フウ）

大連市西公園町一一三區ノ一一
日清生命保險株式會社
大連支社
本社 東京丸ノ內

直輸出入貿易電氣機械器具
一般工業材料金物商軍需品業
大連市寺內通第參號地
喜野商會
電話長一二四五番
振替口座大連一八五一番
電信略號（キ）

大連市羽前町十二號地
仁來錢莊
電話代表番號五〇九〇番

東洋石材工業株式會社
各種石材採掘販賣大理石、花崗石、工業用
設計加工及取付、石材ヲ原料トスル各種工業
其他附帶事業石灰製造販賣
本社 大連市紀伊町四十九番地（電話一五四四）
大連工場 大連市山城町海岸通（電話一四七四）
石灰工場 大連市外北岡子海岸
大阪工場 大阪市東區谷町一丁目十五番地（電話東一一三番二一五五番）
青島出張所 青島山東町一九番地（電話六八四番）

最新式機械製責任品
商標 ヤスリ製作
大連市小崗子南曉街六番地
滿洲機械工業社
電話 二三九〇番 二八六一番

祝拾五周年

京城太平通二丁目
高田商會京城出張所
電話長二四二番

京城南大門通五丁目
三好和三郎
電話一五三番

京城明治町二丁目
小川旅館
電話二五五一番

京城黄金町二丁目
東京建物株式會社
京城支店
電話二三八一番・長一六八一番

京城本町三丁目
藤富國太郎商店
電話長三〇八番二九〇二番

京城本町三丁目
野田時計店
電話長二八七四番

京城太平通貳丁目
德國顔料廠
長電話壹壹參壹番

朝鮮京城南米倉町市場
内外青果物貿易
海産物雜穀
岩城商會
店主 岩城馨
有價證券株式現物賣買 岩城商會現物部

白玉ポートワイン、香竄葡萄酒、白玉苺酒、発泡イチゴ酒白玉、発泡リンゴ酒白玉、八ッ葉アンス酒、各種果實酒、各種色酒
製造發賣
朝鮮京城若草町六十一番地
明神組商會
電略メイ(又ハ)(マ)
電話二七一四番

各國時計類、貴金屬製品、眼鏡類販賣、測量製圖諸機械類修繕
朝鮮京城府本町三丁目
市川啓藏
電話一一〇五番

京畿道水原山樓里
水原印刷株式會社
電話一二六番
專務取締役 **香山弘**

京畿道水原山樓里
果實 苗木 種子 農具販賣
香山商店
電話二六番

藥品各種繃帶材料活命液
朝鮮人參丹 本舗 朝日ハイトリ紙
東洋製藥株式會社
京城黄金町三丁目
電話長七二四番 振替三八五六番

京畿道水原慈惠醫院
藤井班象
千葉元枝

京畿道水原郡廳
朝鮮總督府郡守
藤澤亮

各種時計貴金屬寶石類製作販賣
京城本町二丁目(電話八七六番)
富士屋
本店京城明治町貳丁目
支店滿洲奉天・出張所東京・大阪

京城南大門通三丁目
東京火災保險株式會社
京城出張所
電話一〇六〇番・振替京城二六六番

京城府本町一丁目
印章彫刻名刺印刷
千代田號
電話九八七番 振替口座九八七番

水原南門外市場
活牛移出業
忽那新八
電話一一三番

京城府漢江通四番地
株式會社東產社京城支店
電話龍山一三番三三〇番
店舗所在名古屋豐橋一宮

水原山樓里
水原電氣株式會社
專務取締役
近澤虎之助

京城南大門通五丁目
米國エンゲルバルク精米機
直輸入與洋一手發賣元
曾我商店京城出張所
電話二一六八番 振替口座八九七番

京城林町
土木建築請負業
今岡熊之助
電話三〇六九番

京城旭町一丁目
中嶋印刷所
中島嶋二郎
電話二〇一八番

京城明治町一丁目
瀧川銃砲自轉車商店
瀧川翻江
電話三〇二番 振替京城六三八番
支店太田春日町二丁目
公州本町一丁目

羅紗綿絹麻織物輸出入商
株式會社 **睦商會**
京城府南大門通二丁目
電話長參五九番參參參五番
大連出張所 大山通二丁目
哈爾賓出張所 プリスタニ・モストワヤ街

朝鮮龍山聯隊前
東亞蠶絲株式會社
京城支店
長電話一三五番 振替五二九九番

和洋紙諸帳簿文房具諸印刷
京城本町一丁目
北内商店
電話一一五二番 振替京城一五九番

東洋拓殖株式會社水原支店
支店長 **矢野康**

水原南門外
代書營業
門前善七

京城旭町二丁目
林喜太郎
電話九九二番

醫療用藥品 化學用藥品
醫療用器械工業用藥品
嶋久商店
藥劑師 坂井峯太郎
京城明治町二丁目
電話一四四四番

京城本町一丁目
製菓博士
本城屋
電話二三四三番

京城黄金町三丁目
朝鮮金工株式會社
電話二四六九番

京城水標町五〇
松田自動車部
松田壽男
電話二一三八番

京城穀物商組合

京城黄金町二丁目
明治公債株式會社
朝鮮支部
電話一九〇八番

京城黄金町二丁目
囯材木店
電話一一四八番

旅行用大鞄及手提鞄名種製造販賣
高木鞄店
京城本町一丁目三六番地
電話二五四番一三四番
振替京城三四番

教育玩具小間物商
京城本町一丁目
織田東洋館
電話二六九八番 振替京城二五六七番

シヤツ各國洋服附屬品舶來雜貨
京城本町二丁目明治町通
富屋
電話二六九番 振替京城二九七一番

大島紬織元出張
勝久京城支店
京城本町一丁目四十九番地
電話一九〇一番

人蔘研究試驗部創製

高貴御宮家御常用の光榮を蒙る

靈蔘葡萄酒(レーサンポートワイン)

飲めば飲む程若くなる

定價一本 貳圓五十錢

到る處に販賣す若し無きときはハガキにて御注文下さい引換で送ります

純人蔘精腦 人蔘實母散 本舗 京城 **朝鮮製藥合資會社**
電話一三〇番 振替京城三八一〇番

寶玉はダイヤモンド
自動車はハドソン號

本店 東京赤坂
日本自動車株式會社
京城黄金町 京城出張所 電一三〇一番

諧話　富八

春錦齋柳櫻口演

エー今回は京城日報創刊十五周年記念とありまして何か十五周年に因んだものをとの御註文でありましたが何さま殺急の七に半僧と只今のところ此のやうな記念ものは下積みとなつて居りますのでオイソレと申す譯には參らず其の代り平つて恥のないお芽出度いところを一席伺ひまして御免を蒙らうと存じます。その昔富籤といふものが行はれました時分のことで　女房『何うするんだねお前呆れ返つちまうね、仕事もしないでぶら／＼遊んで居て、やれ昨夜こんな夢を見たから何うだとか、そんな事許り云つてる、餘り馬鹿々々しいぢやないか』　八五郎『何を云つてやがる箆棒奴ゑ、仕事をしねゑつたつてな、富といふものは、一つ當りやア一夜の中に分限になれるんだ、なア遊んで居て手でも叩いて奉公人を呼んで濟まして居られる身體になるんだ、よう幾らか都合して呉れ　女『幾らだつて出來ないよ』　八『そんな事を云はねヱで、一分二朱許り算段をして呉んねヱ』　女『算段だつてちう價値もありやアしないよ、お正月が來るといふのに、襟垢の附かない著物一つ引掛ける事が出來ないんぢやないか』八『無ゑたつて手前小氣體の利いた半纏を著てるぢやアねゑか、それを借して呉れ、一物で貸すものかね』八『貸さねゑ事はねゑ、番頭を談じて二分借りて見せる』女『いけないよ、之を持つてかれちまつたら何も他にありやアしない、いけないつたら……』八『まアいゝから貸せよ……貸さねゑか、貸さなけりやア毆るぞ』腕づくで到頭奴さん女房の著て居る半纏を剝いて、之を持つて質屋へ來ると、番頭を談じて漸く一分二朱借りて、湯島天神の地内に富籤が御座います、それへやつて參りました　八『昨夜の夢が大變に好かつた、あの夢の通りにいきやアうめゑんだが……おや大道易者が出てるな、此奴ア又素人より上手だらう……おい卜占の論さん』易者『は、身の上當用縁談事……』八『何を云つてやがるんだ、そんな事ぢやアねゑ、昨夜夢を見たんだ、一つ判斷をして呉れ、階梯の上に鶴が止まつてる夢を見たんだ、なア、はしごだから八四五だらう、鶴は千年だから、千八百四十五番といふ札を買へば、當るに極つてるぢやアねゑか、卜占なんぞ見て貰はねゑたつていゝんだ』易『何だお前さん、夢判斷なら夢判斷で、そんなにお前の方で云つて了つちやアいかない……何だね、富の札を買なさるのだね』八『然うだ』易『成程、お前が階梯の上に鶴が止まつたと云ふので、八百四十五、それを鶴が千年だから、千八百四十五番の札を買ふと斯う云ふんだね』八『うむ』易『大體ながら夫は素人判斷だ、階梯といふものは昇るものか降りるものか』八『つまらねゑ事を云つてる、階梯は上つたり下りたりするに極つてるよ』易『それには違ひないが、先づ鳥渡した話が、二階へ上つてる時に、階梯を引かれたらお前さん何うする』八『飛下りらア』易『飛下りる、では二階に急の用があつて上らうとする時に、上から階梯を引かれたら何うする……飛上る譯にはいくまい、素より上り下りの爲めに出來て居る階梯だが、上るといふ方が肝腎だ、それだからこれは下から上へ讀んで、千と五百四十八番を買つたらいゝやうに思はれる』八『成程々々うめゑ事を云ふ、流石は商賣人、餅屋は餅屋だ、有難うよ、左様なら』易『もし／＼、お前さん見料を置いていかないでは困る、私もこれ商賣だ』八『惡圖々々云ひなさんな、當つたら澤山見料でも何でも遣らア』……亂暴な男で、勇氣附いて天神の地内へ來て見ると、もう時刻が來て居るので人が一杯手を揉むやうでわア／＼いふ騷ぎ、口富に中富といふものを突きまして、最後が打止の千兩取、口富も中富も五十兩位取れるのださうで、打止となると人間が宛然沸立つやうになつて居ります、寺社奉行が二人出まして、重に子供が錐をもつて突くのださうで、四角の箱の中に札が這入つて居て、箱の四方は張つてあつて、眞中に穴が開いて居る、坊さんが出て來て大般若の讀經が終り、箱の兩方へ二人の坊主が手をかけて、がら／＼と振る、中へ手は這入りませんが、振つて札を攪廻すやうなもので、錐を持つて小坊主が出て來て、突きますと云ふ聲が掛かると、沸立つてるやうな騷ぎの人間が、忽ち水を打つたやうに寂然としてしまひます、眞中の穴へうまく錐を打込む、錐の尖へ札がついてるまゝ手をつけないで衆人に見せて、其札に書いてある番號を讀上げる、子供の聲は能く透るもので千五百四十八番……千五百四十八番……聲が掛りましたが中々急には聞こゑません、かの八五郎の耳へそれが幽かに透りますと、前の方へづか／＼と出て來たが、三度目に又、千五百四十八番と……呼上げる途端に、う、ん……○『ヤア大變だ、引繰返つた人がある』△『癲癇だ癲癇』八『もう大丈夫……癲癇ぢやア御座いません』○『大層慄ゑてる、お前さん何だ』八『富が當つた』○『へ、當つた、ヤア此人が當つた』と云ふとわアわツての騷ぎ、大勢の人に扶けられて、帳場の樣なものが出來て居る、それへ八五郎來たが、只眞青になつて、がた／＼慄へて居る許り、其頃千兩の富に當つて氣が違つた人があると云ひますが、その譯で帳場『さア何卒此方へ、何しろ確乎なさい、まアお目出度う……其處で今直に金子をお受取になると二割引になる來年の二月晦日にお渡し申すのだと千兩全取になりますが……』八『來年二月、何だつてそんな欺罔の事をするんだ』帳『欺罔といふ譯ではないが、それはちやんと極つてるんで、全取ならば二月、今なれば二割引』八『二割といふと幾何になる』帳『二百兩、それだけお前さん損をするんだ』八『二百兩、引くと後は幾何だ』帳『八百兩』八『八百兩……八百兩と千兩とちやア困る、千兩の中二百兩減るから八百兩だ』八『有難うがす、お呉んなさい、直にお呉んなさい』帳『何だ、然う騷がないでも上げる、なか／＼湛張るよ八百兩と云つちやア』八『なに大丈夫だ、諸所へ入れて行くから』帳『ぢやア能く勘定をして受取つてお呉んなさい』手拭に包み褌へくるみ、袂へ入れ、身體中金だらけになつて歸つて參りました　八『おう今歸つた』女『大概におしよ馬鹿々々しい、此暮に押詰つて何所をまご／＼遊んでるんだい、何ぼ何でも餘まりぢやアないか、もう私は愛想が盡きたから、暇をお呉れ、離緣をしてお呉れ』八『何を云つてやがるんだ畜生奴、愚圖々々云はねゑで其所を締めちまへ』女『何だね』八『泥棒が見るといけねゑから締めちまへ』女『泥棒なんぞ見たつて何も持つてく物はありやしない』八『馬鹿にするない……『箆棒奴ゑ、斯うなりやア大名だ』女『何だねお前氣が違つたんぢやないか、確乎おしよ、陽氣が惡いから』八『何を云つてやがるんだ、後を締めろといふことよ』女『大丈夫だよ、誰が見るものかね』八『さア驚くな』ざく／＼と懷中から金を摑み出した、女房は一時氣を失ふ許り　女『まア驚いたね、當つたのかね』八『當つたのよ、けれども泥棒に狙けられるといけねゑから無闇に人に喋舌るな手前はお喋舌だから』女『云やアしないよ、だからね、ちよい／＼富は買ふもんだつてね』八『戯けやがるな、手前離緣して呉れと云やがつたぢやアねゑか』女『それやア、まア困るから云ふんだけれど

も、當ると思やア云やアしない、妾だつてこんな襤褸を著て居るのは厭だ、春著の一枚も欲しいから、之程お金があるなら、襟垢の著かない著物位著せてお呉んな』八『何を云つてやがる、こんなに金があるんだ、何んな扮裝でも出來らア、春は一番立派な扮裝をして、然うして表店へでも出て商賣でも始めやうと思ふんだ、何ももう心配することはねゑ、なに店賃の借がある、そんな物は構はねゑから持つてつて返しちまへ、序に三年分許り前へ取つといて呉れと然う云ひねゑ』女『何もそんなに使はないつたつて、お金といふものはずん／＼減るものだから、普通に使つてればいゝが、頭の物だけ少し欲しいね』八『何でも買ひねゑつて事よ』女『珊瑚珠をおみつさんが懸けてるのを見て羨ましいと思つてるんで、三分珠だらうね』八『吝なこを云ふない、一尺の珠位を捺へろ』女『そんな仰山のものも要らないけれども、それにお前だつて春著を一つ捺へなくつちやア、いけない』八『當然だ當然だけれども、何日も印の半纏を著て、旦那の供許りして居るから來年は一つ俺が年始を廻らう、就ちやア旦那のやうな扮裝をして行きてゑな』女『旦那の著るやうなものつて社杯かね』八『何だか知らねゑが、突張つた變なものを著て、袴を穿いてな』女『兩方だから社杯だよ、社杯を著ると云へばもう袴はいらない』八『然うか、何でも構はねゑ、其奴を誂らへて呉れ』女『誂らへつたつて、もう間に合はないから、市ケ谷に甘酒屋といふ古著屋がある、其所へ行けば何んな物でも出來たのがあるから、其所へ行つて買つておいでよ』八『其奴ア有難ゑ』女『それから社杯を著るにはお太刀が一本ねゑ』八『構はねゑか』女『一本差す分には構はない、何うしても無いと形が惡いよ甘酒屋へ行けばすつかり支度は出來る、あの近所に刀屋があるだらうから序に買つてお出で』八『よし、然ういふことにしやう、何しろ俺が居なくなつたら、男切がねゑから泥棒でも這入られると仕様がねゑ、家を閉めて心張をかつてな……』女『こんな事をしないでも、晝間だから大丈夫だよ』奴さん勘定もしないでざら／＼金を摑んで腹掛へ入れて甘酒屋へやつて參りました　八『おう番頭さん』番『いらつしやいまし、印半纏長半纏或はお羽織襦袢のやうな物、種々此方に御座います』八『何を云やがるんだ、馬鹿にするな、こんな長半纏の汚ねゑのを著て居る身體が冷ゑて困るんだ、こうだが、懷中にやア金がありすぎて社杯て奴を知つてるか』番『へゑ』八『來年は一つ景氣好く、社杯著て年始をやらうてんだ』番『へゑ、貴方が社杯がお入用で御座いますか』八『然うなんだ、著物から帶から社杯から殘らず一つ揃へて呉れ、刀もな』番『刀は手前共には御座いません、刀屋はこの先の牛込に二軒許り御座います』八『然うか、ぢや、著物をお前のところで殘らずな』番『へえ夫れは殘らず揃へます、御紋は何で』八『へ、』番『御紋は何で御座います』八『御紋つたて、然うさ、俺の紋は何とかいふ奴だ、あのう圓い所へ何よ』番『大概圓とか、菱とか又は角も御座いますが、圓に何で御座いますか』八『ゑ、それ圓の中で、何だか尻が三つ固まつた樣なもんだ』番『あは、酸漿で御座いますか、酸漿は劍が御座いませうか』八『何だか解らねゑ、いゝ加減な奴を一つ見繕つて呉れ』番『へゑ、この方は如何で、お社杯は種々御座いますが、これは龍紋で……』八『何でもいゝから柄に合ひさうな奴を悉皆揃へて呉んねゑ、後生だから』番『へゑ／＼……へゑ、之と之で』八『よし／＼、それで幾何だ……なに十兩、其奴ア餘り廉過ぎるな、遠慮なく取んなよ』番『いゑ、手前共はおまけも致しませんが代りには決してお懸値も致しません』八『然うだつてね諸を聞いて來たんだ、併しそんなに廉くつちやア氣の毒だなア、ぢやア此中で十兩丈け取つて呉れ、なるだけ性のいゝ金を選出してな、惡いのは構はねゑ捨ちまひねゑ』番『へゑ、御元談ッ』八『其所で之を持つてつたん、とても自分では著られねゑから著せて呉んねゑ、濟まねゑけれども小僧さん、何からやら／＼いふ、うむ雪駄よ、彼奴ゝ足袋を一足買つて來て呉れ……』悉皆支度をして拂ひを致し小僧に祝儀なぞをやつて、後の金は懷中へ入れ突袖をしてのそ／＼出掛けました　八『今日は』刀屋『いらつしやいまし、小僧お茶を持つて來な、何卒旦那此方へ』八『旦那といふ程の者でもねゑが、少し儲かつたから、斯ういふ扮裝をして年始を打つくらはせやうと思ふんだ、ところでお太刀を一本極めてゑんだが、金錢に締目はねゑから何でもいゝ奴を見せて呉んねゑ、幾ら高くつてもいゝ』刀『は、左様で、ゑ、何か作にお好みでも御座いまするか、又お拵へその他……』八『愚圖々々云はねゑで、まア相當の物を見せて呉れ、なるたけ高い立派な奴でなくちやいかねゑ』刀『へえ、これは如何で』八『それはいかねゑよ、白いぢやアねゑか』刀『いえ白鞘で御座いますが、お揃ひは何うでもなります、中身だけ御覽下さいまし』八『幾何位かゝる』刀『これはお揃ひを別にして二百兩で願ひます』八『うむそんなに高ゑのか、夫れぢや些とよすぎる、もう少し廉いのを見せて呉れ』刀『左樣、少し重う御座いますが、何か新刀になりますと、格護で御座います……この方が是で七十五兩』八『うゑむ、些と高ゑな、何も人を殺す譯ぢやアねゑ、上ツ皮だけ鳥渡立派に見ゑればいゝんだ』刀『へえ、左様なれば此方になさいまし拵へ附五兩』八『うむ、此奴ア豪氣だ、濟まねゑが差込むのを敢へて呉れ……おう小僧さん種々働かした、お小遣ひをやるよ』刀『いゑそんな事を御心配下すつては……』八『なに構はねゑんだ、金がありすぎて仕様がねゑ……』立派になつて歸つて來た　女『あれ著て來たのかね、仕様がないぢやアないか』八『仕様がねゑつて、自分にやア著られねゑから著せて貰つて來たんだ』女『家主さんが來たからお前の話をしたら、お前さんが歸つた時分に又來るつて……あ、お出なすつた……』八『それは有難ゑ、家主さんお出なさい』家『おや／＼大變に八さん立派になつたな、何うも大層なもんだ、併し年始の支度には未だ早過ぎる、元日に行くんだ』八『けれどもまア鳥渡景氣に著けて見やうと思つて、買つた所から著て來たんで……』家『何しろお目出度かつた大晦日のことだ、幾ら借金があるつて御同樣に、我々貧乏人はどれ位借金が出來るものぢやアない、まア何にしろ家賃が七つ溜つてる』八『よう御座います、七つでも八つでも受取つてお呉んなさい……』家『恐ろしく金を出すな、そんなには要らない、七つだけだ』八『七つなんて正直な事を云はねゑで、二年分取つて、お置きなさい』家『そんな事をしないでもうこれからは溜る氣遣ひない、俺も倶々に眞に嬉しい』八『有難う御座います、そこで家主さん、年始に行く文句が解らねゑんだが、先方へ行つて何と云つたらいゝんで』家『何と云ふつて極つてる、明けましてお目出度う御座います、舊冬中は何かとお世話樣になりまして有難う存じます位の事でいゝ』本年も相變らず御晟屓にとか何とか云ふんだ、商人でも職人でもそれだけの事を云やア充分だ』八『それが何うも困つたなア』家『何にが』八『何うも人中へ出て口がきけねゑんだから……何うでぜう、もつと威勢よく、お目出度う位の處ぢやア濟みませんか』家『それはいかないね、大概扮裝相當の言葉といふものがある、社杯を著けて行くからにやアその位の事は云はなくちやアなるまい、何日もの印半纏を著て居る時なら只お目出度うでもよからうが、何うも社杯や袴羽織では然うはいかない、併しお待ちよ、もう些と短いことゝいふと……あ、斯うしたらよからう、先方と顔を合せれば、何れ先方でお目出度う御座います位の事は云ふに極つてるから、此方でもお目出度う御座いますと、叮嚀に云ふんだ』八『けれども何うも家主さんの前だが、先方の眞似をするのは氣が利かねゑ』家『然う贅澤を云つては困る……ぢやア斯いふのが一番早くつていゝ、御慶と……』八『へゑー、それは何でげす』家『お目出度いと云ふことだ』八『へゑー符牒かね』家『符牒といふ奴があるか、御慶とそれだけ云ふんだ、けれども春の事だから、口を濡らして歸すといふ處から、まア鳥渡一口お屠蘇をといふ所がある』八『それはいかねゑ、そんな事をして居たら廻り切れねゑ』家『けれども先方もお世辭だから是非云ふよ、まアお上り下さいと云ふに極つてる、然うしたら永日にと云ふんだ』八『へゑー、御慶だけはうまく通ればそれでよし、お上んなさいと云つたら永日てんですつと歸つて來ればいゝんで……』家『先づ然うだな』八『へゑ、有難う存じます、それだけ教はつていけば大概大丈夫だ』サア奴さんの家では大した景氣だ、餅屋は餅を搗いて來る、酒屋は酒を持つて來る、併し分限になつて大晦日は寢るどころでは御座いません鶏がカアと啼ない中に年始に飛出さうといふ騷ぎ　女『何ぼなんでも近所で寢て居る者はないからお寢みよ』八『馬鹿ア云へ、大晦日に寢る奴は馬鹿だ、何處でも皆起きてる……さア社杯を著けて呉れ、愚圖々々するない、もう元日ぢやアねゑか』夜の未明に飛出したが、大晦日から起通しで居る人もある位故元日は早いもので』八『何しろ先へ長屋を廻つて了はうだが、家主さんの所へ一番掛けに行かなくちやアならねゑ……家主さん今日は……』家『やアお目出度う』八『へー、へ……』家『考へてちやアいけない』八『へ、御慶』家『やア』八『永日』家『早いな、まアお上り』八『有難う御座います、まだ何しろ皮切だからうまくいかねゑ、是から長屋をずうつと歩くんで』家『結構だな、お、八さん、お太刀がないな』八『あつ然うでしたね、嬶が疎忽しいもんだから忘れて來た……やアいかねゑ／＼、お太刀を忘れちまつた、家主さんに催促をされたぢやアねゑか』女『道理で形が惡いと思つた』八『箆棒奴ゑ、形が惡いつて手前が氣が利かねゑからだ……さアこれで好い……糊屋のお婆さん』婆『おや／＼八さん、大變に立派になつたね、まア……お目出度う』八『何を云やがる、御慶……』婆『何です』八『素人だなア、まアお上りとでも云はねゑか』婆『お上りと云ひたいけれども、種々な物が取散らしてあるから……』八『永日だい畜生……おう喜之、未だ寢てるのか、御慶……』喜『へ、』八『御慶』喜『誰だ』八『俺だい』喜『何だ』八『御慶』喜『解らねゑ、お前の云ふことは』八『永日だ』喜『何だ』この工合で長屋中を悉皆歩きまして、それから友達の所を一々歩きまして、どん／＼／＼八『今日は……居ねゑな』どん／＼／＼八『此所に友達が三人住つてるんだが留守のやうだ、お隣家の小母さん』婆『おや／＼お目出度う御座います、何です』八『金太や竹の野郎居ませんかね』婆『何だか昨夜のうちに話合つてあつたと見ゑて、今朝恐ろしく早く何所かへ行きましたよ』八『へゑー、留守ぢや仕様がねゑ……御慶を一つくらはせやうと思つて來たんだ』婆『何だか解りませんが、何しろまアお上んなさいな』八『永日だ……ゑ、畜生忌々しいな、此儘歸るなアつまらねゑ、何所へ行きやアがつたらう……ヤツ來やがつた／＼三人揃つて來やがつた』金『ヤツ八公、冗談ぢやアねゑ、大變な扮裝をして來やがつたな』八『なに、手前の所へ年始に來たんだ、面を見たらお目出度ゑ位の事をいへ』金『いや恐れて濟まねゑ、どうもお目出度う』八『御慶……』金『何だ』八『御慶といふんだ』金『何だ、變な事をいふな』八『まアお上りと云はねゑかい』金『なに、上るも上らねゑもねゑぢやアねゑか』八『何を云やがる、相手が惡いなア、こん皆々……御慶だい』金『あれ、お前のいふ事は一體解らねゑ、何を云つてるんだ、鶏の鳴聲見たやうなことを……』八『解らねゑ奴だなア……ぎよけいツたんだよ』八『うむ裏方詣りによ……』

京城大和町一丁目
大倉組出張所
電話長二五八〇番
長二一〇四番

京仁
羅紗附屬品商組合

城西界洞
京城鐵工所
所主　二宮常一
電話一一三番

京城南山町二丁目四拾參番地
株式會社 中村組農林部
電話長一九六〇番
振替京城五六六八番
九月十日ヨリ前記ノ個所ニ移轉ス

京城黃金町壹丁目
西鮮殖産鐵道株式會社
電話一三五〇番
一六二七番

京城黃金町一丁目　建築材料部
內外興業株式會社京城出張所
京城長谷川町　自動車部

京城土木建築組合
松本組
荒井組
間組
盛陽社
堀內組
北陸土木株式會社出張所
西本組
阿川組
志岐組
鹿島組

京城本町二丁目
巴城館
電話長三一番五〇七番

京城旭町二丁目
不知火旅館
電話一二一番長七一九番

京城南山町二丁目
天眞樓
電話六四九番長七一三番

京城本町二丁目
山本旅館
電話長三五番三六番

京城本町一丁目
清光館
電話一三五〇番

京城本町二丁目
浦尾旅館
電話長一〇三番一一七番

京城南山町三丁目
京城ホテル
事務所及食堂電話四九一番
旅館用電話一一三番

長春より

[illegible]

祝十五周年

祝安東支局新築落成

安東縣市場通 書籍文具 新聞雜誌 運動用具 弓倉文榮堂 電話三七番 電略ユミ(又八)ユ

安東縣市場通四丁目 滿洲東洋服 政府指定 近藤洋服店 電話一二番 電略(コ)

精肉かしわ 安東縣魚菜市場 福元巳之助商店 電話四四七番

安東縣四番通 青田文三

安東縣上川端町 安東硝子株式會社 電話五三七番

燐寸軸木製造販賣 安東縣六道溝 德和製軸所 豐田信二

安東酒商組合(イロハ順)
一鶴 本莊支店 電話一七番
白鶴 鶴屋酒店 電話三二二番
金露 大塚合名會社 安東出張店 電話三一〇番
白鶴 小方洋行 電話四九七番
櫻正宗 富久娘 三巴商店 電話一三三番 一〇四番
白鹿 宮川支店 電話三二〇番

新義州運送業組合(イロハ順)
西村組 主 平林正一 電話一二一番
二和運輸組 主 裕田市太郎 電話一四七番
㊂運送部 電話一四二番
北方運送店 電話一五〇番
朝鮮運輸部 電話二〇番
大同運送店
渡部運送店 電話四五番
內國通運株式會社 取引店 松隈六太郎 電話四七番
永井運送店 電話七〇番
八幡運送店
滿鮮運送株式會社
宮澤運送店 電話一六四番 電話三三番
新義州木材株式會社 運送部 電話一八番
末田運送店 電話一三番
㊀運送部 電話一四二番
㊉運送部 電話一六二番
㊎運送部 電話一三三番
共同組運送店
新義運送店
大成運送店 電話一〇ホ

株式會社 新義州銀行 平北新義州府 電話五〇番

安東縣九番通一丁目 木材貿易 ㊄宏泰號 青木快三 電話一八四番

安東縣六道溝 株式會社 滿鮮鐵工所 電話三三六番 電略(マテ又はマ) 販賣部 市場通三丁目三番地 吉林出張所 吉林城外新開門

木材木炭商 安東縣市場通三丁目 福盛洋行 赤松宗吉

特產物貿易商 鄭家屯 日進號出張所 森山幸一

南滿洲鐵道株式會社 安東販賣課出張所 電話三六九番

南滿洲安東驛前 朝鮮運輸聯合會加盟店 南滿洲鐵道株式會社京城管理局承認 朝鮮總督府承認稅關、中華民國海關 貨物取扱 通關 北華運送株式會社 電話五一二番 振替 大連一一〇二番 京城五九七番 電略(ヤ)又八(ヤマ)

滿洲安東縣江岸通一丁目 安部油房製品販賣 豆粕豆油栗雜穀取扱 日陞公司 電話日本三貳・一九三・貳九五 支那一貳二 電略(ヒ) 振替貯金口座京城四二六番 豆粕豆油製造業 合資會社 安部油房 右代表者 金井佐次

三井物產株式會社 新義州木材取扱所 新義州本町 電話一一二番 新義州製材工場 同鴨川町 電話四四番

營業科目 製函 製材 原木賣買 木材委託賣買 木材保管 同伐採及流筏 新義州製函株式會社 新義州鴨川町 電話一三六番

楓葉染料エキス製造販賣 棉絲レルケット染色加工 並ニ硫化染料製造販賣 滿鮮染料株式會社 本店 新義州府本町 分工場 安東縣六道溝

原木賣買製材製函 支那安東縣六道溝西澗通 合資會社 南滿洲製材公司 電話(四八番 一七番) 電信略號(マセ)

安東縣旅館組合 イロハ順
花園旅館 電話三七五番
松屋旅館 電話一六六番
元賓館 電話四五番
富久壽美旅館 電話四七番
小林旅館 電話架設中
安東旅館 電話五七番
新陽館 電話五四二番
日の出旅館 電話二四七番

朝鮮新義州 ㊅朝鮮材木株式會社 電話(二四五)發信(チ又八(チサ)) 振替口座京城(四七三〇番) 運送部 本社內 製材工場 新義州鴨川町 電話(六一番) 支店 京城黃金町三丁目 電話(二四六四番) 出張所 義州郡北下洞江岸

鴨綠江製紙株式會社 南滿洲安東縣六道溝 電話三〇五番

三井物產株式會社 安東縣出張所
日本燐寸株式會社 安東縣製軸所
大六製材所

合資會社 鈴木商店 新義州出張所 新義州製材所 電話一七四番
輸出入貿易 火災海上並運送保險代理 合資會社 鈴木商店 安東縣出張所 電話三七八番

大連汽船株式會社 安東縣出張所
出張所事務所 安東縣舊市街 電話二五 中電話一二番
安東倉庫 安東縣江岸通 電話三六 中電話一九〇番
新義州倉庫 新義州瀧町 電話一五七番

日華合辦 鴨綠江採木公司 電話番號 受付 二一番 秘書課 五九番 事務室 一六番 三七二番 總務課 一七五番 貯木所 一四五番 沙河鎮分所 三一番 漂木整理部 二六五番

滿洲錢證交換株式會社 電話 日一三六番 中一三六番 日四八番 中一九五番 日一九〇番 信託公所專用 受信略語 アントウケンカネセ 發信略語 カネセ 又八(カセ) 振替口座 大連貳七壹九 京城七五八
大連支店 大連市奧町六九 電話長一八五一番 一八九一番
舊市街支店 電話五一八番 中國電話一九五番

朝鮮商事信託株式會社 一、木材雜穀商品不動產及有價證券ノ賣買仲介並ニ委託賣買 二、前項ニ對スル資金ノ貸付及保管並ニ財產ノ管理其他信託業務 新義州本町五番地 電話一四一番

鑛業坑木及木材鐵道枕木並ニ木材ノ生產販賣植林其他ノ附帶事業 滿鮮坑木株式會社 安東縣壹番通三丁目 電話一三〇番

朝鮮銀行安東縣支店
滿洲商業銀行
安東銀行
協成銀行

㊂日滿證券金銀信託株式會社 安東縣市場通八丁目 電話二五七番 電話二三八番

土木建築請負業 慶島組 大連出張所 主任 太郎木田垣二 安東派出所 主任 高井末

…又も…川水し…鐵道線の… 河水の増水二丈餘に達し…五尺に達し漸次増水せり雨尚歇まず橋梁其他全部墜落し四圍の交通旅行杜絶せり人心恟々たり（全州特電）

李王世子殿下 優等にて御合格

陸軍大學初審試驗に 洪中尉も合格す

陸軍歩兵中尉李王世子垠殿下には近衛歩兵第二聯隊第十二中隊附として軍務に勵まれつゝあるが本年十二月陸軍大學御入學の爲め曩に初審試驗御受驗の所優等にて御合格相成たり又朝鮮出身にて歩兵第一聯隊附として陸軍省人事局補任課勤務歩兵中尉洪思翊氏も同陸軍大學初審試驗に合格し再審試驗準備中なるが朝鮮出身の合格者は之を以て嚆矢とする由（東京特電）

爆彈のお見舞よりも 大本教が畏しい

思想方面の研究を……と 滯鮮中は成るべく多くの人に接して 川村警保局長語る

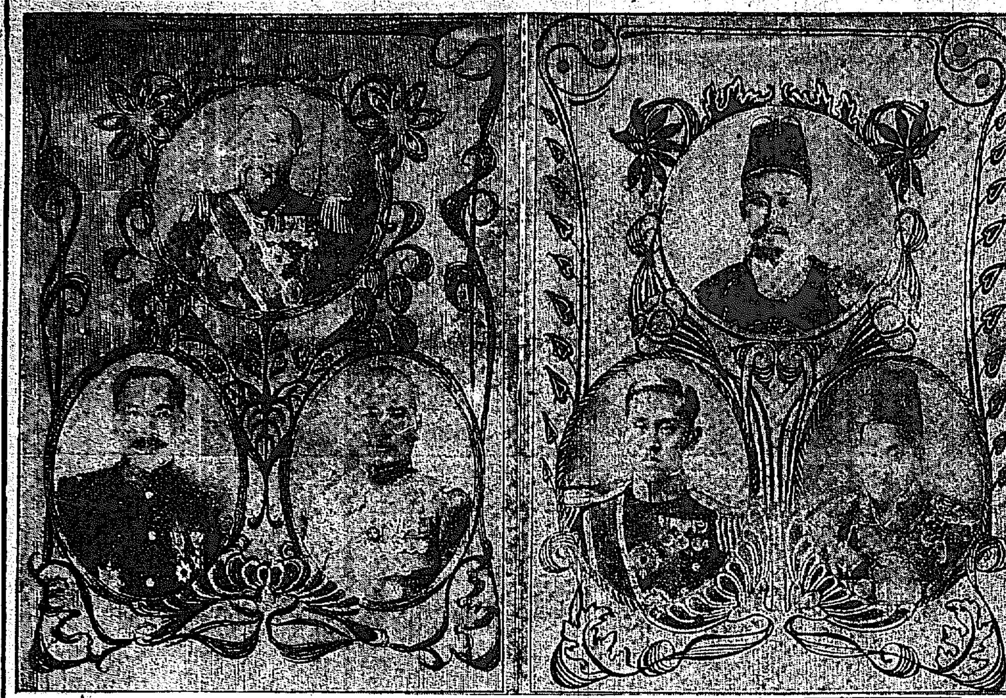
三十一日朝釜聯絡船高麗丸より上陸したる川村警保局長は棧橋に於て往訪の記者に語る

今回の渡鮮 は御承知の如く朝鮮總督府に於ける道知事會議列席の爲である。一行は朝鮮と最も密接の關係ある山口縣知事中川望君一人であるが尚ほこの外福岡大阪兩知事も參加の筈であつたが總督府の交渉が遲れたので間に合はなかつたのは遺憾である。僕の用務といふのは

民情 …鮮人であるから先づ會議に列席して大體鮮人の歸趨を識りたいと思ふて居る。隨つて滯鮮中は成るべく多くの人に接觸して思想方面の研究を遂げて參考に資したい。京城滯在は二三日の豫定であるが是非共鮮人危險思想の淵叢地である平壤に赴いて特に視察がして見たい。何に！

視察中爆彈 のお見舞……そんなことは、お門違ひだよ、東京市中だけでも鮮人約一千五百餘名程居るが中過半は問題の留學生だから朝鮮の爆彈の御厄介にならぬでも受けるなら疾うに東京で見舞はれて居る筈だが、未だ御覧の通りピンピンして居る。夫れよりは例の

大正日日を 買收した大本教から熾に怨まれて何んでも閻魔帳の筆頭に載つて居るさうだから朝鮮の爆彈見舞より此方が畏ろしいやうだと哄笑して居たが、長途の疲勞も見わす至極元氣なりき（釜山電報）



京城日報初號の附錄

日曜學校大會參列者 歡迎茶話會

一行二十二名を主賓とせる 景福宮內の交驩

入城中の日曜學校世界大會參列者廿二名は卅日京城府內の觀光を終り午後四時より景福宮內、慶會樓に於ける國際親和會主催の歡迎茶話會に臨んだ。一行が

自動車六臺 を連ねて景福宮に到着するや待ち設けたる親和會側の美濃部、前、渡邊、高等法院長以下多數と堅い握手を交はし續いて歡迎會主席の淑女連とも握手を交はす一行中の婦人連は有繁に女同志の一層打解けて發來ない日本語でオハヨウ……サヨウナラ……なぞと連發し最う快よい笑ひ聲が慶會樓の寂寞を破る。仁王山三角山の偉容は近く迫り

景福宮內の 濃綠は浸り光る慶會樓を圍み池には蓮華の紅白も氣高く白鳥の群の水面を緩く泳ぐ一帶の風光は青丹の殿堂と照映して美しさ限りなし、一行は此風光に嬉々として卓に就き主客膝を交へて懇談し總督府より柴田學務局長、松永外事課長、今村通譯官出席し民間側は美濃部、前本、渡邊、丹羽等の親和會委員以下

紳士淑女は 茶を喫ひながら佳賓と卓を圍めば和氣靄々として國交親善の喜びが溢れた所で一行は朝鮮の現狀に對する正しい了解を得て午後五時半散會した

表彰式

勤續社員 本社來青閣にて擧行

本社創立第十五年記念日を祝するに際し入社以來勤續精勵恪勤他の模範とするに足る社員に對し三十一日天長嘉節をトし午前九時より本社樓上來青閣に於て表彰式を擧行せり席定まるや

加藤社長は 表彰の理由を說明したる後勤續十年以上の社員十二名の勤勞著なりし功勞を述べ賞品を授與したり表彰されたる社員賞は左の如し

勤續十五年（金時計金鎖メダル附）奥田直毅▲同十二年（銀製國旗壹個銀製香爐壹個）藤村忠助▲同十一年（同上）中村健太郎▲同十二年（銀盃壹組）國弘金八▲同十一年（同上）古海德兵衛▲同上李者▲同上李基鎬▲同上徐相學▲同上李斗鉉▲同上金興瑞▲同上李興植▲同十五年同上成明鎬

是に對し表彰されたる人々を代表し藤村忠助氏鄭重なる謝辭を述べ十時散會したり又仁川支局長今井省三氏は大正四年仁川

支局經營の 衝に當り鋭意社業の進運に資する所極めて大なるを以て銀盃一個を贈呈して之を表彰し大正二年以來社業の進展に努力し功勞顯著なる開城支店長李熙德氏に銀盃一個を又慶北支局長張相轍氏に銀製洋盃一個を贈呈し又多年京城日報取次販賣を開始し爾來販路の擴張を圖り社業に貢獻する所勘からざる町田文治郎、森賀市吉村源治の

二氏に對し ても銀盃一組若くば一函を贈呈し其功勞を表彰せり

十年間の京城日報（記事參照）

朝鮮銀行に保存せらるゝ 十年間の京城日報

初號よりの愛讀者は頗る多いが 其の保存者は絶無であった 賞金百圓は朝鮮銀行へ 其の以前のものは處分したるも

九月一日の本紙創刊十五周年に當り初號から本紙を購讀し現に新聞を保存せる向に對し一百圓を贈呈するの社告を致しましたが

初號より愛讀し てゐると云ふ方 々は頗る多數に上るけれどその保存者は遺憾乍ら遂にありませんでした乃で本社は止むを得ず賞金贈呈の標準を一格下げて新號より愛讀し而して最も古くから本紙の保存をなせる向に賞金贈呈をなす事となりましたその結果朝鮮銀行は前身たる

第一銀行總支店 時代から本紙を 購讀し現に明治四十四年三月一日以降十年間本紙を保存されてあるので三十日本社員は不破秘書役を通じ賞金一百圓を同行に贈呈致しました――本紙の保存につき大田同行理事は『もう十年になるのかなア……』とその當時を追想しつゝ『明治四十四年の寒僕が調査方面の事務を執るやうになつてから

朝鮮の代表的新 聞たる京城日報 並に東京大阪及び滿洲の有力新聞一種宛を保存する事に決定したこれは鮮報の存續する限り永久に續ける方針である當時一銀より引繼いだ京城日報は初號よりあつたやうに記憶するが外の新聞とゴッチャになつてゐたりし整理上面倒なので代表新聞保存のかと考へる』と語られました

十五年前の追懷

會寧附近の戰鬪 架けた橋の名が二合橋 大庭朝鮮軍司令官の談

『吾輩は朝鮮には可なり緣が深い、その中でも忘れぬのは滿十五年の北韓軍從征當時の追憶であるこ齒切れの好い調子でかう云つて、

將軍は 天井をぐつと睨みながら徐ろに語出した。『丁度元山から上陸して城津迄吾軍の行程を急速で徒歩前進し、それから鏡城の敵を掃蕩して、忽ち之を占領し、更に前進する中に大洪水に遭遇した、大に閉口した事があつた、其時には一日分の糧食が 師團長以下

恐く 一合に 減食されたのだから堪まらない、何しろ糧食が研究が附かないんだから仕方がないそれでも我勇敢なる將卒は少しも閉口たれず志氣旺盛、雨に祟られて糧道杜絶し兵は架橋に怠らず、大いに戰鬪の前に努力したものだ、そこで其時架橋した橋の名が『二合橋』こいふのだ、どうだ隨分

奇拔だ らうそれから糧食の細先も漸くついたと、間もなく半減橋が出來、『四合橋』が出來、遂には『五合橋』迄が架設された、そして歩武堂々前進を開始した鏡城の附近即ち吾軍の到達が命名した會寧川の地區に到着した、すると敵は對岸の高地から猛烈に射撃を加へる、そこで我軍も之に

應戰す べく砲兵が將に火蓋を切らんとする一刹那實に間一髮だ、一天忽ち掻き曇ると見る間に、豪雨沛然として來り濠々として咫尺を辨ぜぬ、師團長は前の經驗よりして、若し此處に於て河水が氾濫したなら前後の糧道を杜絶せられて一兵も殘らず餓死を見るであらうと是を顧慮して既に對岸に迄攻撃前進した

騎兵隊 迄呼び返して一齊に或地點迄退くの餘儀なきに至つた其時には參謀部迄も大丈夫で、吾が軍が最後に渡河する時は馬上ながらも危險を感ぜずには居られなかつた、斯うした辛酸を嘗めつゝ會寧を占領した時には休戰條約となつたのである……』と當年を追想するもの、如く

嬉やか に笑ひながら珈琲の茶椀を執つた。

檢事斬らる

犯人は元抜手で誇大妄想狂

三十日午前十一時三十分東京地方裁判所次席檢事金山季逸氏（三）は鹿児島縣人入田昭治（三）の爲め二尺五寸の大刀にて斬付けられ長さ二寸深さ三寸骨膜に達する重傷を背部に負ひたるが一月にて治癒す可し犯人は元宮崎縣抜手にて誇大妄想狂なるが恐怖觀念に襲はれ此兇行を演ぜるものなり（東京特電）

支那留學生 不穩

米國議員團の入京で

九月二日入京す可き米國議員團を迎へ在留支那留學生の間に何等かの示威運動を起す兆候あり先づ基督教青年會館に一行を招待し演說會を開く計畫ある由にて其筋にては警戒し居れり（東京電報）

…宿屋荒し 鐵路署に捕はる

初め卅日貫鐵洞一九四番地信行旅館にて止宿人なる慶尚北道榮州郡李豐煥の金時計現金百十圓其他十三點卅九圓九十錢の品を竊取したる平安南道平壤下水里口一三八番地前科二犯李鳳聖（三）は本月廿五日盗難を見たるが近く東京地方裁判所刑事第二部田山豫判長係…取調べ中なり

佳き日の京城

雨の爲め極めて靜肅

天長節八月卅一日は夜來の雨斷續して晴模樣も見せず二百十日を明日に控へた爲か險惡なる雲行に暗雲低迷し南山を被ひ

朝來微雨 頻りに至りたるが正午頃よりは雨も少し止みこなり時に晴模樣の日さへ見せたので大路小路の戸毎に飜る國旗も涼風に吹かれ靜かな祭日氣分に暮て行つた。悉ての祝典は擧げて十月の

天長祝日 に譲られてゐる上に雨天なので府內は極めて閑靜殊に府內の公休日なので本町通なども寂寥を極め劇場や活動寫眞常設館なども何處も午から開館して大入滿員の模樣であつた

都市其ものに大なる愛着を

市政に對する市民の自覺を促す 都市經營問題に就て 田中半四郎氏は語る

最近京城の有識者間に都市經營問題に關する輿論の沸騰しつゝあるは既報の通りなるが同問題に關し田中半四郎氏は左の如く語つて居る『京城市民は一般に

市政其もの に對する 概念が乏しいのみならず京城市に對する信念と云ふものが無い又府廳の如きは新事業に着手せんこする前に必ず經費の問題に就て躊躇逡巡してるやうだ其歴史では京城市の面目を一新し將來に備ふる都市の經營は決して完全に行はるべきものでない吾輩などは市政を立場こして活動する場合は常にソシャリストである、歐米の實例に徴して

市民は先づ 自己の生活すべき都市其ものに對して頗る大きな愛着を持つてるだから彼等には國家は第二義であると云つてもよい位である斯くの如く何れの場合にあつても都市經營は重大なる急務であるのみならず市民全般が市其ものに參與する底の自覺を以て立たねば到底京城の都市經營に對する向上發展は期すべくも無い事である。現に京城の如く

水道濫用の 狀態を見ても都市生活に自覺を持つて居る人間が幾何あるか？疑問である又京城大通りの如き殆んど三百六十五日街上路面修理を行つて交通上多大の不便を感じておる是等も交通警察と土木との連絡の協調を欠いでるからで現在維持の狀態では到底京城市の

刷新は難い 哉である』

一擧兩得の策

運河を穿ち堤防を築け 龍山治水策懸賞論文二等に入賞せる 龍山 木村稔氏談

今回御社の龍山水害防止策論文募集に私が二等に當選したのは望外の幸ひでした。私は龍山に永らく住んで居て度々水害にも遭遇した經驗もあり、防止策に就ては多少の研究をして居りましたが、今度の

大洪水 に際して御社が率先してこの問題に着眼し廣く治水策の意見を徴せられたことは私共龍山に居住して居るものに取つては感謝に堪へない次第です。私が記憶して居る過去十數年間の洪水として今般の大洪水が一番のレコードを示し從つて

被害も 亦甚大でありました。然し記錄に殘つた洪水としては過般の洪水よりは約二尺の水を見たことがあるさうで、之は二村洞附近の榎に當時の水深が記されてあると云ふ古老の話です。そこで私の考へとしては過般の增水より約三尺高さの

築堤の 必要があると認めて築を立てましたが、築堤に要する土砂を如何なる方面から採るかが問題なので、一方小運河を設けて排水の便を圖ると同時に運河の土を以て築堤用に充つれば一擧兩得で經費も節減され、一方河床其他

低地を 損ふことがなくて良いと云ふ見地から築を立てました。但運河の事に關しては…遊さの交渉も問題ですが要するに龍山の治水策は龍山の消長に大なる關係を有するばかりでなく焦眉の急を要する問題ですから此の際龍山市民は自發的に此の問題を解決せねばなりません此の點に於いて私は遠大なる計畫や

架空の 論理を斥けた『可能なる治水案』を立ることを眼目と致しました。

…の惨死者數を示さば府內は…在住男三名…女…可洞島に於ては患者十名中死亡者女四名現在患者六名中男四名女二名又龍遊に於ける患者は三名これも陰性疑似患者にして三名中男一名女二名永宗島に於ては計…

霞ヶ關離宮

移轉されん

宮內省では從來外國貴賓御來朝の際唯一の御旅館として使用してゐる霞ヶ關離宮をば議院建築の完成を待つて芝白金舊陸軍火藥庫跡に

移轉す べき計畫を立て目下頻りに研究中である、その理由は新議院は霞ヶ關離宮の裏手に接する高臺で完成の曉には離宮を眼下に見下し將來外國貴賓の御旅館として敬意を失せんかを慮つてゞある右に就き宮內省の小原內匠頭は語る『左樣霞ヶ關御離宮の件は芝白金の

火藥庫 跡に移轉したらよからうと云ふ說もあるがまだ之れと云つて決定するまでに捗つてゐない、又此の霞ヶ關離宮は全然取り毀して了ふなどと云ふ說もあれ小さな御用邸として存續しようと云ふ說もあるが永い間にはどんな變化するか先きの事は知れぬ目下東京に於る御離宮の中迎賓館として使用するに濱離宮は全然だめで霞ヶ關離宮が唯一の迎賓御旅館で頗る

不充分 を感じてゐる場合だ……目下敗地としては白金火藥庫跡一ヶ所あるのみで研究問題には上つて居るが決定には至らぬ併し近き將來には何れへか建築しなければなるまい』

終熄か

京城の虎疫

卅日の新患三十九 京城の虎疫は卅日三十九名の新患を出だせるが此內警察署別にすると本町三、東大門一、鐘路四、西大門四、龍山二十七にして此內近郊部所生の分は一四にして二十五は府內の發生なるが主として龍山にして當方京城は逐日終熄期に向ひつゝあるものゝ如し

木浦も終熄

交通遮斷解除

木浦は虎疫終熄し卅日より市內交通遮斷區域は全部解除されたり（木浦特電）

佛大使持餘しの飛行機

石橋氏の手に落つ

既記佛國大使持て餘しの飛行機スパッド式戰鬪機三臺は其筋大使館にて希望者殺到して殆ど處置に窮し結局入札競賣に附することとなり去る廿五日同大使館に於て入札を行ひ茲に佛國より歸朝せる佛國飛行少尉石橋勝氏の手に落札したり新品と同一臺約二萬圓の價格あるも僅四千圓にて三臺悉く同氏の手に歸し同氏は直ちに受取の爲め門司陸軍倉庫に急行したが一臺を陸上機となし更に一臺を陸上機となし一臺は水上機とし來る十一月の大阪四國九州の郵便飛行に參加する計畫なり

二百十日は 靜穩ならん

或は雨か

三日以來の天候は兎角定まらず午後に至りて時々驟雨性の雨を降らせるが二百十日に近づける卅一日午前二時頃より曇天に加ふるに降雨あり京城測候所に就て聞くに今の處朝鮮全土に亘つての天候には大變化もあるまいと思ふ內地では二十八日來十沖へ現はれた颱風が或ひは一般へ現はれるかも知れぬが朝鮮半島では低氣壓が急變する若くは突發的に現はれぬ限りは先づ二百十日は無事であらうと至難を述べて或ひは降雨かも知れぬが今日の處大颶風の兆候は現はれて居ない云々

奈良に遊びて

米國議員團一行 古代美術に驚きの目を睜る

米國議員團一行の中三十七名は三十日午前十時五十三分奈良着多數の出迎ひを受け帝國博物館に到り本邦古代の美術に驚きの目を睜りつゝ正午奈良ホテルに晝食を喫し午後一時より春日神社大佛等を巡覽し同三時縣公會堂にて平野知事の挨拶あり同四時二十七分發列車にて京都に引返せり（奈良電報）

各學校始業

府內各學校の暑中休暇も八月卅一日限りを以て終了本日より第二學期の授業開始となりたるが各學校に於ては午前中始業式を擧行する筈

各地最高溫度

京城 七十八度（三十一日午後二時本社觀測）

（三十日）

大連		八十六度
安東縣		七十八度
海州		七十八度
咸興		七十六度
元山	雨	六十八度
清津		七十五度
木浦		八十六度
群山	雨	七十九度
大邱	曇少雨	八十四度
鳥致院	晴	七十六度

…二十六日鴨綠江上流輯安縣…せる爲め人心恟々たりこの入…其筋に禀せり（安東縣特電）

剣舞 (九一)

碧瑠璃園　挿畫　森田ひさし

やつぱり恩 (二)

『お孃さん、あなた飛んだ災難でしたな』

高橋辯護士は世馴れた語調で云つたが、すぐ續けて『あなたは其の御證書を御覧になつたことは無いのですか』

『はい見ません、然し、妹はたしかに二十圓と書いたと云ひます』

ただ何方とも決心はついて居なかつたけれど、助一は斯う答へざるを得なかつたのであつた。

『すると、證書の金高は、御令妹の手でお書きになつたのですね』

『ん、然』と、やつぱり氣の無い聲で云つて『お花こゝへ來てお前から話をなさい』

『はい』とお花は膝を向けて、やつと自分の世界が開けたと云ひたさうな顔をして、當時の事を細かに語つた

『二十の十の字はどの字をお書きになりました』

『一二三の十の字を書きました、容易い方の十の字です』

『それだからその上にノの字を加へて、二千圓と讀ませたのでせう、宜しい、わたしが仇を取つてあげます、あべこべにその家へ執達吏を向けて遣ります、お任せなさい』

高橋辯護士は熱心に云ふ、助一はそれを彈き返すことが爲きなくて

『どうか宜しく願ひます』と云つて終つた、後で考へると、高橋の前に頭をさげるのは、美智子の前に頭をさげるのと同じであるのに氣付いたが、今さら何うすることも爲きなかつた

彼の努力は今日もまた何にも役立たなかつた、千圓の金を美智子の面上へ叩きつけて、男の意地を見せやうと思つた事が、美智子の爲めに裏切られて、次第に彼の女の術中に落ちて行くやうな不安を感じた、實際美智子も今になつては戀でない、意地にも初一念を貫かうとする念力に外ならなかつた、助一はまたその念力に負けまいとする意地の爲めに、血も湧き肉も躍るやうな思ひをする、美智子の智慧と、助一の智力とが、意地と意地とを根に持つて、こゝに勝負を爭ふのである、智惠が負けるか、智力が勝つか、それは事件の落著きを見ねば分らなかつた

『するとあなたは早川の不法に抵抗して見るお覺悟ですか』

高橋は改まつて訊いた

『美智子さんの御厄介にならなくて、勝を制する見込みがあるのでしたら、一つ爭つて見たいと思ひます』

『それなら委任狀をお書きなさい、手續きはわたしの方でします』

高橋は折鞄から印刷した委任狀の用紙を出した、助一はそれすら辭退する詞がなくて、云はるゝまゝに姓名を書いた、そして明白に印を捺した

『此で宜しい、では、わたしは失禮します』

高橋は美智子に向つて頭をさげると、その儘に出て行つた

『これでわたしも安心しました、高橋さんに願つてさへ置けば、あなたの爲めに惡く計らつては下さらないでせう』

『いや、どうもお手數を掛けました』

助一は再び彼の女に禮を云はなければならぬ破目に落ちた、口惜しい〳〵と思ひながらどうしても頭を下げる成行きになる、その度に眦裂るほど悔しむのを禁じ得ない

『こんな嬉しいことはございません、わたくし初めてあなたの晴やかなお顔を見ました、これも高橋さんの御盡力で、早川さんが敗訴になつたら、わたくしの望みは半分以上も成就した事になりますわ』

美智子の滿足は助一の不滿足になる、助一は千圓の金を持つたまゝで居るのに氣付いて、それを右の手に引きずり出すと、投げるやうに美智子の前へ出して

『失禮ですがこれはお返し申します』と仇を取つたやうに云つた

新刊紹介

◆上海公論(八月)　支那を視ふ米國と正義人道の表裏(岡江郡次郎)支那文化の根本問題(石山福治)南支南洋の意義に就て(黒田周一)其他經濟文藝等を滿載(一圓支那上海昆山路一號上海公論社)

◆西洋歷史(龜井高孝氏著)　本書は中學四五年生徒の參考用として編されたものではあるが我が國に於ける西洋史學習の本來の窓を顧みて單に斷片的の史實を排列したるが如きことなく一貫した政治上の潮流並に西洋文化そのものゝ理解に導くべく編された書である(二圓四十錢東京市日本橋區本石町博文館)

◆山本勘助　長篇講談斯波南嶽(定價六十八錢東京博文館)

◆刀の研究(六ノ八)　本阿彌家の人々(宮津綱太郎)堀川國廣に就て(川口陟)其他刀劍界唯一の雜誌(五十錢東京市下谷區茅町二ノ三睡人社)

◆利殖之友(八月)　合理的利殖主義(小西壯長)其他記事滿載(廿錢東京市京橋區南八丁堀一ノ一利殖之友社)

◆日本魂(八月)　尼港事件の前後(後藤武夫)國體研究(吉田熊次)國體運動と群集心理(柴田一能)其他記事滿載(廿五錢東京市京橋區櫻橋南側日本魂社)

◆講談倶樂部(八月)　本號は夏季増刊にして意外〳〵と題す妾の證文(大橋專波)悲夫人の腕(江見水蔭)又意外(伊藤銀月)骨風呂(高橋雨城)其他面白き讀物を滿載(七十錢東京市本郷區駒込坂下町四講談社)

▲電氣會社に告ぐ　若草町の或部分は月に一二回はかならず電氣が消へる本町通を見れば良く燈つて居るがどうしたわけでしよう料金が少しは安いでしやうが今少し氣を付けて安全にしてもらひたい(若草生)▲南大門より米倉町の間に於て車に積み行く荷物を巧みに拔取る乞食チヨンガー四五人あり小生見咎めたるも數度なり警察で乞食チヨンガーを嚴重に取締つて下さい又運搬人も良く氣を付けて車の後ろを御用心なさい(注意生)▲近頃本町筋で煙草の空箱にローソクを燈して其の傍に萬年筆を四五本並べて鮮人がしよんぼりしやがんでゐる其の前には一見購買者の如く粧ひたる内地人が居て通行人をして該萬年筆を買ふ樣にすゝめて居るが彼等はたがいにぐろになつて絶對使用に堪へざる粗惡品を巧妙なる言を弄して二圓乃至二圓五十錢の高價(品物に比較して)に賣付けるのである賢明なる讀者諸君よかゝる詐欺的手段に乘らざる樣御注意あるべし尚當局者の取締を望む(正直生)▲京城の活動寫眞界も漸く活氣を戻して來た樣だが同時に吾々見物者の眼もおとらず發達して來た此の上は三館一連の御奮闘を望む目下府内三館を通じ説明辯士としては喜樂館の石田辯士大正館の宮島辯士黄金館の南鶴辯士是等三名が人氣の勝利者と成つて居る樣だ此三名を一館に集めたらさぞ面白からん益々御勉強を祈ふ(活動狂)▲私は足部に濕疹ができて中々頑固にて全治せず甚だ困つてゐますが適藥御存じの方は御教示を願ひます(平北義州の讀者)▲本年四月產牡小犬(狆)愛犬の方に差上げます(吉野町ワイ生)

名家將棋新手合(一)

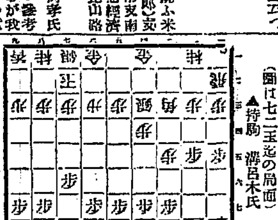
於東京淺草寺田梅吉氏宅

香落　八段　△關根金次郎(東京)

六段　▲溝呂木光治(京城)

(圖は七二玉迄の局面)

▲持駒　溝呂木氏　ナシ



▲溝呂木　△關根

△三四歩▲七六歩△四四歩▲二六歩△三五歩▲二五歩△三三角▲一六歩△三二銀▲一五歩△四三銀▲四八銀△一二飛(イ)▲六八玉△六二玉▲七八玉△七二玉▲五八金△九四歩▲九六歩△五二金▲五六歩△八二玉(ロ)▲四六歩△三四銀▲五五歩△七二銀▲四七銀(ハ)以下次號

講評

△(イ)一二飛は端よりの仕懸を避ける穩和なる手段なり

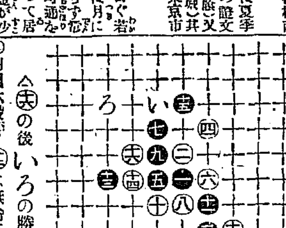
△(ロ)八二玉は五四歩と避ける方位良し

▲(ハ)四七銀は早し此處六八銀順也

聯珠競技(第十七回)

先手勝　三段　神代石雲

二段　橋本華山



△(十六)の後いろの勝

○内田六段評　(十三)は無論反對に止めざる可からず(廿)にて白に防禦の手なし

九月二日

(舊暦七月二十日)

▲木曜日▲癸亥▲四緑

▲暗劍辰巳▲友引▲井

▲平▲八専終▲三隣亡

▼四緑▲紛亂の日奇襲に遭ふ事あるべく油斷大禁物新事に見合せ

▼五黄▲兎角迷惑なる問題に衝き當り易く成敗損の日衛生注意

▼六白▲不如意がちの日新事凶

▼七赤▲喜憂共に相半ばするの日大事は控目にして不利を免る

▼八白▲中途にして氣挫ける日

▼九紫▲諸事好都合に運ぶ起業開店求職披露入學結婚其他皆吉

▼一白▲嚴適任と認めらるゝ日官吏會社員は昇級商人は收得

▼二黒▲進んで損失を招くの日

▼三碧▲親み厚く少々の事は腹の立たぬ日概ね何事にも上々吉

祝五拾周年

表具材料疊材料板硝子花莚類　京城黄金町壹丁目　日本建具株式會社　京城支店

京城黄金町二丁目　時計卸商　喜多金光堂　貴金屬製作卸　電話一〇一五番　振替口座京城七八二番　豐國火災保險會社代理店

海産物　食料品　雜穀　問屋　京城南大門市場　池尻林太郎　長電話三五一番　振替京城八六番

京城本町二丁目　日の丸小間物店　長電話一九二〇番　振替京城二九四三番

京城永樂町二丁目　龜屋染工場　電話一五八五番　振替京城四三八四番

北海道材、鴨綠江材、家具用材、床廻用材、ロクロ挽物地、家具木取、椅子卓子　雜木各種　朝鮮京城黄金町壹丁目　本明雜木店　長電話三七五番　振替京城五七三番

諸雜貨・直輸入・卸商　瀬戸勝兵衛商店　京城南大門通二丁目　電話二七一七番　振替(口座)京城二四〇一番　電信略號(セ)又ハ(セト)

歯科　京城旭町一丁目　齋藤英壽　電話一四一四番

美術婦人小間物　有名石鹸化粧品　卸問屋　月本政次郎商店　京城明治町二丁目　電話貳貳八番　振替京城七四二番

名古屋酸素株式會社滿鮮代理店　京城酸素鎔接所　京城長谷川町九一　遠藤　電話二三八九番

京城本町三丁目　橋詰呉服店　電話一八〇一番　振替京城一五六番

福田家　明治町二丁目　電話一三二〇番

諸紙卸商　京城本町一丁目四八　江里口和吉商店　諸紙販賣部電話一〇三〇番　振替京城一〇三三番　印刷工場電話二九一番

織物商　古賀福太郎　京城南大門外　電話長二四〇番　振替七一八番

京城明治町二丁目　傘提灯商　大島良吉　電話一六三五番　振替口座一一七七番

砂糖、諸粉　製菓、原料　京城本町壹丁目　澁谷商店　電話七七一番　振替京城四一九番

各國麻苧、綿糸ロープ、マニラロープ　棕梠並ニ麻細紐糸シデ紐玉糸眞田紐　京城本町二丁目六番地　森政吉商店　電話八三〇番　振替京城一七五八番

京城本町二丁目　森啓助商店　電話四三〇

京城旭町三丁目　洋家具製造工場

笑福旅館　京城府南大門驛前　長電話一五五一番

貴金屬品製作　高木勇商店　店舖　京城本町一丁目四十七番地　工場　京城黄金町三丁目　電話九百九十一番　振替口座京城九百番

鮮人向陶磁器商　京城太平通二丁目　三浦商店　電話一六六九番　振替京城一二二四番

私立京城女子技藝學校長　井上要二

藤田米三郎　京城本町二ノ八四　電話三一九番

帽子卸商　京城本町壹丁目貳拾壹番地　淀屋商店　電話八百十一番

綿糸布雜貨貿易商　仁川本町四丁目　河野本店　電話長一二八番　振替京城一二〇一番

阿波國共同汽船會社仁川代理店　撫順炭特約販賣並に海陸運送業　内外船舶代理店　野口商會　仁川府本町四丁目　電話一七三番　七五〇番

御旅館　旭旅館　仁川築港前　電話二五一番

貿易並ニ精米業　仁川萬石町　齋藤精米所　電話一三六番

合資會社　加藤精米所　仁川支店　工場　長電話五五一番　八四一番　電略(カ)又ハ(カト)

米雜穀貿易商　Ⓜ廣澤米穀部　仁川港宮町　電話長三〇七番　發電略(ヒロ)又ハ(ヒ)　△御委託誠實取扱

水原華城金融組合　理事　税所珪介

水原驛前通　雜貨商　杉本太一郎　電話一二番

水原南門外　水原金融組合

水原南門外　黑田金物商店　電話一三四番

朝鮮殖産銀行水原支店　支店長　中村孝嗣

朝鮮京城府竹添町二丁目五十七番地　工事請負業　機械輸入販賣業　設計並ニ監督　杉山製作所　電話長一八一番　電略號(スキ)

御旅行李　バスケット類　革靴ズック靴　支那鞄　並ニ袋物　但馬屋　京城府本町三丁目九七　店主北村清十郎　長電話二四八一番

製菓卸問屋　岡本福山堂　朝鮮京城本町三丁目　電話五六一四番　振替京城四六〇一番

京城黄金町二丁目　イバラキ自轉車商店　電話茨木九二七番

京城旭町二丁目　株式會社京城葬儀社　電話一五六七番

京城明治町二丁目　パン　木村屋京城支店　電話一八七〇番

京城南大門通三丁目　石油　川勝京城支店　電話一〇三二番

仁川驛前　中條運送店　電話六三〇番

仁川支那町　仁川水産株式會社　電話一八六番

仁川港町六丁目　内國通運株式會社　仁川支店　電話長二一八番　五五九番

會席御料理　仁川山手町　うろこ　電話六八番

仁川本町四丁目　米雜穀委託販賣輸出商　北島五郎商店　電話長一七二番　電略(キ)又ハ(キタ)

仁川宮町二丁目　料亭　榮亭　電話四一九番

仁川　郡山智

仁川山手町三丁目　株式會社奥田精米所　電話長六〇八番

仁川濱町　高等御旅館　仁川旅館　電話長四三五番

仁川本町　砂糖麥粉卸商　德永商店　仁川出張所　電話一四七

仁川山手町二　能治歯科醫院　電話三五〇番

仁川　後藤連平

仁川　松函石油組合

仁川本町二丁目　米穀商　平山松太郎　電話一五三番

仁川　穀物協會　電話三一番

仁川京町　雜貨貿易　赤松商店　電話七六六番

艀人夫請負　通關業　仁川本町一　福島組　電話五三五番

仁川本町三丁目　北島藥店　電話長三二四番

銃砲火藥・各種販賣　仁川仲町一　共榮社　電話長七五番　振替四五三一番

仁川花房町　増井運送店　電話五三九番

米雜穀委託販賣　尼ヶ崎汽船元取扱店　仁川海岸町二丁目　高杉昇商店　電話長五九番

仁川本町四丁目　磯永洋服店　電話二一五番

仁川濱町　吉田精米所　電話三一七番

米雜穀貿易商　仁川仲町二丁目　安井商店　電話長五一七番

京城本町二丁目　小間物化粧品商　松菊屋　電話二四六三番

京城本町二丁目　太平堂名刺舗　電話三三六七

京城本町五丁目　レインコート　卸小賣專門　東京屋商店　電話一五八四番

京城本町一丁目　近藤貴生堂藥房　電話一三八番

京城本町二丁目　松金　電話六八六番

京城長谷川町　貿易　河野本店　京城出張所　電話長二〇七五番

京城本町一丁目　やま玉足袋　京城岸田出張所　電話一〇二一番

京城黄金町一丁目　自轉車及附屬品直輸入　日米商店京城支店　電話長一七四八番

京城太平通二丁目　駿府商會　電話二一六一番

京城南米倉町　和田常一　電話五一一番

京城明治町二丁目　辯護士　小川勝平　電話長四一番

京城南大門通三丁目　共濟生命保險株式會社　京城出張所　本社東京日本橋區小舟町三番　電話一九四四